

毎ニ前同様ノ割合タルヘキモノトス

三九二

此方法ニテ塵芥ノ殆ント六萬噸ヲ取扱フヘキ必要アリ、而シテ此一時的臨時處分全ク好結果ヲ奏シタリ、此方法中酸類ヲ用ヒタルハ塵芥ノ腐敗ヲ防止スルノ用ヲ爲シ、灰ハ全ク塵芥ト混和スルニ至レリ、斯クテ塵芥ハ全ク分解サレテ乾燥シ何タル危害モ之レナキモノトナレリ

却說一時行キ惱ミノ姿トナリシ彼ノ私立塵芥處分會社ハ遂ニ二十七萬五千弗ノ代價ヲ以テ買收サレテ、充分ナル修繕ヲ加ヘ一千九百十四年六月中旬頃ヨリ實際塵芥處分ヲ開始スルコト、ナレリ

#### 市俄古塵芥處分設備

塵芥處分ノ事ハ既ニ前述セルカ如ク衛生局ノ管轄ニ屬シ、其事業ノ活動ハ衛生委員ノ指揮ニ從フヘク其處分法ハ乾燥法ヲ取ルヘキモノトス

此塵芥處分ノ設備及其活動如何ニ關シテハ研究調査スル所アリ、而シテ塵芥取扱上ニ就テ今此報告中ニ於テ簡短ニ述ル所アラントス

塵芥ヲ荷車ヨリ取卸シテ一時之ヲ取置ク所アリ、所謂塵芥倉ナルモノニシテ「コンクリート」ニテ作ラレ塵芥ノ量一千噸ヲ容ル、ニ足ルヘキナリ、而シテ此塵芥倉ノ下底ニハ二個ノ運搬裝置アリテ之ヲ他ニ引キ出スヘキ二筋ノ路カ設ケラレタリ、而シテ塵芥倉ノ前面ニ熱湯ヲ容ルヘキ大ナル「タンク」アリ、是レハ冬季ニ際シテ到着シタル塵芥ノ凍凝シ居ル場合ニ、其箱ト共ニ此熱湯中ニ浸シテ溶解セシメンカ爲メナリ、右

運搬裝置ハ都合三個アリテ内一個ハ臨時用ニ充テルモノニシテ概シテ二個ヲ用フルコト、セリ、而シテ此運搬裝置ナルモノハ若干ノ塵芥ヲ搗碎器ノ方ニ送致シ、既ニ搗碎シ了リタランニハ之ヲ「プラットフォーム」ニ運搬センコトヲ要ス此「プラットフォーム」ヨリ各乾燥器ヘ對シテ夫々斜溝ノ設ケアリ、「シヤブル」ニテ「ブラットフホーム」ノ塵芥ヲ此斜溝ニ搔キ落シテ乾燥器ニ送ラシム、既ニ乾燥器ニ達シタランニハ華氏五百度ノ溫度ヲ加ヘテ乾燥セシムヘキモノトス、且ツ此乾燥器ハ徐ロニ回轉スル仕掛ニテ内面ノ下底カ稍ヤ斜面形ヲナシ居ルカ故ニ、塵芥ハ乾ケルカ儘ニ徐々トシテ其低キ方ヘ下リ行キ其端末ニ備ヘ付ケアル槽中ニ落ち込ムナリ、而シテ斯ク槽中ニ落ち來リタル塵芥ヲ運搬裝置ニテ昇降機ニ移シ、昇降機ハ之ヲ第一ノ乾燥器ニ送致センコトヲ要ス、斯クテ第二ノ乾燥機ヲ通過シタル塵芥ハ運搬車ニテ之ヲ一ノ昇降機ニ移シ、昇降機ハ之ヲ列車若ハ塵芥貯所ニ送付スヘキモノトス、最初ヨリ此最終ニ至ルマテノ運轉流行ハ皆是レ器械力ノ作用ニ依ルモノト知ルヘシ

各乾燥器ト相聯絡シテ換氣裝置所アリ、右乾燥作用ヨリ生スル所ノ瓦斯及蒸發氣ニ團扇ヲ以テ煽キ立テ、凝縮器ノ方ヘ送致セシム、凝縮器（其實瓦斯排除器ト云フヘキカ）ニハ常ニ水ヲ噴霧セシムルノ仕掛アリテ入り來レル瓦斯ヲシテ此噴霧中ヲ通過セシムルモノナリ、斯ル作用ニテ溶解スヘキ瓦斯ハ消失シ惡臭モ大ニ減少スヘキナリ、然レトモ溶解スヘカラサル瓦斯及蒸發氣ノ類ハ凝縮器ヨリ出テ甚タ高キ煙突ニ入りテ外氣中ニ飛散スヘキナリ

三九三

塵芥乾燥作用ヲシテ全ク結了セシメンニハ殆ント一時間ヲ要スヘキモノト知ルヘシ

均シク是レ塵芥ノ名アルモ野菜の塵芥ニ至リテハ水分ヲ含メルコト七五%乃至八〇%ナルカ、第一ノ乾燥器作用ヲ通過シタラン後ハ其水分減少シテ三〇%トナレリ、加之乾燥作用全ク結了シタル場合ニハ尙ホ減少シテ濕氣ヲ有スルコト僅カニ一〇%トナレリ、斯クテ乾燥シタル塵芥中實ニ乾燥シタルモノ八五%、水分一〇%、廢物五%ニ當レルモノナリ

一千九百十四年ニ至リテ搾取計畫ヲ再興スルニ要スル資金之レナキヨリ、乾燥の塵芥一噸ニ就キ五弗七七ノ價ニテ私設會社ヘ賣リ渡スノ止ムヲ得サルニ至レリ、然レトモ此等ノ塵芥一噸ニ就キテ脂肪三・二五%ヲ生シ、「タンカーチ」(肥料ノ名)一四%ヲ生スヘク、而シテ脂肪ノ市價ハ一封度ニ就テ四仙、「タンカーチ」ハ一噸ニ付キテ三弗乃至四弗ノ價アルニアラスヤ、斯ル副産物ノアル所ヨリ之ヲ考フルニ之ヲ市營トナシテ妨ケナカルヘキナリ、斯ル副産物ノ代價ヲ以テ諸費用ヲ拂ヒ去リテ尙ホ幾干カノ殘餘アルヘキナリ、私設會社ニ賣却セストモ然ルヘシト思ハル

右塵芥處分ハ三箇所ニ於テ各々八時宛行動スルモノトス、而シテ其作業ハ皆是レ電氣動力ニ依リテ仕遂ケラル、ナリ、場内ノ各表面及敷地ハ概シテ清潔法能ク行届キ居リ、且ツ惡臭杯ニ殆ント出逢ハサリシナリ、衛生上ノ設備モ間然スル所ナク又近隣ノ住民ヨリ曾テ苦情ノ起リシコト之レナキナリ、場内ヲ視察シタルニ諸口ノ建物ト云ヒ構内到ル所皆實ニ清潔ナリシナリ、其他塵芥溜所、器械ノ運轉スル所、運搬者及搗碎

器等皆是衛生法ニ適セサルハナク、作業中ト雖モ塵芥ノ床上ニ散亂シ居ル等ノ事之レナキナリ、或ハ塵芥溜所ノ周邊ナル「ブラットフォーム」ニ何物カ落ち散レル時ハ直チニ之ヲ掃除シ、運搬車ヨリ建物ノ床上ニ或ルモノ、落ちタル場合モ然カセサルハナシ、到ル所清潔ナル亦以テナキニアラサルナリ

作業ノ能率如何、作業ノ能率殊ニ經濟上ノ有様如何ヲ研究調査シタルニ或ハ修繕ヲ要シ或ハ建築ヲ要スル等ノ事アリテ一考スル所ナクンハアルヘカラス

此塵芥處分所ハ一千九百十四年二十七萬五千弗ニテ買入レタルモノナルカ、此金額ノ殆ント半ハ其所在地ノ地所ノ代價ニ充テラレタルモノナリ、而シ其建物ノ修繕及各裝置ノ修葺(此内ニハ塵芥溜所ノ建設等モ含ミ居レリ)「コンクリート」製ノ波止塙、塵芥積卸等ニ用フヘキ鶴嘴等ハ、皆是レ作業ヲ開始セサルニ先ンシテ用意シ置カサルヘカラス、加之此事業ニ關シテ從來經驗ニ富メル者ヲ多ク雇入レサルヘカラス、斯ル次第ナルカ故ニ六月十五日ヲ以テ事業ヲ開始スルマテニハ、五ヶ月間ヲ費シテ大ニ努力シタル所ナクンハアラス

新タニ二臺ノ乾燥器ヲ据ヘ付クヘキ鐵筋「コンクリート」式ノ屋舎カ建設セラレタリ、抑モ此乾燥器ト云ヘルハ最新式ニシテ甚タ單純ナル方法ニテ塵芥ヲ乾燥シ得ヘキモノナリ、而シテ之ヲ實驗シタルニ好結果ヲ得タルヨリ徐々舊式ノ分ヲ廢シテ新式ニ代ラシメントスル豫定ナリ、又此新式乾燥器ト相關聯シテ新式凝縮器若ハ洗滌室カ設ケラレタリ、但シ此等ノ新設備ハ一千九百十四年ノ末ツ頃マテ完成セサリシナリ

今左ニ掲タル所ノ費用計算ハ一千九百十四年中ニ係ルモノニシテ衛生局ノ報告中ヨリ拔萃シタルモノナリ  
十一月間ノ諸費

労働賃銀	七五、六七八・四九
事務所費	四、七一五・三八
石炭	二、七三〇・五七
燃料油	三〇、〇五二・九六
動力	七、二一八・〇五
器械修繕	一、九七八・五六
工場買入品	二、〇五六・二六
屋舎修繕	二九五・五二
事務所買入品	一、三一九・九八
諸課及手當	三、六二四・六一
廣告費	三七・七〇
總計	一二九、七〇八・〇九

十一月間ノ活動ニ對スル收入

雜收入

乾燥塵芥賣却代	一一一、八五五・九九
財産目錄上ノ計算	一、七三一・〇〇
總計	一一三、七〇一・五五
收支決算上實際ノ損失高	一六、〇〇六・五五
右損失高ニ對スル準備金	四三、五四四・六六

(從來市ヨリ毎年市俄古塵芥處分會社へ拂ヒ込ミタル四七、五〇〇弗ニ就キテハ十二分ノ十一ニ當レリ)

斯クテ實際節約セラレタル金額

二七、五三五・一二

灰及廢物

灰及其他ノ廢物蒐集ノ事ハ市街取締局ノ手ニテ取扱フヘキモノニシテ、市外ニ於ル粘土ヨリ成レル大ナル穴及低窪地ニ送致シテ夫々處分スルモノトス、但シ紙屑ノ大半ハ各所ニ持チ運ヒ得ヘキ燒却器ヲ以テ消滅セシムル方法ヲ取レリ

市俄古市ニ於テ年々蒐集シタル灰及其他ノ廢物ノ量ハ一人平均七百九十封度ニ當レリ、而シテ之ヲ一ケ年ニテ合算スレハ殆ント九十四萬八千噸トナレリ而シテ此種ノ廢物ヲ蒐集スルニハ五立方「ヤード」ノ荷車ヲ

用フルモノトス、此等ノ荷車ハ通常二頭立ノ馬車ニシテ市外地へ運搬スルモノナルカ、夏季ニハ一日ニ就キテ此等ノ馬車四百臺ヲ用ヒ、冬季ニ際シテハ同シク六百臺ヲ用フルヲ通常トス

此等ノ廢物ヲ目的地ニ運搬スルニ市街電車ヲ利用スル場合アリ、而シテ其電車ニ積ミ込ムヘキ停留所ハ最モ人口稠密ノ箇所ニシテ不都合ノ觀アルヲ免カレス、然レトモ斯ル廢物ヲ積ミ載セテ此停留所ニ來着スル馬車ハ僅カニ五十臺ニ過キサレハ左マテノ害モナカルヘキナリ

紙屑處分法トシテ各所ニ持チ運ヒ得ベキ燒却器ヲ用ヒテ之ヲ消滅セシムルコトハ一千九百十一年ノ創設ニ係ルコトナルカ、今日ニ至リテハ斯ル燒却器百四十三個ヲ用ヒ居レリ、抑モ此燒却器ハ鐵製ノ「バケツ」ニシテ之ニ車ヲ付シテ僅カニ一人ノ力ニテ何レノ箇所ヘモ轉ハシ行キテ用フルコトヲ得ヘキナリ、而シテ夏季ニ際シテハ燒却スヘキ紙屑ノ量甚タ多大ナルカ故ニ一種ノ經濟法ヲ用フルコト、セリ、然レトモ此燒却法執行ニ就テハ煙害アリトテ居住民ヨリ苦情ヲ鳴ラスコト往々ニシテ之レアリ、

平家建六棟以上ヨリ成レル大ナル建物ニ至リテハ其持主若ハ管理人タランモノ、自費ニテ灰及其他ノ廢物ヲ他ニ移サンコトヲ要ス

灰其他ノ廢物ヲ蒐集スル一ケ年間ノ費用ハ百八萬五千弗ナリシ

衛生局ノ盡力ニテ一ノ燒却器カ完成セラレタリ、抑モ此燒却器ナルモノハ一日ニ就テ四十噸ノ廢物ヲ燒却シ得ヘキモノニシテ、主トシテ野菜類ノ廢棄物ヲ處分スルモノトス、此等ノ廢物ハ八百屋市場及野菜類ヲ

船積ニスル箇所等ヨリ生スルモノト知ルヘシ

#### 死亡動物處分ノ事

衛生局ハ動物ノ死體ヲ蒐集シ之ヲ處分スルコトニ就テハ私立會社ト契約シテ取扱ハシムルコト、セリ、斯ク契約シタル會社ハ斯ル取扱ヲ爲スカ爲メ二年ニ貳拾五弗ヲ市ヘ納メンコトヲ要ス、會社ハ斯ル納金ヲ爲シ且之ヲ蒐集シ之ヲ處分スルニ就テハ固ヨリ若干ノ費用ヲ要スヘシト雖モ、動物ノ死體ヨリ毛皮脂肪等ノ副産物アルカ故ニ獨リ收支相償フノミナラス餘程ノ利益ナクンハアラス

衛生局ト私立會社トノ間ニ此事ニ就キテ取結ハレタル契約書中ニハ左記ノ如キ事項アリ、曰ク衛生局、警察署及一個人タル市民ヨリ動物ノ死體アルコトヲ報告シタラン場合ニハ會社猶豫スルコトナク其死體ヲ取リ片付ケンコトヲ要ス、會社ハ此契約ニ從ツテ市ノ利便ヲ計ラサルヘカラス、保證金トシテ一千弗ヲ市ノ會計掛ヘ納メサルヘカラス、會社カ報告ヲ受ケテヨリ十二時間内ニ死體取片付ヲ爲サル場合ニ於テハ、市當局ハ止ムヲ得ス他ノ會社ニ命シテ之ヲ爲サシムヘク、之ニ要スル所ノ費用ハ右保證金ノ内ヨリ引キ去ルヘキモノトス

動物ノ死體ニ關スル報告ヲ各警察ニテ受クルコトアリ、斯ル場合ニ於テハ電話ニテ其動物ノ種類ト箇所トヲ會社ヘ通告センコトヲ要ス、斯クテ會社ハ其取扱ニ關スル報告ヲ二通認メ其一ヲ警察本署ヘ他ノ一ヲ衛生局ヘ差出サンコトヲ要ス、又動物ノ死體アルコトヲ電話等ニテ直接ニ衛生局ヘ報告シタランニハ之ヲ會

社ニ通告シ其由ヲ帳簿ニ記載センコトヲ要ス

凡ソ契約者タランモノハ日々蒐集シ且他へ移送シタル動物ニ關シテ其筋へ報告センコトヲ要ス、但シ此報告書中ニハ動物ノ種類之ニ關スル通告ヲ受ケタル時日及之ヲ他ニ移送シタル時日等ヲ記載センコトヲ要ス而シテ衛生局カ此報告ヲ得タラン場合ニハ契約者ノ行動如何ヲ充分ニ見定メンコトヲ要ス、斯ク死亡動物取扱方ヲ請負フタル會社ハ多年ノ經驗アルヨリ好結果ヲ奏シタリ

今左ニ掲クル所ノ表ハ一千九百十四年中夫々取片付ヲ爲シタル死亡動物ノ員數ト種類トヲ示シタルモノナリ

馬	七、四五
犬	二二、三〇
猫	四、〇四
其他(牝牛山羊等)	一九六

右ノ表中牝牛、山羊等ノ員數ノ甚タ少ナキハ斯ル動物ノ死亡全數ヲ示シタルモノニアラサレハナリ、即チ他ノ契約者ノ手ニテ處分セラレタルモノ居多ナレハナリ

給水ノ事

市俄古市給水ノ事ニ關シテ尙ホ未タ彼レ此レ論議シタルコトアラサルナリ、然レトモ衛生局ハ市俄古市ニ

供給セラル、水ノ性質如何ニ就テハ絶ヘス試験ヲ怠ラサリシナリ、即チ各所ノ水源地ヨリ供給セラル、水ニ就キ化學的及細菌學的試験ヲ怠ラサリシナリ、此ニ於テカ此給水ノ本源ニ關シテ簡短ニ叙述センハ決シテ無用ノ事ニアラサルヘシト信ス

市俄古市ニ供給セラル、水ノ本源地ハ都合六箇所アリテ其距離各々異ナル所ナクンハアラス、之ヲ擧レハ左ノ如シ、曰クレーキビウ、二哩。ハーリソン、二哩半。シカゴアヴヘニウ一哩半。ホールテンズ、ストリート四哩。ハイドパーク二哩。イーエフダンネ二哩ノ如キ是レナリ

右水源地ノ内レーキビウハ市ノ北部ニ供給シ、ハイド、パーク及ダンネハ同シク南部ニ供給シ、他ノ三箇所ハ同シク中央部ニ供給スルモノナリ

右水源地中僅カニ三水源地(レーキビウ、ハイド、パーク及ダンネ)ノミハ次亞格魯留酸法ヲ用ヒ居レリ、抑モ此法タルヤ一千九百十二年三月十五日ヲ以テ始メテダンネニ用ヒ、同年七月十六日ヲ以テハイド、パークニ用ヒ一千九百十三年八月十五日ヲ以テレーキビウニ用ヒタルモノナリ、然レトモ此方法タルヤ年ヲ通シテ用フヘキモノニアラス、互寒冬季ニ際シテハ水凍凝スルカ故ニ用ヒサルモノトス、其之ヲ用ヒサル期間ハ概ネ十二月十二日ヨリ翌年三月十五日マテトス

今左ニ掲クル所ノ統計表ハ一千九百十四年中十ヶ月間ニ亘リテ衛生局ノ試験所ニ於テ、諸水源地ヨリ供給セラレタル水ニ就テ試験シタル結果ヲ示シタルモノ是レナリ

レーキ、ピウ貯水所

(レーキピウ水源地ヨリ供給セラレタル水)

一九一四年	全標	千分ニ就テ	一九一四年	全標	千分ニ就テ
月	數本	ノ含有量	月	數本	ノ含有量
二六	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三	二三
一二	一二	一二	一二	一二	一二
一月	一月	一月	一月	一月	一月
〇	〇	〇	〇	〇	〇

セントラル、パーク、アヴユニウ貯水所

(シー、エツチ、ハリソン水源地ヨリ供給セラレタル水)

一九一四年	全標	千分ニ就テ	一九一四年	全標	千分ニ就テ
月	數本	ノ含有量	月	數本	ノ含有量
二六	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三	二三
一二	一二	一二	一二	一二	一二
一月	一月	一月	一月	一月	一月
〇	〇	〇	〇	〇	〇

市俄古アゾエニウ貯水所

(ツウマイル水源地ヨリ供給セラレタル水)

一九一四年	全標	千分ニ就テ	一九一四年	全標	千分ニ就テ
月	數本	ノ含有量	月	數本	ノ含有量
二六	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三	二三
一二	一二	一二	一二	一二	一二
一月	一月	一月	一月	一月	一月
〇	〇	〇	〇	〇	〇

ホールテーンズ、ストリート貯水所

(ホールマイル水源地ヨリ供給セラレタル水)

一九一四年	全標	千分ニ就テ	一九一四年	全標	千分ニ就テ
月	數本	ノ含有量	月	數本	ノ含有量
二六	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三	二三
一二	一二	一二	一二	一二	一二
一月	一月	一月	一月	一月	一月
〇	〇	〇	〇	〇	〇

六	五	四	三	二	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月			一六	一
一三	一二	一二	一二	一三			四二	〇〇〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月			一三	三
一三	一四	一三	一四	一四			一七	〇〇〇〇

シツキスチーエイツストリート貯水所

(レツキスチーエイツストリート水源地ヨリ供給セラレタル水)

四〇四

六	五	四	三	二	一	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月	月			一七	五
一三	一三	一一	一八	九	一七			二二	〇一
〇	〇	〇	〇	〇	一	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月	月			一一	二
一六	一一	一九	一四	一一	一一			二六	六三四二
一	〇	〇	〇	〇	〇			一	〇〇〇〇

ロースランド貯水所

(エドワード、エフ、ダンネ水源地ヨリ供給セラレタル水)

六	五	四	三	二	一	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月	月			一三	四
一三	一三	一三	一三	一一	一三			〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	一九一四年	全標	數本	千分ニ就テノ含有量
月	月	月	月	月	月			一一	二
一二	一四	一二	一三	一一	一一			一	〇
六	〇	二	三	一	一			六	〇

右ニ掲ケタル表ニ依リテ之ヲ考フレハ左記ノ如キ事實ハ自カラ明ラカナルヘキナリ曰クシカゴ、アヴエニ  
 ウ水源地ヨリ供給サレタル水ノ清良ナルヤハ疑ヒナキコト能ハス、此ニ於テカ出來得ヘクンハ此水ニ就テ  
 ハ次亞格魯留酸法ヲ行ハンコトヲ要ス、而シテ此法ヲ實行スルニ就テハ「タンク」ヲ設置スルノ必要ナクン  
 ハアラス、抑モ此水源地ハ最モ市ニ接近スル所ニアリテ「シカゴ」河ノ河口ニ當レルカ故ニ、直接ニ船舶ノ往  
 來スル航路ニ外ナラサルナリ、是レ皆ナ恐ラクハ水質ヲ不潔ナラシムル動力ト謂フテ不可ナルヘシ  
 次亞格魯留酸法ハハイド、パーク及ダンネノ水源地ヨリ供給サレタル水ニ就テ實行サレタルカ著シキ好結  
 果ヲ奏シタリ、即チ此水源地ヨリ水ヲ供給サレタル方面ニ於テハ到ル所實扶斯熱ニ罹ルモノ大ニ減少シタ  
 ルコト是レナリ

レーキビウ水源地ヲ不潔ナラシムル動力ハ恰カモ此水源地ノ川上數哩ノ所ニイヴハンストレノ下水ノ流レ

込ムコト是レナリ、尙ホ此外ニモ此水源地マテノ流域中ニ水質ヲ不良ナラシムヘキモノナクンハアラス  
諸水源地中市ヨリ四哩隔リタル一水源地ヲ除クノ外他ハ皆ナ次亞格魯留酸法ヲ實行セラレンコトコソ望マ  
シケレ

## 公園及運動場

市俄古市ニハ公園制度最モ善ク行キ届キ居レリ、即チ大公園四箇所、小公園六十箇所アリテ市内到ル所ニ散  
在セリ、運動場モ各所ニ設ケラレタルカ殊ニ勞働者ノ居住セル方面ニ設ケラレタルヲ居多ナリトス、而シ  
テ此等ノ運動場ニハ概シテ體操場、游泳池、灌水浴及讀書室ノ設ケナクンハアラス  
人ノ慰安娛樂ノ爲メ市俄古市内ノ運動場ニ於ル諸設備ヲ舉レハ概ネ左ノ如シ

レーキ、シヨアー運動場、敷地六、エーカー「八三ニシテシカゴ、アヴェニウ水源地ノ下邊ニアリ、リンコル  
ン公園委員會ノ所有ニシテ毎日午前八時ヨリ午後十時マテ開場ス、本國人用ト外國人用トノ別アリ、年々  
ノ維持費一萬二千弗ナリトス

設備、投球場、競走場、「テニス」場六ヶ所、器械體操場二箇所、浴場、化粧場、遊戲室、徒涉池等ノ設ケ  
是レナリ

雇員、理事一名(男子)十二ヶ月間。教師(男子)一名、二ヶ月半。教師一名(女子)二ヶ月半。土曜日教師(女  
子)一名、十二ヶ月間。召使長一名(男子)十二ヶ月間。勞働者(男子)一名十二ヶ月間。召使一名(男子)四ヶ

月間。召使一名(女子)十二ヶ月間。番人一名、十二ヶ月間。警官一名、十二ヶ月間

セワード運動場、エルム及セツグウ井ツク街ニアリ、敷地一「エーカー」七八ニシテリンコルン公園委員會  
ノ所有タリ、毎日午前八時ヨリ午後十時マテ開場ス、舞蹈室等ハ午後十一時三十分マテハ用フルコトヲ得  
ヘシ、伊太利人、愛蘭人及瑞典人等ノ用ニ供セラルヘシ、諸設備ノ費用殆ント二十七萬五千弗ヲ要シ、年々  
ノ維持費ハ二萬弗ヲ要ス

設備、集會所、俱樂部室、體操場、浴場、男女共用ノ化粧室、男女共用ノ戶外文庫、小規模ノ徒涉池、一  
哩ノ四分ノ一ノ競走場等ノ設ケ是レナリ

雇員、理事一名(男子)、十二ヶ月間。教師一名(男子)、十二ヶ月間。教師一名、(女子)十二ヶ月間。遊戲  
指導者一名、(女子)十二ヶ月間、召使四名、(男子)十二ヶ月間。召使二名、(女子)十二ヶ月間。勞働者二  
名、(男子)十二ヶ月間。火夫一名、(男子)十二ヶ月間。警官一名、十二ヶ月間

スタントン運動場、グハイン及ヴェッダー街ニアリ、敷地四「エーカー」七八アリ、リンコルン公園委員會  
ノ所有ニ屬ス、毎日午前八時ヨリ午後十時マテ開場ス、諸設備費殆ント二十七萬五千弗、年々ノ維持費一  
萬八千弗ナリ

諸設備、浴場及男女兩性共用ノ化粧室、文庫、遊戲室、戶外游泳池、投球場、其他幼童(男女トモ)稚兒ニ  
適スヘキ特別ノ遊戲所アリ



雇員、理事一名(男子)十二ヶ月間。遊戲指導者一名(女子)。教師一名(女子)十二ヶ月間。召使二名(男子)十二ヶ月間。召使一名(女子)十二ヶ月間。勞働者二名(男子)十二ヶ月間。火夫一名(男子)十二ヶ月間。生命保護掛二名(男子)三ヶ月間。游泳池世話掛四名(男子)三ヶ月間。同世話掛三名(女子)三ヶ月間。(一週ノ内月曜、木曜ノ兩日)

ハムリン運動場、バーリー及ホイラー、アヴエニウニアリ、敷地八「エーカー」六四ニシテリンコル公園委員會ノ所有ニ屬シ毎日午前八時ヨリ午後十時マテ開場ス、日耳曼人ノ用ニ供セラル、諸設備ノ費用殆ント二十四萬五千弗、年々ノ維持費二萬五千弗ナリ

諸設備、集會所、俱樂部室、文庫、體操場、男女共用ノ浴場、夏季用ノ游泳池、投球場、「テニス」場二箇所、幼男ノ戶外體操場、一哩ノ七分ノ一ナル競走場、幼女ノ戶外體操場、徒涉池等ノ設備アリ

雇員、理事一名(男子)十二ヶ月間。教師一名(男子)十二ヶ月間。教師一名(女子)十二ヶ月間。遊戲指導者一名(女子)十二ヶ月間。召使長一名(男子)十二ヶ月間。召使四名(男子)十二ヶ月間。勞働者二名(男子)十二ヶ月間。火夫一名(男子)十二ヶ月間。生命保護者二名(男子)三ヶ月間。游泳池掛四名(男子)三ヶ月間。同游泳池掛三名(女子)三ヶ月。(每週水曜ト金曜ノ兩日)警官一名、十二ヶ月間

ウエルス公園、モントロース及ウエステルンアヴエニウニアリ敷地ハ八「エーカー」一七ニシテリンコルン公園委員會ノ所有タリ、毎日午前八時ヨリ午後十時マテ開場ス、本國人用ニ供セラル、諸設備ノ費用ハ一

萬二千五百弗ニシテ之カ維持費ハ年々一萬五千弗ナリ

諸設備、演壇、集會所、男女共用ノ化粧場、冬季「スケイティング」場、投球場二箇所、幼男幼女ノ器械體操場、鞦韆等ノ設ケアリ

雇員、理事一名(男子)十二ヶ月間。教師一名(男子)三ヶ月間。教師一名(女子)十二ヶ月間。遊戲指導者一名三ヶ月間。召使一名(男子)十二ヶ月間。召使一名(女子)十二ヶ月間番人一名(男子)十二ヶ月間。勞働者二名(男子)十二ヶ月間。勞働者四名(男子)三ヶ月間。警官一名、十二ヶ月間

數箇所ノ小公園ト相關聯シテ右ノ外尙ホ十九箇所ノ公園アリテ左記ノ如キ諸ロノ設備アリ、競技場七箇所戶外ノ遊戯場十二箇所、「スケイティング」用ノ池十八ヶ所、屋舎内ノ體操場三箇所、屋蓋アル「ブラットホーム」十二箇所、徒涉池一箇所、競走場五箇所、「バスケットボール」場十三ヶ所等是レナリ又右ノ運動場中ニ氷久の屋舎十三棟及一時的屋舎二棟建設セラレタリ

#### 結論及 献策

#### 委員 局

(一)、衛生局ノ組織ハ諸種ノ分課アリテ夫々活動スルコト、ナリ居レリ

(二)、衛生局ノ業務ヲ執行スルニ就テハ更ニ政事の關涉ヲ受クヘキモノニアラス、而シテ其業務ニ從事スル者ハ皆ナ是レ自治制ノ吏員タルモノトス、但シ委員ハ知事之ヲ任命シテ市會ノ協定ヲ經ンコトヲ要

ス

(三)、衛生局行政上ノ活動タルヤ大ニ見ルヘキモノアリ、過去三ヶ年間ノ行動ニ徴シテ之ヲ見ルニ其組織ニ於テ大ニ改良シタル所アリ、其活動ノ範圍擴張セラレ獨リ其事業ノ分量増大シタルノミナラス、其能率ノ程度モ一層増進シタルモノト謂フヘキナリ

(四)、此委員ナルモノハ他ノ委員會及局課ニ參加シテ事ヲ執ルノ結果、公衆衛生行政上利便ヲ得ルコト少ナカラサルナリ

(五)、生活状態ヲ改良セシメノカ爲メニ教育上ニ重キヲ置キ、健康状態ヲ増進セシメノカ爲メニ衛生上ニ注意セシムルノ結果、人民一般ノ状態大ニ進歩シタルヲ見ルヘシ

(六)、衛生局ノ計畫ニテ衛生事務ヲ講習セシムヘキ學校ヲ設ケタルハ實ニ良策ト謂フヘキナリ、元來斯ル學校ヲ設ケタルハ衛生局ノ事務員ヲシテ衛生上ニ關スル事柄ヲ習得セシムルノ主意ニ出テタルモノナルカ、其結果ハ單ニ此方面ノミニ止マラス衛生事業ニ志サシアル他ノ者モ亦益スル所少ナカラサルナリ

(七)、委員局ノ組織タルヤ其局ノ定例常規ト云ヒ其事業ノ分配方ト云ヒ皆ナ能ク行キ届キテ更ニ間然スル所ナシ

(八)、書記局ニ於テ財産管理事務ノ書記一名ヲ任命シタランニハ其業務ノ能率大ニ増加スヘキナリ、即チ斯ル書記ヲ任命シテ財産目錄ヲ作り一層精密ニ管理セシメタランニハ業務ノ能率増加スヘキナリ

(九)、衛生局ハ其訴訟事件ヲ處理スルニ就テ從來ノ方針一變シ極メテ精密ニ事實ヲ取り糺シタル上ニテ訴訟ヲ提起スルコト、ナシタリシカ、其結果トシテ大ニ其手數ヲ省クコトヲ得タリ、即チ一千九百十二年ニ於テハ訴訟事件ニ費シタル日數都合二百二十二日ヲ費シタリシニ、一千九百十四年末ノ調査ニテハ減少シテ僅カニ九十一日トナレリ

(十)、新タニ事務員ヲ任命セントスル場合ニハ取り敢ヘス六ヶ月間見習生トシテ使用スルコト、セリ、是レ最モ適當ナル方法ト謂フヘキナリ、即チ此六ヶ月間ハ試験期間ニシテ此期間中ニ技能アルモノト見据ヘ付キタルモノハ採用セラレ否ラサルモノハ採用サレサルモノトス

#### ・ 醫事視察局

(十一)、醫事視察局ノ組織タルヤ諸種ノ業務ニ従事スルモノニシテ、衛生局中他ノ課ニ比較スレハ實際ニ於テ一層能ク監督ノ行キ届ケルモノト謂フヘキナリ

(十二)、局長ノ助手タル次長ハ局内ノ事務ノ處理ヲ一任サレタルカ、是レ最モ其宜シキヲ得タルモノト謂フヘキナリ

(十三)、衛生官及檢疫官ノ行動如何ヲ視察スヘキ監督ナルモノアリ、此等ノ監督ハ全ク其身ヲ斯ル視察ニ委ネタルモノニシテ、傳染病豫防事務ノ能率ヲ増加スルニ就テハ最モ重要ナルモノト謂フヘキナリ

(十四)、小兒衛生課ノ行動ハ其範圍甚タ廣ク其組織モ甚タ適當ナルカ、其進歩ノ程度如何ハ過去及現在ノ

結果ヲ見テモ知ラルヘキナリ

(十五)、小兒衛生ノ事ハ教育擴張會ノ行動ノ結果トシテ、小學校モ亦是レ共同一致ノ行動ヲ取ルコト、ナリシヨリ其範圍一層擴張セラレタリ、此ニ於テカ小兒衛生課ニ專務監督ヲ置クノ必要起レリ

(十六)、(い)種ノ檢疫法ハ傳染病蔓延ヲ豫防スルノ好結果ヲ奏シタルヨリ、從來ノ自宅療養不可論モ自カラ消滅スルニ至レリ

(十七)、(ろ)種ノ檢疫法ハ豫想以上ノ好結果ヲ奏シタリ、是レ衛生官及檢疫官ノ訓諭教導其宜シキヲ得タルニ基ツカスンハアラス、斯クテ中等社會ノ自宅療不可論モ自ラ消滅スルニ至レリ

(十八)、(は)種ノ檢疫法ノ結果ハ先ツ可ナリト雖モ尙ホ未タ充分ナリト云フヲ得ス、此檢疫法ニテハ患者ヲ一室内ニ閉チ籠メ置キテ他ト交通ナサシメス、且ツ患者ニ接觸シタリトノ疑ヒアルモノモ出來得ヘキ丈ケ他ト交通セシメス、患者ノ分泌排泄物ノ如キモ適當ナル警戒ヲ加ヘテ處分シタルヨリ患者數著シク減少シタリ、然レトモ其結果尙ホ未タ充分ナリト云フヲ得ス

(十九)、然レトモ今日ニテハ病院ノ設備尙ホ不充分ナルカ故ニ、已ムヲ得ス自宅療養ヲ許サ、ルヘカラス(二十)、傳染病患者收容ノ病院好シ設立セラレタリトスルモ猩紅熱及實布埤里亞患者ニシテ、(い)種檢疫法及(ろ)種檢疫法ニ從ツテ隔離スルコト能ハサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ自宅療養ヲ許サンコトヲ要ス

(廿一)、(い)種及(ろ)種ノ檢疫法カ發達シ、患者ノ自宅療養カ此等ノ檢疫法施行中ニ之レナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ衛生局ハ其傳染病處分法ヲ或ル他ノ市ノ其レト比較シテ毫モ遜色ナカルヘキナリ

(廿二)、實布斯患者ノ大多數ハ既ニ其疾患終熄シタルカ故ニ、患者ノ糞便中ニ細菌ノ存スルヤ否ナヲ斷定センカ爲メニ適當ナル細菌學的検査ヲ行ハスシテ退院セシメタリ

(廿三)、實布斯患者ノ自宅療養ヲ許サレタル者モ亦是レ其ノ監視筋ヲ受ケサルヘカラス、然ルニ此等ノ患者カ傳染ノ媒介者タルヤ否ナヲ斷定スヘキ適當ナル試験ヲ行フニアラスンハ、其監視ヲ解カサルヘキカ是レ須ラク研究スヘキ問題ナリ

(廿四)、結核病ノ治療及取締ニ關スル法令發布ノ先鞭ヲ着ケタルモノハ市俄古市ナリ、而シテ市立結核療養所ノ機關ハ之ヲ分チテ四種トス、即チ結核療養所、庭的結核療養所、教育的結核療養所及結核療養所是レナリ、一千九百十五年末ニ於テハ結核患者用ノ寢臺二千三百臺ナリシ

(廿五)、新築小學校ニ於テハ待合及協議等ニ用フヘキ相當ニ廣キ室ヲ設ケント爲シ居レリ、此等ノ室ハ主トシテ衛生官ノ作業所ニ充テント欲スルモノナリ、然レトモ小學校中ノ大半ハ衛生官ノ利用スヘキ適當ナル室アラサルヨリ、衛生官ハ取リ敢ヘス何レカノ箇所ヲ擇ンテ其作業所トナセリ

(廿六)、學生中校内ニ於テ百日咳、耳下腺炎、鶏痘、若ハ日耳曼麻疹等ノ患者ト隣接シタル者アラン場合ハ、此等ノ學生ヲシテ教室内ニ入ラシメサルノ計畫アリ、斯ル計畫ハ固ヨリ安全ナルモノト謂フヘキナ

リ、然レトモ斯ル方法ハ果シテ必要ナルヤ否ノ疑問起レリ、殊ニ左ノ如キ見地ヨリ之ヲ考フル時ハ此疑問一層深カラサルヲ得ス

(い)、斯ル患者ニ隣接シタル度合概シテ輕微ナル事

(ろ)、學生ノ教室ニ入ラントスルニ先ンシテ日々衛生官並ニ看護婦カ患者ニ隣接シタルモノニ之レナキヤ否ヲ検査スル事

(は)、患者ニ隣接シタル者ノ其病毒ニ感染スルハ稀レニシテ常ニアルヘキモノニアラス、且ツ斯ル患者ハ衛生官ノ容易ク見顯ハスヘキモノニテ其蔓延ヲ豫防シ得ヘキ事

(に)、右ノ如ク學生ヲ教場ヘ入ラシメサルコトハ其學生ノ父兄ヲシテ不快ノ念ヲ抱カシメ、且ツ或ル場合ニハ其教師ヲシテ同一ノ念ヲ起サシムル事

(廿七)、百日咳、耳下腺炎、鶏痘及日耳曼麻疹等ノ患者ニ隣接シタル小學々生ハ現今ニテハ登校セシメサル有様ナルカ、是レ決シテ事ノ宜シキヲ得タルモノニアラス、矢張り依然トシテ登校セシムルコトコソ然ルヘケレ、但シ斯ル學生ヲ登校セシムルニ就テハ衛生官タルモノ日々其學生ノ身體ヲ検査センコトヲ要ス、而シテ斯ク衛生官ノ検査スヘキ期間ハ登校停止期間ト同一ナルヘキモノトス

(廿八)、醫學上ヨリ小學々生ノ身體ヲ検査スルコトハ固ヨリ重要事件ナルカ、此検査ヲ爲スニハ其父兄ノ承諾ヲ經サルヘカラス、或ハ其父兄ヨリ進ンテ此検査ヲ受ケシメント欲スルモノアリ、或ハ巡回看護婦

カスル學生ノ健康不健康ヲ見定メテ本人及父兄ニ注意スルコトアリ、何レニシテモ學生ノ衛生上ニ注意スルコトハ重要問題ト云ハサルヘカラス

(廿九)、目今小學々生ノ身體検査ヲ行ヘルハ僅カニ其半數ニ過キササルナリ、然レトモ此身體検査ノ事ハ駢カニ進歩シツ、アリテ、年々改良セラル、コトハ亦疑フヘカラサルナリ、殊ニ教區ノ小學ニ於テハ最も著シク進歩セルヲ見ルニ足ルヘキナリ、蓋シ教區ニ在リテハ概シテ耐忍力ニ富ミ從ツテ協同一致ノ歩調ヲ取ルコト難カラサレハナリ

(三十)、小學々生ニ對シテ齒科施術ヲ爲サントスルニ際シテ、父兄ノ協賛ヲ得ルニ就テハ多少ノ困難ナクンハアラス、父兄ノ協賛ヲ得ント欲セハ過誤ナカラシムヘキ保證ナクンハアルヘカラス

(卅一)、齒科施設所ノ數モ甚タ少ナシト云ハサルヘカラス、貧民ノ齒科患者ヲ治療セント欲セハ現今ノ施設所ヲ倍數ニ爲サンコトヲ要ス

(卅二)、兒嬰健康保全課ノ爲メニ資金ヲ徵收スルコトニ就テ市俄古市ハ他ノ市ニ比シテ遜色ナキコト能ハス、同市ニ於ル嬰兒ノ健康保全ノ事ハ私立團體ノ力ニ依ルコト多キニ居レリ、蓋シ此等ノ私立團體ハ公共心ニ富メル市民ノ寄附金ヲ以テ組織セラレタルモノト知ルヘシ

(卅三)、各所ノ學校衛生ニ關スル看護婦ヲシテ悉ク皆夏季炎熱ノ際嬰兒ノ健康保全ノ事ヲ司トラシメタルカ、何レモ皆好結果ヲ奏セサルハナカリシ

(卅四)、衛生局ヲシテ嬰兒健康保全ノ事ヲ充分ニ實行セシメント欲セハ、之カ爲メニ豊富ナル資金ヲ供給セサルヘカラス、資金ニシテ豊富ナランニハ衛生局カ自カラ主動者トナリテ此事業ヲ發達セシムルコトヲ得ヘシ、斯クテ衛生局ハ嬰的保健ノ機關ヲ完カラシメンカ爲メニ私立慈善團體ヨリ補助ヲ受ルコト、ナレリ

(卅五)、而シテ此嬰兒保健機關ノ運用其宜シキヲ得タルヨリ其功績ノ著ルシキヲ視ルニ至レリ

(卅六)、又諸所ニ此機關ノ支部ヲ設ケテ夫々活動シタルヨリ益々其事業ノ發達ヲ見ルニ至レリ

(卅七)、當局ニ於ル書類ハ精密ニ日時ヲ逐フテ最モ善ク整理シ居レリ

#### 飲食物視察局

(卅八)、製乳業ノ行ハル、地方ヲ實際規則正シク視察スルコトハ一千九百十四年一月ヲ以テ開始セラレタリ、一千九百十二年以前ハ之ニ關スル法令アラス、一千九百十三年ニ至リテハ既ニ此法令發セラレタリト雖モ、其實行ニ要スル經費不充分ナリシカ爲メ其儘ニナリ居タリシカ、一千九百十四年一月ニ至リテ始メテ之カ實行ヲ見ルニ至リタリ、飲食物ニ關スル今日ノ有様ヲ論議セント欲セハ、勢ヒ右短期間ニ於ル活動振リ如何ニ注目セサルヘカラス

(卅九)、一ノ視察官ニシテ一ケ年間ニ幾箇所ノ製乳所ヲ視察スルヤト云フニ平均九百三十三箇所ナリト云フ、斯クテハ其視察ノ回數甚タ不充分ナリト謂フヘキナリ、即チ一ケ年間ニ一製乳所ヲ平均視察スルコト

ト二回ニ達セサルコト是レナリ

(四十)、製乳所視察ヲシテ有効ナラシメント欲セハ勢ヒ數々視察セサルヘカラス、殊ニ衛生上改良ヲ要スヘキ製乳所ニ對シテハ最モ數々巡視セサルヘカラス

(四十一)、製乳所視察ニ關スル最モ重要ナル事柄ヲ舉レハ左ノ如シ、曰牛舎改良、牛乳ヲ一時貯ヘ置ク所、牛乳ヲ調査スル事、總テ牛乳ヲ取扱フ上ニ於テ取ルヘキ適當ナル方法等ヲ製乳業者ニ訓諭スルコト是レナリ

(四十二)、牛乳業ノ行ハル、地方ニ關スル視察官ノ數ハ不足ナリト云ハサルヘカラス、今充分ニ視察ヲ遂ケテ斯業ヲ一層發達セシメント欲セハ新タニ十名ヲ視察官ヲ増加セサルヘカラス

(四十二)、イリノイス州中ニ散在セル製乳所ハ皆是レ州ノ管轄トシテ視察センコトコソ望マシケレ、斯クナシタランニハ其視察一層善ク行キ届キテ好結果アルヘク、今日ノ有様ニテハ市俄古市ノミノ保護ニ止マリテ其他ニ及ハサレハナリ

(四十四)、右ノ外製乳所視察官ノ須ラク注意スヘキ事ハ到ル所製乳所ヲ視察スルノ標準點ヲ一層能ク一致セシムルコト是レナリ、乃チ當市ノ牛乳視察官タルモノハ今日ノ實際ノ狀況ニ從ツテ牛乳貯藏所及牛乳販賣店等ヲ適當ニ視察センカ爲メニ、監督ヨリ實地ニ適スヘキ訓諭ヲ受ケンコトヲ要ス

(四十五)、夏月炎熱ノ候ニ際シテ牛乳ヲ他ニ運搬センニハ甚ダシキ缺點アリト云ハサルヘカラス、即チ鐵

道列車内ニ適當ナル冷蔵庫ノ設ケナキコト否概シテ冷蔵庫ナキコト是レナリ、鐵道列車内ニ冷蔵庫ヲ設ケヘキ事ハ既ニ法令ノ定ムル所ニシテ、衛生局ハ此法令實行ニ苦心シ居レルカ、此法令違犯ノ爲メ鐵道會社ヲ相手取りテ提起シタル訴訟十件ニ達セリ

(四十六)、鐵道ノ「プラットホーム」ニ到着シタル牛乳ノ視察ハ視察官ノ數少ナキヨリ充分ニ行キ届カサルナリ、充分ノ視察ヲ爲サンニハ幾干カ視察官ノ數ヲ増サ、ルヘカラス

(四十七)、小規模ノ牛乳屋ニシテ卸賣ヲ主トスルモノ、大數ハ市俄古市ヘ供給セラル、他ノ牛乳屋ト相關聯シテ最モ不都合ナル手段ヲ取ルコト少ナカラス、衛生局ハ斯ル不都合ナル牛乳屋ノ幾部分ヲ閉鎖セシムヘキ處置ヲ取リタリト雖モ、充分ニ之ヲ實行セシメンコトハ困難ナリト云フヘシ

(四十八)、凡ソ牛乳ハ皆是レ消毒裝置ノ下ニ適當ナル消毒法ヲ行ハサルヘカラス、而シテ最モ其簡便ナル方法ハ華氏百四十度ノ溫度ニテ二十分間之ヲ煮沸スルコト是レナリ、今市内ノ斯ル消毒所二百四十六箇所アルモ其大部分ハ規模小ニシテ純良牛乳ヲ得ルニ足ラサルナリ、然レトモ法令上定ムル所ニ違犯スルモノハ毫モ假借スル所ナク閉鎖セシムルコト、ナシタランニハ、當市ニ供給セラル、牛乳ハ實際ニ於テ大ニ改良セラルヘキナリ

(四十九)、牛乳營業上ノ有様能ク整頓セサル所アリ、且ツ充分ニ製乳所ヲ視察スルコト能ハサルヨリ往々適當ナル清潔法ノ標準ヲ保ツコト能ハサル場合アリ、此ニ於テカ凡ソ牛乳ハ皆是レ消毒法ヲ行フノ必要

ナクンハアラス

(五十)、牛乳供給ニ就テハ最近二ケ年間ニ著シキ進歩發達ヲ見タリシ

(五十一)、凡ソ家畜ハ之ヲ屠殺スルニ先ンシテ充分ニ之ヲ検査シ、且屠殺シタル後同様ナル取扱ヲ爲セリ、又屠殺場及市場ニ於ル肉類ハ老練ナル視察官カ最モ注意ヲ密ニシテ検査スルコト、セリ

(五十二)、此他ノ食品モ亦是レ充分ノ保護行キ届キテ公衆衛生上其宜シキヲ得、且此等ノ食品ヲ製造シ及ヒ取扱フ所ノ屋舎モ數々視察セラル、カ故ニ衛生上規定ノ標準點ヲ保ツコトヲ得タリ

#### 試 驗 所

(五十三)、此試驗所ヲシテ一層完全ニ成立セシメンニハ再建セサルヘカラス、又試驗所中ノ或ル箇所ハ模様替ヲ必要トスルモノアリ

(五十四)、技術ヲ要スヘキ所員ノ俸給餘リニ少額ナルカ故ニ最良ノ能率ヲ得ルコト能ハス、即チ最モ適當ノ技師ヲ得ルコト能ハス

(五十五)、各種ノ見本標本ニシテ滯リナク此試驗所ヲ通過スル手續ハ完全ニシテ非難スル所ナク、又報告及書類整理ノ方法モ充分ナリシ

(五十六)、試験用ノ適當ナル動物ノ收容所モ夫々取り設ケラレ、又此試験所ヨリ生スル所ノ塵芥及廢棄物ノ焼却場モ設ケラレタリ

(五十七)、試験所中ノ或ル部分ノ換氣法ハ改良センコトヲ要ス  
 (五十八)、研究課用ノ屋舎ハ之ヲ設クルノ必要ナキモノ、如シ

病院、浴場及下宿屋取締局

(五十九)、此取締局ノ管轄タル病院ハ皆是レ其事務取扱上能ク行キ届キテ亦間然スル所ナシ  
 (六十)、傳染病院ハ最モ適當ナル監督醫師ノ指導ノ下ニアリテ、清潔法ノ如キハ最モ能ク行キ届キ居レリ、  
 而シテ此病院ノ事務取扱ノ如キハ輕重大小ノ別ナク、學說及實地共ニ何レモ正確ナリシ

(六十一)、隔離室ハ年齢別、男女別等ニ從ツテ個々別々ニ室ヲ設ケテ成ルヘキ丈ケ看護及治療ノ能ク行キ届ケルモノト云フヘキナリ、且ツ光線ノ射入、空氣ノ流通皆共ニ其宜シキヲ得又諸設備能ク行キ届キ居ルカ故ニ、患者カ此室ニ來ルヲ嫌忌スル等ノコトアラサルナリ

(六十二)、「イロキユイオス」紀念病院ハ諸事能ク行キ届キ居ルモ、其活動及維持ノ爲メニハ資金ノ追加ヲ爲サ、ルヘカラス

(六十三)、衛生局ハ既ニ傳染病取扱上便利ノ爲メ移動病院課ナルモノヲ設ケタルヨリ、他ノ市モ亦之ニ倣フテ同様ノ設備ヲ爲シ今警察部ノ管轄ニ屬シ居ルモ、其行動ヲ容易ナラシメ且ツ事務取扱上經費ヲ少ナカラシメンカ爲メニハ衛生局ノ管轄タラシメンコトコソ望マシケレ

(六十四)、公衆浴場ハ市俄古市ニテ之ヲ維持シ、當局ノ行政部ノ監督指揮ノ下ニ屬スルモノニシテ、衛生

上ノ設備能ク行キ届キ居レリ、而シテ此浴場ニ來レルモノハ借家住居ニシテ自家ニ入浴ノ設備ナク、所謂貧民窟ノ住民ナルモノ是レナリ

(六十五)、公衆浴場ノ効果ノ著シキコトハ今更云フヲ要セス、從テ新タニ浴場ヲ増加シ且ツ從來ノ浴場大修繕ノ爲メニ若干ノ經費ヲ要求スルニ至レリ

(六十六)、浴場ノ取扱ハ僅カニ限ラレタル人員ノ手ニ委ネラレタルモ、清潔ニシテ諸事善ク行キ届キ居レリ、然レトモ諸設備、一般ノ維持及掛員ノ増加條ニ就テ經費ノ追加ヲ爲サンコトヲ要ス

(六十七)、今日ノ浴場ニ於ル待合室ハ餘リニ狹隘ナルカ故ニ、浴場ヲ新築スル場合ニハ之カ擴張ヲ爲サンコトヲ要ス

(六十八)、規模大ニシテ諸設備ノ完全ナル下宿屋ヲ設立センニハ相當ノ經費ナカルヘカラスサリトテ強制的ニ斯ク爲サシメンコトハ當然ナリト云フヲ得ス

(六十九)、下宿屋ハ甚タ清潔ニシテ其取扱上モ亦善ク行キ届キ居リテ、之カ爲ニ下層人民ノ利益ヲ受クルコト決シテ少ナカラサルナリ、下宿人ノ多數カ止ムナク床上ニ就寢スルコトアルニモセヨ、下宿人ノ身ニ取リテハ感謝スヘキカ至當ナリト云フヘシ

(七十)、目今下宿屋ノ狀況視察ハ州ノ官吏ノ手ニテ實行シ居レルカ、是レハ衛生局ノ管轄ニ屬セシメテ當局ノ職責ヲ擴張シ以テ視察ノ任ニ當ラシムルコトコソ望マシケレ

(七十二)、病院、施療所及幼児保育所等ノ狀況視察ニ從事スル視察官ノ員數ハ餘リニ少ナキナリ、即チ斯ル視察ノ監督ノ要求スルカ如キ視察ヲ爲サンニハ視察官ノ數足ラサルナリ、此ニ於テカ經費ノ支出一層多キヲ許スヤ否ヤ斯ル視察官ノ數ヲ増サンコトヲ要ス

#### 衛生事業視察局

(七十二)、當視察局ハ其業務甚タ多端ナルカ故ニ完全ニ之ニ取扱フコトハ最モ困難ナリト謂フヘキナリ

(七十三)、當局ノ職責中最モ重要ナルモノハ新築家屋建設ニ關スル取締是レナリ、殊ニ借家ノ新築、模様替、修繕及鉛管据付等ニ關スル取締ハ最モ嚴重ナラン事ヲ要ス

(七十四)、借家建築取締上ニ關スル法令ハ最モ嚴重ナルモノニシテ、此法令ノ規定スル所ヲ實行セシメタルノ結果、市俄古市内ノ借家ノ狀況徐ロニ改良ニ赴キ居レリ、然レトモ借家視察ニ關シテハ特別ノ官憲ヲ設クルノ必要アリ、而シテ斯ル視察官ノ數ヲ増加シテ最モ精密ニ視察セシメンコトヲ要ス

(七十五)、鉛管取締ニ關スル法令ハ改正増補シテ以テ其持主若ハ管理者ヲシテ既設ノ鉛管ヲ變更セシメンコトヲ要ス

(七十六)、家屋ノ下水道据付監督ノ事ハ經濟上及處理上ヨリ打算センニ、衛生局ノ監督ニ移スヘキモノナリ、而シテ鉛管取締課ノ管轄ニ歸セシメンコトヲ要ス

(七十七)、志加古市ハ劇場、公會堂及市街電車内ニ於ル換氣法取締ニ關シテハ著シキ好結果ヲ奏シタリ、

換氣法ノ斯ク進歩シタルハ換氣法取締課カ最近二ケ年間ニ限リアル掛員ヲ以テ努力奮闘シタル結果ニ外ナラサルナリ

(七十八)、當局ハ穴藏内ノ麵麩屋退治ニ就キ奮闘シタルヨリ好結果ヲ得タリ、例之ヘハ一千九百七年ニハ斯ル麵麩屋五百八十一箇所ナリシニ、一千九百十四年ニ至リテハ減少シテ僅カニ百八十七箇所トナレリ、且ツ各地方ノ状態及衛生状態大ニ改良セラレタルヲ見ルヘキナリ、然レトモ麵麩屋營業ニ關スル法令果シテ能ク實行サレ居ルヤ否疑ヒナキ能ハス、又之ヲ實行セシムヘキ能力之レナキヨリ、衛生状態其宜シキヲ得サルモノ少ナカラス、此等ノ事ハ須ラク改良セシムハアルヘカラス

(七十九)、市加古市ニ於ル諸工場ハ概シテ其衛生状態宜シキヲ得タリ、甚タシク人口充溢セル箇所左マテニ多カラサルナリ、低キ賃銀ニテ長時間勞働セシムル惡風ノ工場モ最早ヤ其跡ヲ絶チシナリ、工場ハ概シテ他ノ大市邑ニ比較スルニ一層優レル所アリト謂フヘシ

(八十)、牛舎ノ状態ニ就テ之ヲ云ハンニ從前ニ比シテ著シク改良セラレタル所アルヲ見ス、是レ他ナシ衛生局カ牛舎取締ニ關シテ特別ナル權能ヲ與ヘラレシ以來僅カニ一ケ年ヲ經過シタルノミナレハ、其結果ノ著シカラサルモ強テ咎ムルニ足ラス

(八十一)、概シテ之ヲ言ヘハ牛舎ハ衛生上ノ見地ヨリ之ヲ極メテ劣等ナルヘク、下水疏通甚タ不充分ニ、床ニハ不滲透質ノ材料ヲ用ヒス、糞便壺ノ如キモ甚タ惡シク、蠅ヲ豫防スル装置之レナキナリ



(八十二)、雜務取締課ノ活動ハ概シテ好結果ヲ奏セリ、然レトモ視察シタル建物中ニテ宜シキヲ得サルモノモ之レアリシナリ

(八十三)、不平苦情ヲ鳴ラシタルモノ、數ヲ從前ニ比較スレハ一層増加シタルコトヲ知ルヘキナリ、又衛生上不都合ナル點ヲ矯正センコトニ努力シタルノ結果、之ヲ前年ニ比較スレハ著シク改良シタル所ナクシハアラス、又苦情不平ヲ取扱フノ手段實ニ其宜シキヲ得タリシナリ

(八十四)、本局ノ事務取扱上ノ有様ハ其當ヲ得サルモノト謂フヘキナリ、今試ミニ其實例ヲ舉ケンカ、曰ク局長タル者ハ固ヨリ能力ヲ有スルニ相違ナケレトモ、次長等ヘ打テ任セ置キテ差シ支ヘナキ些細ナル事務マテモ、皆自カラ引キ受ケテ處理セントスルカ故ニ其煩ニ堪ヘス、視察官ノ監督タル者ハ實際局内ニアリテ時間ヲ費スコト多キニ居レルカ故ニ其監督ノ行キ屈カサルコト多シ、視察官モ亦是レ局内ニテ事務ヲ執ルコト多シ、斯クノ如キ有様ニテハ行政上其宜シキヲ得サルモノト云フノ外ナキナリ

#### 人命統計局

(八十六)、出生及死亡登記ニ關スル法律ヲシテ今一層完全ナラシメンコトハ今日ノ急務ヲ謂フヘキナリ

(八十六)、出生及死亡登記ニ關スル議案ハ今州立法部ニ提出サレ居ルカ、願ハクハ充分ナル官憲ト必要ナル處分方法トヲ規定スヘキ法律トナランコトヲ

(八十七)、出生登記ハ出來得ヘキ丈ケ速カニ再ヒ開始センコトヲ要ス

(八十八)、近コロ本局ノ組織ヲ一變シタルノ結果トシテ局務取扱上ノ能率ヲ著シク増加シタルハ喜ハシキコトナリ

#### 塵芥處分法

(八十九)、塵芥取扱所ノ行動如何ヲ研究調査セント欲セハ先ツ今日ノ有様如何ヲ知ラサルヘカラス、今日ノ塵芥取扱所ハ修繕及再建ニ取リ掛リ居レリ

(九十)、脂肪採取装置ノ再造ニ要スル資金ハ出來得ヘキ丈ケ速カニ利用サレンコトヲ要ス、蓋シ此脂肪採取及之ヨリ生スル副産物ハ賣却シテ以テ若干ノ金圓ヲ得ヘク、此金圓ハ取リモ直サス市ノ收入ヲ増加スルモノナレハナリ

(九十一)、此塵芥取扱所カ衛生局ノ所轄トナリテ行動スルコト、ナリシ以來、其周邊一般ノ有様カ急激的變化ヲ生シタリ、中ニ就テ最モ著シキ改良ノ實ヲ舉ケタルハ衛生狀態是レナリ

(九十二)、此取扱所ノ重ナル目的トスル所ハ塵芥ヲ取り扱フ上ニ於テ清潔法ヲ專ラトシ以テ衛生上ニ害ナカラシメント欲スルニアリ、而シテ此目的カ達セラレ人ノ鼻ヲ穿ツヘキ惡臭起ラス又近傍ノ住民ヨリ苦情更ニ起ラサルニ至レリ

## ○ 便所、下肥溜場所、建設、保存、掃除—下水トノ連絡ニ關スル件(拔萃)

(衛、規、一九一六年四月十日)

合衆國公衆衛生會週報第卅一卷四十八號三三四六頁記載(市公衆衛生ニ關スル規定ノ内)

第二項 便所壺、下肥溜、又、Privy(便所)、water-clay(便所)、厩、廢水渠及下水或ハ廢物ヲ入ル、下水汚物溜ヨリ流レ込ム水溜ノ收容物カ流出或ハ漏出シテ住家ノ附近ノ土地或ハ井水、泉、其他飲用水、臺所用水ノ源ヲ汚染セシムル原因ヲナスカ如キ狀態若ハ場所ニ之ヲ建設シ又ハ保存スルコトヲ許サス又ハ如斯水溜、下水汚物溜ノ流出物ヲ公共地又ハ廣場等公衆衛生ヲ害フ虞アル場所ニ放出スヘカラス、而シテ總テ如スキ壺穴、下水汚物溜、水溜等ハ衛生官ノ指圖ニヨリ命セラレタル時間ト注意ノ下ニ掃除又ハ收容汚物ノ除去ヲ施行スヘシ

第三項 土地、建築物ノ持主、借受人、使用人若クハ差配人ハ市内ニ於テ其地内又ハ隣接地内ノ住家ノ入口或ハ窓ヨリ二十五フィート以内ニ便所小便所壺、下肥溜ヲ建設シ又茲ニ生命健康ニ害アル狀態及害アリト認メタル便所、便所壺、下肥溜ヲ保存スルコトヲ許サス、又市内ニ於ケル如何ナル便所、便所壺、下肥溜モ空氣、土地、水ヲ不潔、有毒、不健康的ニシ或ハ其他生命、健康ヲ害フノ原因ヲ生シテ生命、健康ニ害アル狀態或ハ有害トナル場合、該建設物所在地ノ持主、借受人、使用人、差配人、其他該地ノ責

任者ハ該建設物ヲ移轉シ又ハ埋立ヲ爲スコトヲ要ス、今後何人ト雖モ公共、本下水ヲ有スル主要街道ニ接シ其場所ヨリ地上若クハ地下ニ流水管ヲ布設シテ右下水ト連絡シ得ラル、土地ニ便所、便所壺、下水溜ヲ建設スルヲ得ス、尙ホ街道(路次ヲ除ク)ヨリ十「フィート」以内或ハ土地境界線ヨリ五「フィート」以内ニ於テ如何ナル種類ノ便所壺ト雖モ之カ建設ヲナスコトヲ許サス

○獨逸出産率半減

(戰亂ノ結果ト出産並死亡率)

(本年四月發行。「公衆衛生」Public Health 第三〇卷第七號所載)

戰亂ノ結果英國、佛國、和蘭、丁抹及獨逸ノ主要都市ニ於ケル出産並死亡率ハ如何ナル關係ニ在ルカヲ知ランカ爲メ最近ノ發行ニカ、ル身分登録官長 Registrar (Tenerol) 四半年報中ヨリ左表ヲ摘録スルコト、セリ、之ニヨレハ獨逸ノ都市ニ於ケル出産率ハ約半減シ、且ツ個々ノ場合ニ付テ觀察スル時ハ死亡率モ亦増大セルモノアルヲ示セリ、即チ茲ニ英國ト外國ノ都市ニ於ケル率ヲ比較セハ次ノ如シ

戰 亂 前 (一千九百十三年)

都 市	人 口	人口千ニ付出生率	人口千ニ付死亡率
バーミンガム	八五九、六四四	二七、三	一四、七
倫 敦	四、五一八、一九一	二四、五	一四、二
阿姆斯特ダム	五九〇、一二二	二三、七	一一、六
コッペンハーゲン	四八三、〇〇〇	二四、一	一三、七
巴 里	二、八四七、二二九	一七、四	一五、九
伯 林	二、〇八一、四五〇	一九、二	一三、七
ハンブルヒ	一、〇三〇、九八三	二一、七	一二、八

戰 亂 中 (一千九百十六年)

都 市	人 口	人口千ニ付出生率	人口千ニ付死亡率
ケ ル ン	五四二、七六九	二六、七	一四、三
フランクフルト、アム、マン	四三九、四〇〇	二〇、四	一一、三
ミュンヘン	六三八、〇〇〇	二〇、九	一四、六
ドレスデン	三六〇、四五〇	二〇、四	一三、二
バーミンガム	八六四、五四五	二四、〇	一三、八
倫 敦	四、三一〇、〇三〇	二三、一	一四、三
阿姆斯特ダム	六二二、〇三〇	二三、四	一二、三
コッペンハーゲン	五一二、〇〇〇	二三、〇	一五、一
巴 里	二、八四七、二二九	九、八	一五、二
伯 林	一、八〇五、三七一	一一、二	一〇、九
ハンブルヒ	一、〇五二、四二〇	一〇、七	一九、〇
ケ ル ン	六五八、四一三	一六、〇	一八、〇
フランクフルト、アム、マン	四七〇、一二四	一〇、八	九、七
ミュンヘン	六七八、一四九	一一、二	一三、八
ドレスデン	五七九、九九八	一一、五	一一、九

(譯者曰) 出生率並死亡率ハ特ニ記載ナケレト人口每一千人ニ對スル比例ナリト認ム

## ○戰時食料ノ胎兒發育ト授乳ニ及オス影響ニ就テ

伯林大學婦人科教室

カール、ルウゲ述

本篇ノ原著ハ「獨逸婦人科雜誌」一九一六年第三三號ニ掲載サレアリシヲ本年二月三日發行「瑞西醫事新誌」ニ轉載シ  
アリ即チ茲ニ翻譯ニ附セリ

伯林大學婦人科教室ブノム教授ハ現下ノ食料關係ハ分娩前後ノ母體及ヒ胎兒ノ發育狀態ニ有害ノ影響ヲ及  
ホスモノニアラサルヤ否ヤ、又妊娠或ハ授乳中ハ蛋白質ノ増給ヲ必要トスルニアラスヤ否ヤニ就テ鑑定ヲ  
ナサント試ミタリ。即チルウゲハ此ノ問題ヲ解決センカ爲メ一千九百十三年及ヒ一千九百十五、十六年ニ  
於テ生シタル兒童ノ重量ヲ比較シ、斯クテ生兒平均體重ノ著シキ減少ハ如何ニシテモ認メ能ハサルコトヲ  
確カメタリ、後裔ニ對スル危害ハ之ニヨツテ見ルモ現在伯林ニ於ケル食料關係ニテハ憂慮スヘキモノナ  
シ。之ニ反シテ母體ハ妊娠及ヒ授乳中種々ナル事情ノ爲メ身體或ハ精神的疾患ニ陥リ易キ危險アルニヨリ  
可及的良好ナル營養ヲ與ヘ之ヲ保護セサルヘカラサルハ理ノ當然タル所ナリ、サレハ妊娠ノ初メヨリ分娩  
後三ヶ月ニ至ルマテハ肉類、脂肪及ヒ含水炭素ノ補給ヲナスヘキコトノ必要ヲ論セリ  
戰時中ニ於ケル初生兒ノ體重關係ニ付テハフライブルヒ大學モンム氏ノ研究モ亦之ト同一ノ成績ヲ示セ  
リ

ルウゲハ尙ホ戰時中男兒出生ト女兒出生關係トノ問題ニ及ヘルモ其數タルヤ平均率ヲ擧ケテ此ノ問題ヲ解  
決センカ爲メニハ未タ充分トハ言ヒ難ケレト一千九百十五、六年ニ於ケル男女ノ比例ハ百名ニ對スル百拾  
壹名ニシテ一見著シク高キカ如シ

子癩患者ハ開戰以來頗ル著シク減少シ戰爭直前ニ於ケル平和ノ年ニテハ分娩ニ對スル子癩ノ比例二・四三  
乃至三・九七%ナリシニ現今ニテハ〇・八五%トナレリ。此ノ現象ヲ他方面ヨリ觀察スルニ獨逸國戰時食料  
ハ肉類多キ平時ノ夫レニ比シ蛋白質及ヒ脂肪含有量著シク低下セルコトニ歸スヘキニアラスヤト思推ス

## ○私生兒問題

四三二

〔公衆衛生第三十卷第七號（一九一六年四月）  
（發行）ニ掲載サレアルモノヲサ全譯セシメタリ〕

王立軍醫學校員、公衆衛生課勤務バリスター、衛生醫員、男爵

テイ、ダブリュー、エス、パーロー氏述

余輩ノ本問題ヲ掲ケテ敢テ諸賢ノ注意ヲ乞ハントスルハ固ヨリ當然ノ事ナリト信ス、抑々乳兒死亡率ニ影響ヲ與フル原因ハ實ニ千有一ヲ算シ、且其ノ原因中主要ナルモノ、ミニ關シテモ、衛生醫員ハ各自獨特ノ地方ニ於ケル經驗ニ基キ各自各様ノ意見ヲ懷抱セラルヘシト雖モ、各地方共通ノ一因タル私生兒ノ非常ニ高度ナル死亡率（主トシテ私生兒カ法上無能力トセラル、ニ依リテ生ス）ニ就テハ、余輩ヨリ之ヲ見レハ、末々其ノ重要性カ要求スル當然ノ注意ヲ喚起セラレスト信セラル、而シテ余輩ハ本問題ノ範圍ニ就キ一般ニ亘リテ之カ實現ヲ期セスト雖モ、千九百年ニ於ケル私生兒ノ出生概數ハ三萬七千即チ大略出生小兒數二十五人中私生兒一人ノ割合ナルニ、其死亡率ハ嫡出子死亡率ニ比シ、二倍、否三倍、四倍、五倍ヨリ少カラサリシヲ知ラハ、本問題ノ重要ナルコト明カナラント信ス

私生兒ハ出生ノ當初ヨリシテ既ニ不利ノ地位ニ置カレ、其ノ法律上無資格ナルハ以テ幾多ノ禍ヲ蒙ラシメ嫡出子ニハ當然分配セラルヘキ機會ノ均等ヲ得サラシム、小兒ノ生ヲ此ノ世ニ享クルハ決シテ小兒自身ノ過失ナルニ非ラス、而カモ斯ク苦マサル可ラスト爲ス理由那邊ニアリヤ。從來所謂「罪ノ中ニ生レタル子」ナル思想之アリシカ、其ハ斯クノ如キ小兒ハ果シテ生息シ得ラレタリシヤ否ヤ、及全體トシテ嫡出子ヨリ死シ易キ傾向アリタルカ否カノ點ニハ餘リ關係アラサリキ。而シテ此ノ後者即チ私、嫡何レカ死シ易キ傾向多キカノ點ニ關シテハ、事實ハ兩者ノ間ニ全ク差異ナキヲ示セリ

一市ベルリンニ於ケル經驗ハ能ク之ヲ證明スルモノニシテ、私生兒ノ出生率（千九百十二年ニ余輩カ同市ニ滯在中調査シタルモノ）ハ全出生數（私、嫡）ノ三十三、三分ノ一パーセントニシテ、時トシテハ其ノ死亡率嫡出子死亡率ノ二倍乃至三倍ナリシコトアリシモ、今ヤ獨政府カ乳兒ノ生命保護制度ヲ採用セル結果トシテ兩者ノ比率ハ全ク差異ナキニ至レリ、ベルリンニ於テハ概シテ私生兒ハ養父母（里親）ヲ有シ、而カモ中央養育院又ハ自宅ニ於テ日ニ數回醫師ノ往診ヲ受クルコト、セラレ、本邦ニ於ケルカ如ク所在ニ放任セラレ、コト之ナキナリ

英國法ニ於テハ、私生兒ハ兩親ヲ有セス、所謂「私生兒ハ一生私生兒ナリ」トハ數世紀間私生兒ノ地位ヲ支配シ來レル思想ナルカ、今日ニ於テモ尙依然トシテ勢力ヲ有ス、而シテ此ノ思想カ數世紀ノ間、未婚婦人ノ分娩ノ一大障害トナリテ、多クハ之ヲ殺シ來レル事實アルヲ知ラハ實ニ驚駭ノ外ナカルヘシ

エリサベス法典ハ小兒ヲ分娩シタル女子ニ宣誓ノ上、該小兒ト血族關係アル男子（父）ニ對シ養育請求ノ訴ヲ提起スルコトヲ得セシメ、且其ノ訴ノ提起ニヨリ被告タル男子ヲ逮捕シ、小兒ヲ養育スルコトヲ承諾

四三三

スルカ、クオーター・セツションニ出廷シテ事實審問ヲ受クルカ、兩者ノ内何レカノ保證ヲ得ル迄之ヲ檢束スルコトヲ得セシメタリ。然レトモ養育院ハ常ニ私生兒ヲ以テ充サレ居タリシカハ、此ノ状態ヲ救済スル爲メ千八百三十四年ニ一法律ヲ通過シ、私生兒ノ母ハ其ノ子ヲ十六歳ニ至ルマテ養育スル義務アリト爲シタリ、尋テ千八百七十三年ノ法律ニ依リ貧民保護官ハ或ル條件ノ下ニ、私生兒ノ養育費ヲ其ノ推定父ヨリ追徴スルコトヲ得ルニ至レリ。然レトモ、該法ハ其レト同時ニ私生兒ノ母ニ對シ其ノ子ヲ養育スル全責任ヲ負ハシムル規定ヲ置ケリ。斯ク私生兒養育ノ全責任ヲ母ニノミ負ハシムルハ、之ヲ公衆衛生上ノ見地ヨリ見ルトキハ實ニ問題ノ燒點タルナリ、何トナレハ、之ハ乳兒ニトリテハ非常ニ不利益ニシテ、且又種々悲惨ナル状態ノ下ニ働キツ、アル母ニトリテハ非常ニ過重ノ責任ナレハナリ

(一) 母ハ其ノ子ヲ分娩スル迄ハ何等救済ヲ得ルコト能ハス、而カモ、母ハ分娩以前ニ於テ既ニ其ノ職ヲ失フヘク、其ノ家庭ハ既ニ破ラルヘク、從ツテ自身ノ糊口ノ爲メニ諸方面ニ彷徨スヘシ、又父ハ小兒ノ出生前既ニ何處ヘカ走ルヘシ、故ニ母ノ引籠中其ノ生活費トシテ幾分ノ物資ヲ父ヨリ得セシムルカ如キ或種ノ救済アラサルヘカラス

(二) 母ハ公開裁判廷ヘ出頭シテ事情ヲ陳述スルコトヲ要シ且右陳述ハ他ノ證據ニ依リテ更ニ詳細ニ決定スヘキモノトセラル、然レトモ、女子ノ多クハ公開廷ヘ出頭スルコトヲ嫌ヒ私生兒手當ヲ受クルモノナシ

(三) 判事ノ裁量シ得ル手當金ノ最高限ハ一週五「シリング」ニシテ、現今ニ於テハ不充分ナリ

之レ最重要ナル事項ナリ、余輩ハ母乳ニ依ル營養ノ價值ヲ隨時力説シツ、アルカ、多少ノ道ヲ通ヒテ、職業ニ從事シツ、アル母ハ如何ニシテカ其ノ兒ニ乳房ヲ含マシメ得ヘキ。若シ夫レ家庭ニ在リテ、哺乳セシメントナラハ、一週五「シリング」ノ手當ニテハ到底満足ナル家庭ヲ爲スコト能ハサルヘシ

(四) 乳兒ノ十六歳ニ達スルマテ、其ノ養育費ヲ供給シ得ルモノハ父ノミナリト信ス、若シ其ノ子ニシテ畸形、病身、若ハ癲癩ナル場合ニハ養育期間ハ更ニ延長セサルヘカラス

(五) 私生兒ノ父ヲ定ムル命令ハ千九百十四年ニ改正アルマテ、養育費徵收ノ責任ヲ母ニ負ハシメタリシカ、母ノ多クハ甚タ無智ナリシカ故ニ費用徵收ノ方法ヲ知ラスシテ幾多ノ障害ニ苦ミタリ。年金ヲ差押ヘ、及不履行ノ場合ニ相當ノ處分ヲ爲ス權限アル徵收官ヲ任命スル權能ヲ裁判所ニ附與シタルハ千九百十四年ノ私生兒ノ父ヲ定ムル法律ノミナリキ

(六) 乳兒ノ養育ヲ命スルカ爲ニスル召喚ハ、乳兒出生ノトキヨリ六ヶ月以内ニ之ヲ行ハサルヘカラス、而シテ此ノ召喚ハスコットランド若ハアイルランドヘ移住スルコトニ依リ容易ニ免脱スルコトヲ得ヘシ勿論或ル者ハ、不徳ノ徒斯クノ如キ男女ノ罪惡(私通ヲ發ハカル、ニ依リテ生スル不名譽)ヲ利用シテ脅嚇取財ヲ爲スコトアルヲ度外視ス可ラスト爲スモノアラン、然レトモ斯クノ如キ男女ヲ特ニ保護スルノ必要毫モ之ナキノミナラス寧ロ苦痛ヲ與フルヲ可ト信ス

又他ノ缺點ハ、本法ニ基キテ男子カ支拂ヒタル養育費カ果シテ適當ニ使用セラレタリヤ否ヤヲ確知スル保

證アラサリシコト之ナリ。女子ハ或ハ賣笑婦トナリテ又多クノ小兒ヲ有スルニ至ルヤモ知レス、斯クテ女子ハ漸ク其ノ子ヲ等閑ニ附スルニ至ルヘク、又小兒ノ養育費トシテ得タル收入ニヨリテ生計ヲ爲スニ至ルヘク、甚シキハ小兒ハ既ニ母ノ手ヲ放レテ他家ニ養子トナルコトアルヘシ、而カモ男子ハ猶養育費ノ支拂ヲ續ケサル可ラサル實アルヘシ。然レトモ本紙ニ於テハ全ク乳兒ノ生命保持トイフ點ヨリノミ本問題ヲ論セントスルモナルカ故ニ其ノ方面ニ關シテハ多ク論及セザラント欲ス。余輩ノ上來引例シ來レル母ノ無能トイフコトハ總テ生命ノ保持ニ直接ノ影響ヲ有スルモノナリ。何トナレハ、金錢ノ缺乏ハ、小兒養育ニ關シ必要ナル注意ヲ充分用ヒタリヤ否ヤ、小兒ハ母乳ニヨリ養育セラレタリヤ否ヤ、若人工的營養ナラハ、與ヘタリ食物ノ種類如何ヲ決定スル上ニ於テ重要ナル原因ナルコト勿論ナリト雖モ、又妊婦ノ健康ニ深甚ノ影響ヲ與フルモノニシテ、從ツテ又胎兒ニ影響スルコト多大ナルモノナレハナリ

貧民法ハ普通是等不幸ナル母子ニ對シ其ノ立法ノ趣旨タル恩惠ヲ及ホサスト解セラレ、又小兒ノ安寧幸福ニ就キ後見人(保護官)ニ全責任ヲ負ハシメタリト爲スニハ解釋上疑アリ、更ニ新タナル義務ヲ負ハシムル能ハサルハ勿論ナリトス

乳兒生命保護法及小兒法第一篇ノ執行官廳ハ保護官ニシテ、該保護官ハ乳兒ノ健康巡視員ヲ任命スル權能ヲ有ス、而シテ此ノ巡視員ノ職務ハ乳兒ノ寄宿セル家庭ノ清潔狀態及養母(里親)ノ品性如何ヲ觀察スルニアリタリシト雖モ、該法ノ目的ニ沿ハサルコト屢々之アリキ。例之、家庭ノ乳兒ニ下適當ナルコトヲ發見

シタル場合ニ於テモ、巡視員ハ私生兒ノ母ニ對シ單ニ他ノ家ニ移スヘキヲ指示スルノミニシテ、其母ヨリ適當ナル家ノ所在ヲ問ハル、コトアルモ、自己ニ斯クノ如キ家ヲ發見スル義務ナキヲ放言シテ之ヲ教ヘサルコトアリ得ヘシ。母ノ中ニハ或ハ雇ハレ中ノ者モアルヘク、或ハ土地不案内ノモノモアルヘキニ、斯ク情ナク言ヒ放サル、ニ於テハ如何ニ感スルナラン、斯クノ如キ境遇ニアル母ニ如何ニシテ能ク其勤務ヲ放レテ其子ノ爲メニ里親ヲ尋ネ廻ルコトヲ得ヘキ、一週五「シリリング」ノ養育費(五「シリリング」ハ最高限ナリ)ヲ以テシテ如何ニシテ其子ヲ適當ニ養育スルヲ得ヘキ。何スレノ能ク其ノ可弱キ手仕事ニ依ル小收入ヲ以テ其ノ子ニ着物ヲ與ヘ同時ニ自身ノ口ヲ糊スルヲ得ンヤ

實際ノ結果ヲ見ルニ、是等可憐ナル乳兒ノ里親ハ、一般的ニ言ヘハ、乳兒生命保持ノ目的ニハ甚タ不適當ナリ、尤モ清潔ナルモノモ全ク之ナキニアラサルモ、其ハ單ニ乳兒ニ就キテノミ清潔ナルヤウ心掛ケシニ過キスシテ彼等自身ハ依然非衛生的ナリ

貧民法カ「若シ母ニシテ其ノ子ヲ養育スルニ充分ナル金ヲ得ル能力ナキトキハ、乳兒ニ關スル何等ノ救済ヲモ與ヘス」ト爲セルハ一見甚タ意ヲ用ヒタル政策ナルカ如シ、然レトモ、母ハ其ノ子ト共ニ養育院ニ入ルコトヲ得ヘク又其ノ子ニシテ疾病ニ罹リシトキハ養育院病院ニ托スルヲ得ヘシト雖モ、凡ソ子ノ面倒ヲ見ルコトハ母ニ若クモノナキカ故ニ、直接ニ母ノ手ニ返ヘヌヲ可ナリト信ス。又此ノ政策ハ他ノ一面ニ於テハ兩性間ノ不道德防衛ヲ目的トシタリシカ、其期待スル當然ノ效果ハ得ラレスシテ、却ツテ只單ニ乳兒ヲ

害セルノミナリキ、私生兒死亡率ノ高キ蓋シ宜ナリト云フヘシ

然ラハ是等ノ困難ヲ抑制スルノ方法如何、先ツ第一ニ私生兒ノ父ヲ召喚セラレンコトヲ請求スル訴ノ提起ヲ私生兒ノ母ノ義務ト爲スコト之ナリ。若シ此ノ政策ニシテ採用セラレ且父ノ養育費支拂ヲ裁判所又ハ相當官廳ノ權力ニ依リ絶對的ニ強制セラル、ニ於テハ必ラスヤ私生兒死亡率ノ昂進ヲ防止シ得ヘケント信ス。而シテ乳兒ヲ委託スル家庭ハ必ラス温良ナルコトヲ要ス、又父母ノ共同シテ負擔スヘキ養育費ノ按分比例ハ裁判所ヲシテ之ヲ定メシムルコト、爲シ、父ノ所在ヲ知り得サル場合ニ於テ、母モ亦其ノ全部ヲ支拂フ資力ナキ時ハ、其ノ殘額ハ之ヲ補助スルコトト爲スヘシ、而シテ此ノ場合ニ於テハ、母ノ自身ノ愛情ヨリシテ乳兒ヲ適當ナル家庭ヨリ引取ルコトヲ禁止スルヲ要ス、且多數(二人以上)ノ私生子ヲ有スル女子ハ一定ノ家庭中ニ收容スルコトヲ得ル權能ヲ相當官廳ニ附與スルヲ可トス

乳兒生命保護法ノ執行權ハ保護官ヨリ市ニ移管スルヲ可トス。何トナレハ地方官憲ハ出生届出法ニ依リ、其管内ニ於テ出生シタル小兒ニ就キテハ、其出生ノ時ヨリ三十六時間以内ニ其届出ヲ受理スヘキモノトセラル、カ故ニ取扱上便宜ヲ有スヘケレハナリ。加之、地方廳ハ産婦院及小兒養育院ヲ設立スル法上ノ義務ヲ有ス、此レ即チ當該廳ハ其管内ノ小兒ノ幸福ニ就キ、出生ノ時ヨリ十四歳ニ至リテ其ノ教育ヲ終ルマテ責任ヲ有スルコトヲ意味スルナリ、然レトモ私生兒ハ實際上除外セラレツ、アリ。何カ故ニ私生兒ハ此ノ監督外ニ除外セサル可ラサルカ、私生兒ノ生命ハ嫡出子ノ生命ヨリ其價值少キニ依ルカ、皆非ラス、只貧民

法ニ基キテ任命セラレタル巡視ノ監護ニ服スルモノトセラル、カ故ニ實際上除外セラル、ノ結果トナルナリ、但シ私生兒ニシテ疾病ニ罹リタル場合ハ多分教區ノ醫師診察ヲ受クルコトナルヘシ

私生兒ノ母ノ多クハ必ラスシモ貧困者ニアラサルニ拘ラス、母及其無辜ノ乳兒カ常ニ貧苦ニ沈溺スル理由如何、余輩ハ敢テ「貧苦ニ沈溺」トイフ、何トナレハ、貧困者ノ多クカ爾ク認メテ之ヲ嫌ヒツ、アルコトハ否定スルコト能ハサル事實ニシテ、且又重症肺結核患者ニ關スル余輩ノ經驗ニ依レハ、患者ノ多クハ病苦甚シキニ拘ラス、貧民法ニ基キテ設立セラレタル療養所ニ入ルコトヲ絶對ニ拒絶シ、説諭大ニ努メタル結果幸ウシテ入院セシメタルモノ及病症極度ニ達セルカ爲メニ入院シタルモノ僅ニ數人ナリケレハナリ。加之、一般人ノ側ニ於テモ、教區ノ醫師ノ手當ヲ強制セラル、コトヲ同様ニ嫌忌スルノ風アリトハ巡視員ノ屢々報告シ來レル所ナリ、彼等ハ施療患者トナルヨリハ寧ロ地方施療院ニ藥價トシテ「ペンス」ヲ支拂フヲ喜ヒ、中ニハ開業醫ノ治療ヲ受ケンカ爲メニ數「ペンス」ヲ積立テ置ク者スラ之アリトイフ、而シテ此ノ積立金ハ決シテ他ノ用途ニハ流用セス

要之、貧民法ノ私生兒ニ對スル態度ハ乳兒ノ生命保持ニ直進セスシテ却ツテ乳兒ノ其管轄内ニ委セラル、ヲ防遏スルコトヲ努ムルカ如シ、換言スレハ、人道主義ヲ無視シテマテモ、努メテ經濟的ナラントセルナリ。而カモ同時人道ノ最善ニ盡シツ、アリト溺信セリ、之レ甚タ謂ナキ迷想ナリト思惟ス

貧民法カ斯クノ如キ態度ヲ採レルハ多少了解ニ苦シムモノアリ、何トナレハ、母ニシテ其行先ヲ告知セス



シテ從來ノ居所ヲ去ルニ於テハ、母親ハ里扶持ヲ得ラレサルカ故ニ乳兒ヲ保護官ニ戻スニ至ルヘシ、即チ母ノ意思如何ニ依リ容易ニ保護官ヲシテ里親ヨリ乳兒ヲ引キ取ラサル可カラサルノ止ムナキニ至ラシムヘキカ故ナリ

乳兒保護巡視員ハ前述ノ如ク乳兒ノ爲メニ其家庭(里)ヲ發見スヘキ義務ナシ、故ニ母ニハ多クノ場合、適當ナル里ヲ覓ムルコト絶對ニ不可能ナリトスル理由ヲ覆ヘスニ足ル他ノ有力ナル理由アラサル限り、里親發見ノ義務ヲ巡視員ニ負ハシムルノ可ナルハ蓋シ自明ノ事ナルヘシ

之ヲ要スルニ、吾人行動ノ根本義ハ小兒ノ苦メルヲ坐視スヘカラスト爲スモノナリ、然リ而シテ經驗ノ示ス處ニ從ヒテ現行制度ヲ見ルニ、該制度ハ性的不道德ヲ防遏スル作用ヲ爲サスシテ、却ツテ其反動ヲ小兒ニ及ホシ其結果ハ乳兒死亡率ノ高度ナルニ於テ現ハレツ、アリ。乳兒ハ如何ナル犠牲ヲ拂ヒテモ之ヲ保護セサル可ラス。而シテ乳兒ニ對スル責任ハ少クトモ兩親ノ間ニ分配セラレサル可ラス、現在ニ於ケルカ如ク殆ト母ニノミ負ハシムルハ不可ナリ

若夫レ小兒ノ生命ニシテ最モ尊重スヘキ時アリトセハ今日コソ眞ニ其ノ時ナルヘシ、人一度現下ノ大戦カ如何ニ生命ヲ消耗シツ、アルカヲ見ハ、思半ニ過クルモノアラン。然リ而シテ乳兒ノ生命ハ總テノ手段ヲ盡シテモ之ヲ保護セサルヘカラストセハ、須ラク合理的ナル状態ノ下ニ之ヲ養育スヘキナリ。今日屢々見ルカ如ク所在ニ放任スヘカラスト、甚ダシキニ至リテハ、生後一年ヲ經サルニ既ニ五、六度モ里親ヲ換ヘ、

其都度無責任ナル里親ノ不注意ノ犠牲トナリ、生涯病身タルヘキ禍根ヲ此處ニ植エ付ケラレ、從ツテ終身養育院、結核療養所等ノ入院者ノ如ク階級若ハ博愛主義ノ積荷タラシムルモノアリ、是等ノ小兒ト雖モ、適當ナル状態ノ下ニ生後二年間ヲ養育セラレタランニハ、人口ノ健康單位トナリ從ツテ又社會ノ重要ナル一員トナリ得ンコト疑フヘクモアラス

前述ノ外改革ヲ必要トスル點ハ英國以外ノ歐洲各國ニ於テ實施シツ、アルカ如ク、私生兒ハ其父母ノ婚姻ニ依リ當然嫡出子タル身分ヲ取得スト爲スヘキコト之ナリ。何トナレハ。母ハ其子ノ養育ヲ餘義ナクセラハシト雖モ、私生兒ハ法律上姓名及後見人ヲ缺キ且母ハ其臨終ノ場合ニ於テモ猶其子ノ爲メニ後見人ヲ指定スルコト能ハス、加之、遺言ニ依ルノ外私生兒ハ土地其他ノ財産ヲ相續スルコト能ハサレハナリ

小兒ヲ有スル寡婦ノ爲メニ何分ノ規定ヲ設クルヲ焦眉ノ急トス。端正著實ナル職工ノ子弟モ往々ニシテ不潔、粗食ナルコト之アリ、加之父ノ無缺點ナル一般ニ却ツテ其ノ子ヲ等閑ニスルノ實アルカ故ニ、小兒監督ノ能力アリ且預リテ監督スルノ意思アル適當ナル戸主ヲ求メ得ルコトハ殆ト不可能ナリ。グラスゴーニ於ケルモノハ此ノ適例ナリ

最後ニ一言スヘキハ、戦死者ノ遺子ノ養育ハ國民全體ノ負擔ナルカ故ニ、國家ハ須ラク是等ノ遺子ハ果シテ適切ニ衣食並教育ヲ受ケツ、アリヤ否ヤヲ調査セサル可ラサルコト之ナリ

## ○佛國ノ戰後二年ニ於ケル微毒

(佛蘭西、醫學士院雜誌ヨリ熱帶醫學衛生雜誌第二)  
十卷第七號(一九一七年四月二日)ニ轉載サレシモノ)

ゴーシユ、ピサー述

戰爭以前ニ於テハ患者三千中一〇%ハ微毒性ノモノナリシモ、戰爭後ノ初メ十六ヶ月ニ於テハ一六、六七%ニ増加シ、最近八ヶ月ニ於テハ二千三百ノ患者中二五%ノ當該患者ヲ見ルニ至リタリ  
微毒患者六百人中ニハ(兵士以外ノ者)庶民二百十九人二十歳以下ノモノ三十七人、五十歳乃至五十九歳ノモノ十四人六十四歳、六十六歳ノモノ各一人アリ、兵士ノ内ニ於テハ二十五歳以上ノ者最モ多シ  
一九一六年ノ最初八ヶ月ニ於ケル、第一期微毒婦人患者二百二十二人中三分ノ二以上ハ既婚者ニシテ其夫ノ歸省後暫クニシテ第一症狀ヲ呈シタルナリ、是等婦人ノ三分ノ一ハ三十歳以上ノ者ニシテ、夫ヨリ感染セシト信ス可キ證アリ

Gaucherハ男子並ニ女子ニ於ケル痲疾ノ非常ナル流行ヲ高唱シ、其危險ヲ民衆ニ知ラシム可キ必要ヲ詳述シ、尙ホ進ミテ醫師ニモ其適當ナル診斷並ニ治療ヲナス可ク教養スルノ必要ヲ説ケリ、同氏ハ青年ヲ試問シ、花柳病ノ危險ニ關シ無智識ナルニ一驚ヲ喫シタリ、尙ホ微毒性疾患ニシテ、特種療法ニテ直ニ治療セシメ得ヘキモノナルニ不拘、長期ニ涉リ、誤リタル見地ヨリ、咽喉患部、足ノ潰瘍、又ハ脫毛髮症ニ對シ無益ナル處置ノ施サレ居リタルヲ見タリ、此處ニ同氏ハ主張シテ曰ク、邊鄙ノ村落ニ至ルマテ微毒ノ浸入シ

ツ、アルハ時ニ寒心ニ堪エサル處ニシテ、各醫師ハ微毒ニ關スル講習ヲ受クルヲ要スト

同氏ハ嘗テ、十二年前ニ於テ、醫學課程ノ第四年ニハ皮膚病微毒學科ヲ入ル可キヲ力説セシニ、凡テノ者ハ之ニ同意セリ、然レトモ何等實行ヲ見ルニ至ラザリキ、同氏ハ「疾病ヲ豫防セントセス、治療ヲ求ムルニ至ル迄其マ、ニ待ツハ佛蘭西ノ一習慣ナリ」ト評シ、此微毒ノ増加ハ只戰爭ニノミ原因スルモノニ非スシテ、戰爭ハ只之ヲ早メタルモノナルニ過キスト稱セリ

## ○公衆衛生ヨリ見たル花柳病

四四四

サー、フランシス、チャンブネイス述

下記ノ小冊子ハ公衆衛生ヲ冒ス花柳病者ニ關スル重大事實ヲ陳述スルヲ目的トス

### 花柳病ノ流行

後天的或ハ先天的微毒ニ感染シタル人數ハ大都市ニ於テハ全人口ノ十「パーセント」ヲ下ラス、而シテ痲疾ニ罹レル人ノ百分比例ノ微毒ノ比例ハ大ニ超過スヘシ(ロイヤルコンミッションノ報告第六八章)

花柳病ハ人口ニ如何ナル害ヲナスカ

### A、死 亡

オックスフォード大學ノ醫學鑑定講座擔任教授サー、ウイリヤムオスラー(Sir William Osler)氏ニヨルハ致命的疾病中微毒ハ三分ノ一或ハ四分ノ一ヲ含ム(第六八章)、而シテ「コンミッショナース」ハオ氏ノ證明ハ診斷ヲ免ルトイフ原因ニヨル死亡數ノ甚大ナルニ相違ナキコトヲ明ニ示ス物ナリト述フ(同章)、微毒ニ依ルト確認サレタル死亡數ハ事實ヲ表ハサス、何トナレハ大多數ハ微毒ニ基因スル疾病ニヨルト記載セラレハナリ、實ニ微毒ハアラユル年齢出生以前スラ即チ妊娠ヨリ老年ニ到ル迄人生ノ無限ノ損失ノ原因ナリ

### (a) 出世以前ノ死亡

遺傳的微毒ハ胎兒ノ主ナル死因ノ一ナリ、感染強キ程胎兒ハ殺サル、而シテ害毒ノ存スル所ニハ普通流産引キ續キ起ル、假令妊娠ノ終マテ胎兒生キ延ヒタランニモ尙死スルニ異ラス

### (b) 嬰兒及兒童ニ於ケル死亡

胎兒出生スルモノ生長シ得ル可能率ノ直接疾病ヨリ又精力ノ缺乏ヨリシテ大ニ制限セララル、而シテ精力ノ缺乏ハ小兒ヲシテ他ノ疾病ニ對スル抵抗力ヲ減セシム

### (c) 壯年ニ於ケル死亡

#### (1) 後天的微毒

壯年ニ達セル人ハ分娩期前、嬰兒、兒童、青年ノ危険ヲ通過シタルナリ、故ニ一定量ノ生活力ヲ有スル事ヲ示セリ、彼ハ斯クシテ撰ハレタル個人トナル、故ニ微毒ノ感染ハ壯年ニ於テハ幼時ニ於ケルト同程度ニ生命ヲ害フコトハ殆ト豫期セラレス然レトモ年齢進ミ微毒ノ後結果カ現ハレ初ムル時ニ殊ニ神經系統及循環系統ニ種々ナル麻痺(例運動失調)、心臟病(動脈瘤)其他ノ疾病起リテ今迄遲延サレタル破壊ヲ試ムルナリ

#### (2) 痲 病

此ノ疾病ハ更ニ等閑ニ附セラレタリ、通俗ニハ風邪位ニ考ヘラル、ニ過キス、男女ニ及ホスソノ結果ハ生命ノ危険ノ程度ニ關シテハ異ルモ兩性共ニ生命ハ之カ爲ニ失ハル

男性ニ於テハ主トシテ排泄器ニ危險來ル、此ノ傳染病ハ狹窄即チ尿道(尿ノ通路)ノ狹窄ヲ起シ、ソノ結果非常ナル不快ヲ感セシムルノミナラス腎臟ニモ苦痛ヲ起サシメテ腎臟ノ活力ヲ減シ腎臟ヲシテ疾病ニ抵抗スルヲ得サラシム

女性ニ於テハ此ノ傳染病ハ子宮内ヨリ喇叭管(輸卵管)ニ移リ腹膜ニ達スル事アリ、而シテ娠衝ヲ惹起シテ腹部ニ大手術ヲ受クヘキ事トナリ多數ノ生命ハ失ハル

公衆衛生研究ノ大家ハ最近迄ハ大人口ノ利益問題ニツキ説ヲ吐カサリキ、最近半世紀ニ於テ若シ人口又ハ家族ノ數カ中庸ヲ超ユルナラハ各人ハ幸福ニ非サルヘシ分ツヘキ富ハ減スヘケレハナリトノ輿論アリテ花柳病ノ増加或ハ兎ニ角花柳病者ト爭フ種々ノ努力ノ禁戒ハカ、ル輿論ト一致セシナム、然レトモ斯ノ大戰争ハ種々ノ事ヲ以テ此ノ輿論ヲ吹キ去リ又今日各人ハ最モ大ナル最モ健康ナル人々ノ得ラル、ハ我國民ノ存在ニ必要ナリトノ意見ニ同意スル如シ、カク生氣ヲ與フル處置ニ對シテ花柳病ハ生命テフ恐ルヘキ通行税ヲ要求スル最大ナル障害ノ一ナリ

B、疾 病

### 一、微 毒

(a) 出世前及嬰兒兒童ニ於ケル

遺傳的微毒ハ神經中樞殊ニ感覺器ニ及ホス結果トシテ屢々幼年ニ盲聾ヲ起サシム、三一〇二パーセント(倫

敦洲會盲目學校兒童ノ)ニテハ原因、確ニ微毒ニシテ二・八パーセントハ附加的病症恐クハ微毒ナリキ、二四・四パーセントハ原因痲病ナリキ、盲目ノ半數以上ハ兩親ニ於ケル花柳病ノ結果ナリキ(第百二章)、盲目、聾ニ虛弱、痴愚、皮膚ノ種々ノ形狀、先天的微毒ニヨル骨其他ノ疾病ヲ加フレハカ、ル場合ノ全數ハ付度スル事能ハス(第百三章)

(b) 壯年ニ於ケル

微毒感染ノ直接結果ハ後年ノ顯著ナルニ比シ弱シ、患者ハ攻撃ニ對シテ殆ト不隨意ニナル事ナシ、最初ノ治療シ得ヘキ時期ニ於テ治療ヲ怠リ將來到底治シ得サルニ到ラシムルハ事實ナリ、然レトモ若シ最初等閑ニ附セラル、ナラハ全身ノ不健康ハ患者自身ニ認メラル、ニ到リ屢々身體ノ種々ノ點ニ潰瘍來ル、動脈傳染スレハ多ク重大結果ヲ惹起ス、人ハ彼ハ「動脈ノ如ク古シ」トイフ、此ノ老年ハ青年ノ終ラヌ前ニ初ルヘシ、此ノ外ニ動脈瘤モヤ、モスレハ來ル、而シテ直接生命ヲ嚇ス、然ルニ動脈瘤ハ又循環系統ノ損傷ヲ起ス其重大ナル事ハ感染シタル動脈ノ分布セル部分ニヨリテ異ル大動脈(身體ノ主ナル血管幹)ノ動脈瘤ハ九〇「パーセント」ハ起源微毒性ナリ(第七七章)、此ノ傳染病ノ生命ハ健康トニ及ホス危險ハ殆ト詳述スルニ及ハス、種々ノ疾病ト死トニ關聯シテ一般ニ知ラル、痲疾ノ一ナレハナリ

腦動脈カ微毒ニ感染スル時ハ循環系統ニ種々ノ損傷ヲ來タシ血液供給ノ缺乏ノ爲ニ腦ノ病的軟化ヲ起スニ到ル事アリ、心臟自身モ感染シテ瓣ノ病、心臟筋ノ退化及胸悸ヲ惹起ス、動脈ハ全身ヲ流ル、故ニ如何ナ

ル器管モノノ機能ニ應シテ同様ニ感染セラルヘシ

### 神經系統

微毒ニヨル總テノ疾病中感染時ヨリ、十、二十、三十或ハ其以上ノ年月ノ經過スル迄現レサル神經系統ノ疾病ハ最モ主要ナリ、腦及脊髓(神經中樞)ノ疾病屢起ルノミナラス治スルニ甚タ困難ナリ、而シテ多クノ場合ニハ實地的ニ治スル能ハス、此ノ疾病ハ腦脊髓ヲ圍繞スル膜ヲ犯シ膜ノ包メル器管内ニ膜ヲ通シテ擴ラントス、此等ノ感染ノ結果ヨリ多クノ麻痺來ル、例ヘハ半身不隨(腦ヨリ)或ハ下肢不隨(脊髓ヨリ)又盲、聾、啞、健忘症、精神衰弱、癲癇性痙攣及神經系統ニ於ケル後年ノ微毒性腫瘍ノ形狀ニヨル其他種々ノ微候(第七八章)、又狂人、全身麻痺ハ常ニ致命的ニシテ微毒ニヨル、此ハ大都市ノ癲癇病院入院男子ノ十五「パーセント」、女子ノ三「パーセント」ニ達ス、脊髓勞或ハ運動失調ハ特徴的歩行不調ヲ起ス、此等ハ共ニ身體ノ諸所ニ多ク苦惱アル微候ヲ來ス(第七章)、故ニ微毒ハ或種ノ癰腫及肺結核ニ陥リ易カラシムルト信セララル(第八〇章)、實ニ微毒ノ害毒ハ蔓延スルヲ以テ吾人ハ微毒菌タルスピロヘーテヲ全ク撲滅スルニ非レハ害毒ノ那邊迄波及スルヤヲ知ル能ハス

### 二、麻 疾

(a) 壯年ノ男性ニ於ケル

傳染ハ泌尿生殖器ノ種々ノ點マ<sup>ト</sup>昇<sup>リ</sup>ユク、特有ノ療法カ遲延スル程益々遠ク益々深ク傳播ス、傳染ハ上

述ノ如ク泌尿管ヨリ傳播シ多クノ苦痛ト不快トヲ惹ス、偶然ノ宿命の結果ハ扱テ置キ重患カ攝護腺(膀胱ノ頭部ニ存ス)膀胱、腎臟ノ感染ニヨリ起ル事アリ、尿道(尿ノ通路)ノ狹窄ハ終身苦痛ノ原因トナル、此感染ハ生殖管ニ沿ヒ辜丸ニ傳播シ非常ニ苦シキ腫脹ヲ有スル焮衝(辜丸炎)ヲ起シ患者ヲシテ力行ヲ不可能ナラシメ時トシテハ精子ナキニ到ラシム、又血流ニ入り血毒ヲカモス、一次的ニ關節ノ炎衝ヲ來タシ折々永久的ノ跛者トシスヘテノ關節ハ冒サル事モアリ、更ニ纖維結締織ノ炎衝現ハレテ腰痛及此ニ類スル苦痛扁足ナトノ原因トナリ且ツ心臟内層及虹彩ノ焮衝モ起ル

(b) 壯年ノ女性ニ於ケル

傳染ハ泌尿器ヲ犯シ男性ニ於ケルハ同シク膀胱腎臟ノ苦痛ヲカモス、又上述ノ如ク生殖管ヲモ胃シ腔ヨリ子宮又ハ子宮喇叭管(輸卵管)腹膜ニ蔓延シ腹膜炎(普通局部的)ヲ起ス、時トシテハ膿瘡形成ノ爲ニ危険ナル手術ヲ必要トスル事アリ、婦人病ニ苦ム人ノ大部分ハ其苦痛ハ痲病の傳染病ニヨルナリ、而シテ多クハ終身痲疾ノ結果ヨリ苦痛ヲウク、此等ノ結果ハ若シ初期ニ於テ迅速ニ且ツ巧妙ニ治療セラルルニアラスンハ特ニ起リ易キ物ニテ治療法ハ嚴格ナル横臥ヲ含ム、一ノ共通結果ハ不妊ナリスヘテ不妊ノ殆ト年數ハ痲病ニヨルト信セラレツ、アリ、妊娠ハ更ニ困難ニシテ流産ハ普通ナリ、若シ勞働カ行ハレ且ツ感染カ此ニ從フナラハ絶對的不妊娠ノ續ク傾向アリ、カ、ル出來事ハ所謂一人子ナル物ヲ屢々説明ス(第八十六章)、關節、纖維結締織、心臟内層、虹彩ノ炎衝ノ如キ痲疾結果ハ男性ニ於ケルト同シク女性ニモ起リ得

(c) 女兒ニ於ケル

四五〇

若キ女ノ生殖器ハ特ニ痲疾ニ感シ易キ物ナリ、小兒科病院ニ於テハ四歳乃至十四歳ノ女カ屢々痲疾ニ苦メルヲ發見サルカ、ル事情ノ下ニ強淫ノ告訴カ男子ニ對シテ爲サルハ稀ナラス、或場合ニハ告訴ハ事實ナリ、何トナレハ痲疾ニ悩ム男ハ處女ニ痲疾ヲ傳フル事ニヨリ自ラヲ治シ得ト云フ根底ナキ信念無智者ニアレハナリ、然レトモ經驗ヨリ見ルニ此等ノ告訴ノ多クハ正シカラスト認メラル、感染ノ普通方法ハ手拭、毛布、寢衣ヲ排泄物ニ汚サル、ニヨルナリ、女兒ノ痲疾ハ上方ニ昇ル事稀ナレトモ治シ難シ、排泄物ハ屢兩親ノ指ニ寢テ兩眼ニ運ハレ眼炎ヲ起シ遂ニ盲目トナル(第八八章)、此ニ關シテ兩親ノ痲疾ノ子孫ニ對スル最モ恐ルヘキ結果ナル初生兒眼炎ト云フ専門語ニ就キ云ハン、母ノ痲疾的腔排泄物ハ普通勞作中幼兒ノ眼ニ入り烈シキ炎衝ヲ起シ(迅速巧妙ニ治療セラレズンハ)眼ノ潰爛或ハ破壊ヲ伴フ、初生兒眼炎ハ七〇「パーセント」ハ痲疾的ナリ、盲目ノ總テノ場合ノ二五「パーセント」ハ此ニヨル、傳染ハ指亞麻布、水又ハ病菌ヲ含メル運搬器ニヨリ老若何レノ他人ノ眼ニモ運ハレ盲目ヲ犯ス(第二九、九六、一〇二章)

C、不胎(不妊症)

已ニ述ヘシ如ク不胎ハ兩性共ニ痲疾ニ基因ス、男性ノ不胎カ認メラレタルハ最近ナリ、以前ハ缺點或ハ汚點ハ常ニ女ノ側ニアリト想像セラレタリ、而シテ女カ子孫ナキタメニ非難セラレ或ハ不妊症カ夫ニヨリテ傳達セラレタル痲疾ノ結果ナリトモ又ハ一方不妊症ニアラサル時ニテモ不妊症ニ對スル多クノ治療ヲ受ケセハナリ

D、活動力ノ消失

壯年者間ニハ疾病ノ比較的初期結果タル活動力ノ消失ハ重大ナリ、一九一二年ノ海軍統計ハ一一九、五四〇人ノ平均兵力ヨリ花柳病ノ結果トシテ失ハレタル日數ハ二六九、二一〇ナル事ヲ示ス、陸軍ニテハ同年中家庭ニアリシ者カ歸隊セル時ニ一〇七、五八二兵力ヲ平均常ニ五九三人ノ患者アリテ同一ノ理由ヨリ二一六、四四五日ノ損失ニ等シキ事發表サル(第一〇四章)、市民ニ關シテハ此ニ符合スル表ハ得ラレス、然レトモ吾人ノ公務殊ニ陸軍ハ最早ヤ別個ノ團體ヲ表スニアラスシテ吾人ハ今ヤ實際武裝セル國民ナル事ヲ記憶スヘキナリ

E、觸接傳染

吾人ハ個人ノ觀察點ヨリ花柳病ノ結果ヲカクマテ考ヘタリ、此ノ問題ハ無限ニ重大ナレトモ吾人ノ述ヘンハ問題ノ一面ノミナリ、此等ノ疾病ノ主ナル危險ノ一ハ疾病ノ傳染シ易キ事ナルヲ記憶スヘシ、微毒又ハ痲疾ニヨリテ感染セラレシ人ハ何人モ觸接スルアラユル人ニ危險ナリ、勿論主ナル傳染法ハ交接ナリ然レ

トモ又他ノ方法モアリ、ソノ二、三ノ物ニ對スル論ハ既ニナサレタリ

無智ノ觸接傳染

兩疾病共ニ種々ノ方法ニテ傳染サレ得ル所ニ病菌ハ患者ヨリ逃レ出テ、他人ノ組織ニ入り得ル微毒ノ場合ニハ觸接傳染ハ起リ得、既ニ感染セル人間ニツキテハ腫物、擦剝傷ノ如キ皮膚ノ如何ナル傷害モ病菌ヲ漏出セシメ又切レ傷、抓痕ノ如キ皮膚ノ障害、體ノ一部ノ容易ニ貫通シ得ルハ健康ナル人ニ病菌ヲ浸入セシムル事アリ、元來感染セラレシ人間ニ關スル條件ハ疾病ノ一定時期ニアラン、カ、ル感染ノ最モ普通ナル一原因ハ甚タアリフレタル口内ノ潰瘍ナリ、而シテ疾病ハ觸接セル總テノ物ニヨリテ蔓延セラル、匙、肉又、煙管、針、酒杯等ハ觸接傳染ノ普通媒介物ナリ、感染セル人間ノ接吻モ然リ、此ハ總テノ躰ヨキ小供カ他人ノ匙、肉又、コップ、水呑ヲ用ヒ或ハ口内ニ針ヲ入ル、ヲ禁セラル、一因ナリ、痲疾ノ際ニハ普通病菌ハ排泄物ノ形トシテ存セス、此ハ挿入セラレテアラユル粘膜面上ニ成長スヘシ最モ普通傳染スル個所ハ女子生殖器及眼ナリ、他人ノ亞麻布ヲ使用スル事ハ特ニ禁スヘキナリ

吾人ハ今既ニ尋ネラレタル花柳病ハ人口ニ如何ナル害ヲナスカトイフ問題ニツキ答ヘサルヘカラス、吾人ハ花柳病ノ結果ハ次ノ如キヲ見ル――

- A、死亡、(a)生世以前ノ(b)嬰兒及兒童ニ於ケル(c)壯年ニ於ケル
- B、疾病、(a)出世前及嬰兒兒童ニ於ケル(b)壯年ニ於ケル

C、兩性ニ於ケル不胎

D、活動力ノ消失

E、觸接傳染、附無智ノ觸接傳染及不注意ハ國家ニ取リテ富ノ大損失ヲ招クコト

F、如何ニスヘキカ

此問題ハ(a)豫防(d)治療ノ二項ニテ答ヘラルヘシ

花柳病ハ神ノ怒ヲ示ス爲ニ特ニ十五世紀ニ降サレタル呪詛ナリトノ考ハ或時ハ表白セラレ或時ハ暗示セラレテ治療ヲ正當ナル懲罰ニ干渉スルナリトテ不賛成ヲ唱フルカ如キ心ニセルト同様ニ花柳病人ノ治療ニ金錢ヲ使フハ不徳ニ資本ヲ供スルナリトノ態度カ病院ノ如キ公共物ニ對シテ取ラレタリ、此ノ意見ニ一致シテ約半世紀以前ニハ或大病院ハソノ花柳病室ヲ閉鎖シタリ

(1) 斯ル態度ハ不合理ナリ

斯ノ如キハ大前提ヲ無視シタル議論ト云ハサルヘカラス、大前提トハ何ソヤ『人間ハ彼自身ノ過失ニヨリテ受ケタル疾病ヲ除キテ可ナラスヤ』トノ疑問此レナリ、若シ此カ承認ヲ受クヘキ物ナラハ消化力カ過食ニヨリテ衰ヘシ人、十分ニ着セスシテ外出セシ爲ニ寒胃ニ罹リシ人、流行靴ヨリ底豆ヲ得シ人ハ醫師ヨリ治療ヲ受クル能ハサル筈ナリ、若シ不身持ヲノミ特ニ道德的範圍内ニアラシメント主張スルアラハカ、ル主張ニ對スル證據ハ何處ニアリヤ、態度ハ明ニ不合理ナリ、又他ノ點ニモ不條理アリ、彼等ハ總テノ不身持

ナル人間ハ花柳病トナリ、而シテ總テノ花柳病人ハ不身持ナリト認ムルニ到ル、前者ハ著シク誤レリ後者モ同様ニ正シカラス、不身持ノ夫ニヨリ感染シタル妻、不身持ノ妻ニヨリ感染シタル夫、妊娠以來微毒ノ子供、花柳病ニヨリ盲聾痴ノ子供ハ如何、煙管、コップ等ニヨリ感染シタル無智ノ壯年者ハ如何、此等ハスヘテ無視スヘキ物ナリヤ治療前ニ各々ノ花柳病人ハ無智ノ故トイフ證書ヲ作ルヘシト逼レト主張スルカスカル主張ハ思ヒモヨラス

(2) スル態度ハ背徳ナリ

此處ニ述フルハ此問題ニ對シテ語り或ハ記シタル總テノ宗教々師ノ意味ナリ、輿論ハヨク彼等ト一致セルコト能ク承知セラルヘシ

(3) スル態度ハ財政上不完全ナリ

比較的早ク現ハル、花柳病ヲ無視スル病院ハ後ニ現ハル、治療ニテ即チ皮膚病、婦人病、心臟病、神経系統病、泌尿生殖器病其他殆ト總テノ部分ニ於テ全ク不均衡ノ金錢ヲ費ササルヘカラス、然レトモ國家全體トシテ確ニ早ク現ハル、花柳病ヲ無視スルハ將來ニ於テ全ク釣合ハサル費用ヲ醸ス、其費用ハ單ニ後ニ現ハル、病ノミナラス新式方法ニヨレハ健康ノ人トナリシナラント思ハル人々ニヨリ感染シタル多數人間ニ用ヒラル、花柳病ノ惹起スル國家ノ重大ナル經濟的損失ハ一般ノ豫防手段ノ開始及可能的最初期療治ノ開始ヲ行ヘトイフカ強キ論證ヲ作ル(第一〇〇章)、盲目ニ關シテハ兒童ノ全盲目者ノ過半數ハ兩視ニ於ケル花

柳病ノ結果ナリ(第一〇二章)、此等ノ疾病ノ治療ニ蒙リタル費用ノ外ニ花柳病ニ關スル教育費モ加算スヘキ也其教育費ハ普通兒ノ費用ノ七倍ニ達スヘシ(第一〇二章)

壯者間ニハ花柳病ヲ等閑ニスレハ後年ノ發病ノ危險ハ別トシテ治療ヲ更ニ困難ナラシメ遲延セシメ出費ヲ多カラシムルトイフ事實ヲ其ノ徵候カ語ルナリ(第一〇四章)

患者ノ大多數ニテハ微毒ハ感染後平均十年乃至十五年ヲオキテ知覺麻痺又ハ運動失調トシテ現ハル、カク感染シタル者ハ多クハ疾病ノ潜伏セルヲ知ラスシテ結婚シ責任アル家族生活ヲ行ヒ、而シテ自ラ維持スル能ハスシテ他ニ依頼スル事ハ因ツテ起ル不幸ハ云ハスモアレ國家安寧ヨリ見ルニ重大ナル問題ナリ(第一〇五章)

倫敦市參事會養育院ニ於ケル全精神錯亂者ノ總扶持費ハ(全入院者ノ九「パーセント」以上即チ入院男子ノ十六「パーセント」入院女子ノ二六「パーセント」ハ知覺麻痺ニシテ常ニ微毒性ナリ)一個年六十萬磅ニ達ス此ハ養育院ニ對スル州稅ヲ含マス、此ハ一個年約十八萬磅ナリ(第一〇五章)、イングラント及ウエルスニ於テハ全身麻痺ノ患者ノミニ一個年平均九萬磅ヲ費ス(第一〇五章)、イングラント及ウエルスニ於ケル全養育院ノ患者(其不健康ハ微毒ニヨル)ノ一個年費用ハ十五萬磅或ハ其以上ナラン(第一〇五章)

治療セラレサル又ハ無効ニ治療セラレタル微毒ハ養育院及貧民病院ニ於ケル致命的不治症ノ主ナル發生原因ナリ、從ツテ早ク有効ナル治療ヲ施シ微毒ヲ治シ傳染ノ蔓延ヲ豫防セハ養育院、貧民病院ニ於ケル不治症



ニ苦シム患者ノ維持ニ要スル大經濟的負擔ヲ輕減シテ大切ノ影響ヲ及ホスナリ(第一〇六章)、若シ上記ノ損失ノ種々ノ原因カ平均費用ノ條件ニ加ヘラレハ全額ノ莫大ナル事明白ナリ、吾人ハ此ノ全損失ノ避ケラ  
ル、ヲ豫期シ得ス然レトモ吾人ハ全額ノ大部分カ將來節約セラレ得ル事及節約費ハ吾人カ此等疾病ノ豫防  
及治療ノタメニ提案スル手段ノ費用ヲ更ニ均衡スルナラント満足ニ感ス(第一〇七章)

以上ノ引用文ハロイアルコンミツシヨン報告ヨリ、拔萃セリ、若シ人々カ人道ニ動カヌ者ナルトモ金錢ニ  
關スル此ノ哀訴ニハ爭ハレヌ事ニシテ感動セラレン

アラユル理由ヨリシテ治療ハ容易ニ達セラル事、而シテ此ハ初期ニアルヘキ事明白ナリ、花柳病ノ病菌ハ  
最初ハ局所的ニ傳播セラル、而シテ病菌カ擴ル前ニ病菌ヲ殺ス事極メテ大切ナリ、此ハ最近ノ方法ニテナ  
サル、此法ニ著シク感染期ヲ短縮スルノミナラス又治療期ヲ短縮ス

狂水病ノ場合ニハ特別ナル治療ハ感染後一ヶ月内ニハ病菌ヲ殺シ感染シタル人間ノ生命ヲ救フ事ハヨク知  
ラル、ソハ病菌ト療法トノ間ノ競走ナリ、微毒ニテハ期間ハ更ニ定限セラルモ手段ハ同一ナリ初期治療ハ  
病菌ヲ殺シ患者ノ生命ヲ救ヒ彼ノ健康ヲ保護ス、而シテ彼ヲシテ社會ニ對シテ危険ナカラシム初期治療ノ  
輕視ハ患者ノ生命健康ヲ奮ヒ患者カ傳播セシムル人——妻子朋友——ニ普ネク不幸ヲモタラス

爲スヘキ時ニ爲サ、リシ者ハ爲サントスル時ニ爲シ得ス

此ノ小論文ヲシテアラユル小區分迄詳述セントスル意ナシ、然レトモ汚染ノ主原因——醜業婦ノ大群——

ヲ輕視スル治療計畫ハ満足ナラス、著者カ敢テ信スル所ヲ述フレハ此ノ問題ハ恐ラクハ單ニ利己ノミナラ  
ス人道宗教ノ影響カ此ノ問題ニ觸ル、ニ到ル迄ハ解セラレスシテ留マラン、現在ニテハ此問題ハアフリカ  
ノ睡眠病ノ治療ニ似ル此ハスピヘータバリダノ近屬ノ物ニヨル

人類ハ此ノ病菌ニヨリ生命ヲ失ヒツ、アリ、病菌ハツエツエ蠅(FLIES)ニヨリ傳染セラル、此ノ蠅ハ病  
菌ノ群レニ地方ノ大ナル野獸ノ血ヲ吸ヒ常ニ病菌ヲ一動物ヨリ他動物ニ運フナリ、醜業婦ノ群ト大野獸ノ  
群トノ間ノ類似ハ明ナリ、病菌ノ傳播ヲ豫防スル手段發見サレスンハ大野獸ノ滅スヘント提案サレタル事  
アリキ、他ノ群ニ關スルカ、ル提案ハ尙ナサレシ事ナシ

然レトモ治療ヲ求ムルニ當リ吾人ノ世界ノ最舊制度ノ一、即チ今迄治療セントスルアラユル計畫ニ反抗セ  
ル最舊制度ノ一ト戰フ義務アリ、然レトモ此等ノ事實ハ吾人ヲシテ更ニ一舊制度ヲ攻撃セント決心セシム  
ヘシ

今日迄隱蔽サレタル此問題ノ事實カ暗黒ヨリ光明ニ持チ出サレントシツ、アル事ハ少クトモ大利益ナリ

G、豫防法ト治療法、(第二三〇章以下)

本件ニ對シテハロイアルコンミツシヨン左ノ如ク提案セリ

死因ヲ確實ニ登錄スルコト、出生届法ヲ普及セシムルコト(一九〇七年)病院及施療院ニ於ケル病床日誌ノ  
書式ヲ一定スルコト、花柳病施療患者ノ手續ヲ簡易ニスルコト、病院若ハ大學ト協定シテ實驗場ヲ地方官

憲ニ委ヌルコト、經費ハ國庫ヨリ七五「パーセント」地方ヨリ二五「パーセント」ヲ負擔スルコト、最新式ノ治療法ヲ普及セシムルコト、最新式ノ治療ヲ希望スル者ニハ無料ニテ行フコト、業務ノタメ差支アル者ニハ何時ニテモ行フコト、(夜間臨床等)適當ナル監督ノ下ニ「サルヴァルサン」又ハ其代用品ヲ無料ニテ供給スルコト醫學生及開業醫ノ診斷、治療ノ特別教育ヲ簡便ニスルコト出獄者及兵卒ノ特別ナル監督花柳病治療藥ノ廣告ノ禁止アラユル種類程度ノ教育機關ヲ通シテ男女關係ニ關シ道徳的宗教的教訓ヲナスコト、陸海軍ニ入ラントスル各人ニ少クとも一年一回以上ヲ警告ヲ與フルコト

#### 地方局ノ計畫

一九一六年七月十二日地方局ノ規定セル條例及衛生法ニ關スル地方局衛生技師ノ草案及戰後ノ情況ハ莫大ナル戰費ノ外、直ニ手段方法ヲ講スルヲ要ス

地方局ハ總テノ認可セラレタル計畫ニ對スル費用ノ四分ノ三ヲ仕拂フヘク準備シアリ

實ニ微毒程治療ト豫防トカ密接ナル關係ヲ有スルモノハ他ニアラサルヘシ

地方局ノ意見ハ適當ナル一般病院ヲ利用シ得ヘキ都市ニ於テノミ先ツ臨床講義ヲナサ、ルヘカラストナスモ、ノ如シ、醫學校ヲ有スル病院ハ成ルヘク利用セサルヘカラス、各治療所ハ外來患者ノ身分住所ニ論ナク凡テ利用セサルヘカラス、治療ハ成シ得ル限リ患者ノ主治醫ト協力シテ行フヘシ、治療ハ勞働者ニトリテ最便利ナル時ヲ撰フヘシ、又患者ノ氏名ヲ公衆ニ知ラシメサル様注意セサルヘカラス、急性傳染性患者

ノ一時的治療及外科の治療ヲ急施スヘキ患者ノ爲メニ幾個カノ寢臺ハ「サルヴァルサン」等ニヨル微毒治療ニ必要ナリ、治療所ノ醫師ハ老練家ナルヲ要ス、何トナレハ彼ノ任務ハ開業醫ノタメ實驗上ノ材料ノ聚取及適當ナル治療法ヲ指示スル事治療上開業醫ノ質問ニ應スルコト、管轄地ノ衛生官憲ニ定期報告ヲナスニアリ、管轄地ノ衛生官憲ハ實驗室及治療所ヨリ供セラレタル簡便法ヲ所轄内ノ全開業醫ニ報告シ又産婆巡查、養育院長、監獄醫、牧師、僧侶、其他救濟事業ニ従事スル者ノ諸報告ヲ治療所ニ於テ整理セサルヘカラス、特殊ノ場合及其取扱上特ニ注意ヲ要スル「サルヴァルサン」及其代用品ハ治療所ノ醫官又ハ同醫ヨリ公認サレタル開業醫ニハ當分ノ中無代ニテ支給スルヲ要ス、而シテ此ノ公認ハ取扱上充分ナル經驗ヲ有スル開業醫ニノミ制限セサルヘカラス、實驗室ニ於ケル治療手續ヲ簡易ナラシムル事ニ關シテハ (Manual of Examinations Required) (The Local Authority in Relation to Prevision of Laboratory Facilities) The Clinic in Relation to Laboratory Work) (The Pathologist) ノ項ニ記述シアリ

#### 貧民ノタメ如何ナル救護機關ヲ設クヘキカ

初期療法ハ費用少キ事上記ニテ明ナリ新式治療法ハ舊式方法ノ企及シ得サリシ手段ニテ費用ヲ省キ得ルコトモ同様ニ事實ナリ、特ニ花柳病就中微毒傳播ノ機會ニ關シテ然リトス、舊式療法ニテハ感染シタル人ハ依然トシテ何時カ他人ニ危險ナリ、新式療法ニテハ男女ハ僅ノ間ニ他人ニ對スル危險終熄シ試験ニヨルモ安全ヲ證明スルコトヲ得、「サルバルサン」及此ニ類スル物ノ注射ニヨル新式療法ハ僅ニ一乃至二晝夜病舎

ニ止ル事ヲ要求スルノミ、爾後ノ治療ハ患者カ勞働シツ、之ヲ受クルコトヲ得患者カ勞働シナカラ受クル初期療法ハ不完全ナル療法ノ結果社會ニ及ホス惡結果ヲ防キ得ヘシ  
 初期療法ハ痲病ニ於テモ亦同様ニ結局經濟的ナリ、設備完全ナル治療所ニ於ケル最新式ノ初期治療ハ人道  
 上ノ顧慮ハ度外ニ附スモ市稅負擔者ニ經濟的ナルハ争フヘカラサル事實ナリ

## ○兒童及青年ニ於ケル花柳病

(千九百十六年九月、ロンドン Royal society of medicine)  
 ニテ女教員講演セル三講演ノ筆記

ドクトル マリー、シャーリブー述

### 其ノ診斷ト豫防

此ノ小冊子ハ兒童ノ兩親及保護者ニ陳述セラル、公衆ノ注意ハ兒童ノ健康問題ニ向ケラレタリ、而シテ其結果就中兒童ニ關スル利害問題新生ス——嬰兒ノ死亡率ヲ減シ且ツ嬰兒ノ疾病歩合ニ縮少セントスル決意此レナリ

國民ノ利害問題ハ、現世紀ノ初ヨリ急速ノ進歩ヲナシ而シテ出生以前、出生當時、嬰兒期、兒童青年期ヲ通シ兒童ノ健康ヲ保證スル爲ニ種々ノ事ナサレタリ、ソノ結果死亡率及ヒ兒童ノ疾病ハ著シク減少セリ、然レトモ國民ノ大覺醒ハ今次戰爭ノ衝撃ニヨリ完成セラレタリ、此ノ戰爭タルヤ青天ノ霹靂ノ如ク全く用意ナキ國民ニ來レルナリ、數ヶ月ノ經過中ニ吾人ハ吾人ノ最強最善ノ若者ノ二十萬人以上ヲ失ヘリ、而シテ現在男子カ女子ニ比シ缺乏セル事ヲ公衆カ實認スルヤ否ヤ吾人カ近キ將來ノ父タルヘキ此等若者ノ若死ハ出生率ノ減少ヲ當然意味スト理解シ始メタリ、吾人ハ又來ル數年間ハ健康ナル兒童ハ兒童ノ重サノ金ヨリモ貴重ナルコトヲ理解セリ

戦争ノ勃發セル時恰モ二ツノ委員會ハ任命セラレタリ何レモ夫々國民ノ健康及能率ノ問題ヲ研究スルナリ

王國花柳病豫防委員會ハ報シテ曰ク國民生命ナル泉ハ其源腐敗セリ、而シテ嬰兒死亡及兒童ノ疾病ハ豫防セラルヘキナレトモ豫防セラレサル花柳病ニ依ル事多シソノ花柳病ハ救治セラルヘキナレトモ救治サレヌト

減少シツ、アル出産率ノ問題ヲ調査スヘク任命サレタル委員會ハ出産率ハ一八七六年來約三分ノ一ヲ減セリ而シテ此ノ減少ハ一部ハ利己、子供ナクバ心配ナキコト、奢侈ノ増進及ソレニ伴フ金錢ノ不足ニヨレリト云フ事實ヲ發表セリ、此等及其他ノ經濟的原因ニ加フルニ委員會ノ前ニ横ヘラレタル證據ハ出産率減少ノ助成の原因トシテ出生前ノ病的状態ヲ明ニ示セリ、出産率減少問題、嬰兒死亡ノ異常の高率、兒童疾病ノ大傾向及兒童ノ健康ニ對スル永久の傷害ハ國民中婦人ニ取リテ就中關與スルナリ

兒童ノ母及保護者——其中ニハ最モ教育アル而シテ最モ責任アル人ハ學校生活ノ初ヨリ終迄兒童ヲ監督スルナリ——ハ嬰兒ト兒童トヲ救フベキ力ヲ有ス、彼等ノ善意ニツキテハ疑ナシ、然レトモ彼等カ病氣ノ事實ニ付キ無智ナル限りハ彼等ノ力ハ最上ノ利益ニ用ヒラル、能ハス、彼等ノ善意ハ比較的價値少シ、母及女教員ハ其故ニ面倒ナル智識ヲ得ント努ムヘシ、而シテ如何ナル療法カ有利ナルカ如何ニシテソノ療法ハ利用セラルヘキカヲ忍耐シテ學フヘシ、イングラント並ニウエルズニ一箇年ニ生マル、兒童ハ八十萬人中十

萬人ハ一個年經サル中ニ死ス、ソノ十萬人中二萬人ハ初ノ一週ノ終ニ死シ三萬人ハ初ノ一個月ノ終リニ死ス、更ニ妊娠セラレタル兒童中十萬人ハ毎年妊娠ノ月日ト臨月トノ間ニ死ス、カクシテ吾人ハ毎年二十萬人ノ潛勢的市民ヲ失フナリ

人ヤ、モスレハ云フ此ハ嬰兒生命ノ驚クヘキ損失ナリ、然レトモソハ恐クハ惡シキ牛乳、惡シキ水、惡シキ空氣、惡シキ取扱、惡シキ氣候、麻疹、百日咳及結核ニヨルナラント、是等ノ要素ノ一カ嬰兒死亡ニ關係スル事及五歳迄ハ兒童死亡ニ大ニ關係スルハ事實ナリ、然レトモ兒童カカ、ル原因ノ爲ニ出生後一週間内ニ死ストハ信シ難シ、彼等ハ麻疹或ハ百日咳ノ爲ニ一週間内ニ死セス又ソノ年齢ニシテハ氣管支炎、肺炎、並ニ結核ニテ死セス、彼等ヲ殺ス物ハ氣候ニ非ス惡シキ住居惡シキ牛乳惡シキ水或ハ憐ナル無智ナル母ニトリテハ惡シキ取扱ニアラス、此等ノ物ニハ非ス、彼等ヲ殺ス物ハ彼等ト共ニ生レタル或物、兒童カ生レン以前ヨリ兒童内ニアリシ或物ニ相違ナシ、而シテ吾人カ其理由ト信スルソノ或物トハ多クノ場合ニハ著名ナル花柳病即微毒ナリ、醫師ハ永イ間數回ノ流産ヲナシ數人ノ早死兒ヲ有スル女ハ多クハ確ニ微毒性ナリト信シ居レリ、然レトモ醫師、ソノ確信ヲ有ストハイヘ公衆ヲ論服スルコトハ容易ナラサルナリ、醫師ノ言以外ニ確信ニ對スル證ナトモ無カリシ故ナリ、然レトモ今日ハ醫師ハソノ信念ノ證據ヲ提シ得ルナリ

一九〇五年ニシヤウチン氏(Schandin)ハ「スピロヘータ、バリダ」ヲ發見セリ、此ハ小サキ蠕虫ノ如ク見ユル微生物ニテ顯微鏡の小ナル物ナリ、彼ハ此ノ菌ヲ微毒又ハ微毒ノ結果ノ爲ニ死セルスヘテノ人々ノ體內

ニ存スルヲ發見セリ、其後ワツセルマン氏 (Wissner mann) ハ如何ニスレハ吾人ハ此疾病ヲ認メラルカ如何ニスレハ簡單ナル生理化學的試驗ニテ何人カ微毒ニテ何人カ微毒ニアラサルカヲ確メウルカヲ發見セリ、近時エールリツヒ (Ehrlich) ハ「サルウアルサン」ヲ發見セリ、ソレ以來多數ノ他ノ砒素「ペンゾル」化合物作ラレタリ、例ヘハ「カルシバン」及「ネオカルシバン」(Klarzivan and Neo-Klarzivan) ハ英國ニ「アルセノバンゾールビルロン」及「ノヴァルセノベンゾールビルロン」及「ガルリール」(Arseno-benzol-Billon, Kovarseno-benzol-Billon and Gallyl) ハ佛國ニ作ラル、有功ナル事ヲ證スヘキ同様ノ化合物他ニモアリ而シテソノ數ハ絶ヘス増シツ、アリ

今日ハ吾人微毒ノ原因ヲ知ル、出世前又ハ一年後ニ死スル兒童中或人ニヨレハ二五「バーセント」或人ニヨレハ五〇「バーセント」或人ニヨレハ更ニ大ナリ割合ハ微毒ニヨリ死亡スル事モ吾人ニ知ラルカ、ル事情ナル故ニ重大ナル惡ヲ防クハ國ニ於ケルスヘテノ婦人ノ務ノナリ(假令彼女カ兒童ノ眞ノ母ナルトモ或ハ兒童ノ安寧ヲ引キウケテ重大視セル婦人ナルトモ)、此ヲ知レル國家ノ婦人ニシテ此ヲ防カント欲セサルモノアリヤ、然レトモ人々ハ未知ノ原因ヨリ來ル災難ヲ防ク事能ハス、彼等カ敵ノ性質ニ關シテ或ニ概念ヲ在セサルカラス、彼等カ成功ノ豫想ヲ以テ戰ヒ得ル前ニ如何ニシテ害敵ヲ除クヘキカヲ知ラサルヘカラス、未出世者ノ微毒問題ニ更ニ深く立入ラサルモ流産、早死及臨月ニ於ケル死産ノ大多數ハ微毒ニヨル事微毒菌カ此等ノ流産及早死兒ノ屍體ノ中ニ發見サル事ヲ繰返シタイフ必要アリ、生キテ出產セル

微毒性兒童ニツキ考察セン、一婦人カ數回流産ヲナシ或ハ多分一、二ノ早死兒及ヒ出產ト同時ニ死スル子供ヲ持チタル後ニ遂ニハ(恐ラク前ヨリ有スル疾病カ弱リシタメ或ハ多少成功的ニ治療セシ爲メニ)生キタル子供ヲ生ム、而シテ其子ハ初メ生レタル時ハ屢々甚タ健康ニ見ユ暫時ノ後即チ一週間モ經レハ嬰兒ハ萬事健康ナラサル様ニ見ユ、就中子供ハ所謂俗語ノ鼻詰リノ爲ニ苦ム、此ノ事ハ兒童カヨク呼吸シ得ス而シテソノ鼻ノ塞カレルヲ示スナリ、加答兒及鼻ヨリ放出スル物アルヘシ、感染カ甚タ強キ場合ニハ鼻軟骨ハ潰瘍ヲ生シ鼻柱ハ平ニナル、而シテ子供ノ鼻ハ所謂鞍背鼻即壓シツケラレタル鼻トナル鼻詰リ以外ニ微毒性嬰兒ハ六乃至七週頃ニ種々ナル發疹ニ苦ム、此等ノ發疹ハ全身ニ時ニハ群ヲナシ或ハ圓形ヲ畫キ或ハ一般ニ散在シテ現ハル、發疹以外ニ微毒性嬰兒ハ口邊特ニ口角及膈ノ開口即肛門ナル部分ニ生スル腫物ニ苦ム、此等ノ腫物ハ「ムコウス、ツブルクレス」(Mucous tubercles)ト稱ス、此物ハ濕潤性ニテ放出物ヲ出ス、而シテ此ノ腫物ハ兒童ヨリ兒童ニ甚タ傳染シ易シ、カ、ル嬰兒ヲ接吻セル人々ハ己ニ疾病ヲ招ク傾向大ニアリ、口邊ヲ接吻スルハ反對スヘキ習慣ナリ、吾人カ互ニ接吻スル愚行ノ爲ニ多クノ感冒ニ苦シミ「インフルエンザ」並ニ其種ノ他ノ苦痛ヲ受ルナリ、扱テ此等ノ不幸ナル微毒性嬰兒ヲ接吻スル人々、嫁母及母ハンノ唇ソノ口ニテ感染スル傾向大ナリ、他ノ危險ナル習慣ハ他人ノ匙、齒刷ヲ用フル事ナリ、余カ頃日讀メル醫學書ニ次ノ如キ場合ヲ引用セリ、家庭ニ一人ノ微毒性嬰兒アリ、此ノ嬰兒ニ「パン」ト牛乳トヲ與フル祖母カ食物ハ十分味ヨク且余リ熱カラサルヲ確ムルタメニ時々匙ヲ己ノ口ニ入レタリ、匙ハ或時ハ

祖母ノ口ニ或時ハ微毒性兒童ノ口ニアリキ、祖母ハンノ扁桃腺ニ初期ノ微毒性腫物ヲ得タリ、而シテ小サキ兄弟モ同様ニ口、唇、扁桃腺ニ初期ノ微毒性腫物ヲ得タリ、此レ全ク匙ニヨリ感染シタルナリ、ソレ故ニ人々ハ差別ナク同一匙ヲ用フヘカラサル事明ナリ、手拭、懷中「ハンカチ」モ差別ナク用フヘカラス、各人殊ニ兒童ハ日本ノ紙製懷中「ハンカチ」ヲ用フヘシ、ソハ非常ニ安價ニシテ本來ノ「ハンカチ」ヨリモ無限ニ安全ナリ、注意シ洗淨シ全ク清潔ナル破衣ノ片ハ元來ノ「ハンカチ」ノ代用トナル、若シ望ミ得ルナラ使ヒ古ノ「モスリン」ノ一片ハ使用セラレ得、其ヲ折返シ縫フハ必要ナラサルノミナラス又方形ニモ裂キ得鼻詰リ、發疹、「ムコウスツベルクレス」ノ現ハル、ハ出世後約六、七週頃ナリ直ニ兒童ノ營養衰フ兒童ハ忽チ皴ヨレル細キ肢、大ナル張レタル腹、トナリソノ顔色ハ珈琲色 Café au Lait ノ如クナル、兒童全身ハ猿ト皴ヨレル老人トノ雜種ノ如ク見ユ、此等ハ乳母ニ非常ニ熟知セラル、嬰兒ナリ、彼等ハ浪費者又ハ萎縮嬰兒トシテ知ラル、所ノ者ナリ、カ、ル嬰兒ハ衰フ而シテ衰ヘサルヲ得サルナリ、カ、ル嬰兒ハ肥ヘントスルモ得サルナリ、カ、ル憐ナル嬰兒ハ屢々吾人ノ大都市ノ病院ニ見ラル、憐レナル小サキ者ハ微毒性嬰兒ナリ、兒童カ六、七月ヲ經レハ新ラシキ微候現ハレ屢々搐搦ヲ來タス、兒童ニ經驗アル人ハ搐搦 (Large share convulsion) ト腦膜炎トハ若キ兒童ノ大部分ノ死因ヲナスヲ知ラン、搐搦ト腦膜炎トハ或時ハ結核ニ或時ハ他ノ原因例ヘハ微毒ニヨル、微毒性兒童カ死シ而シテ身體ノ試驗ヲ行ヘハ微毒菌ノ充テルヲ發見ス、或ハ微毒性兒童ハ一年モ生殘リ大ニ健康ナルヲ示ス、恐クハ彼等ハ善良ナル舊式ノ灰色粉劑ト他

ノ水銀劑トニヨリ、治療セラレシナリ、適者生存ノ問題ナリ、然レトモ彼等ノ多クハ生殘リテ大ニ健康ヲ示セトモ彼等ノ營養不良、生成、阻止、顔色不良ハ悲シキ歴史ヲ語ルナリ、彼等ハ第二出齒期即六乃至八年ノ間迄ハ可成ヨク進ミユク、生齒ト全身病ノ發現トノ間ニ或ル一致アルヘシ、初期微候ハ六週間ニ現ハレ更ニ明ナル微候ハ六ヶ月間ニ現ハレ次ノ狹病群ハ第二ノ成齒ノ初ル約六、七歳間ニ起ル、而シテ最後ニ他ノ疾病群ハ青年即チ所謂智齒ノ將ニ現ハレントスル十四歳乃至二十歳間ニ起ル

五十年前ニ有名ナリシ外科醫ジョナーサン、ハッチンソン (Jonathan Hutchinson) ハ先天的微毒ハ凡ト常ニ截痕齒又ハ、釘狀齒ヲ有スト記セリ、此ノ變化ヲ有スル齒ハ屢々上顎ノ中央ノ門齒ナリ、然レトモ多クハステノ門齒カ微毒性特徴ヲ示シ得ル事アリ、彼等ハ小サキ齒ナリ、齒ノ自由端ヨリモ齒齦ノ幅廣シ、彼等ハ先ツ切ラルレハンソノ上ニ小サキ釘狀物ト節トヲ有ス、此等ノ小サキ釘狀物ハ追々破レ失セ而シテ齒ハ淺キ新月狀ノ刻ミ目ヲ現ハス、此ノ特徴的齒牙カ生セシ以來個人ハ生涯又ハ慈悲ナル自然或ハ熟練ナル齒科醫カ抜ク迄ハ特徴トナル截痕齒釘狀齒又ハ出來アシキ齒ノ現ハル、ハ個人ノ健康ヲ重大ニ害スル事ナシ、ソハ小癩痕ニスキス、然レトモ其ト同時ニ他ノ微候現ル、ソハ最モ重大ナリ、例ヘハ眼ノ透明部ニ特別ナル變化アリ、吾人ハステ角膜ト稱スル眼ノ透明部ヲ通シテ見ルナリ、ソノ物ハ凡ソ時計硝子ノ如キ形ニシテ眼ノ白部ニ合セリ、健康ナル人ノ場合ニハ角膜ハ實ニ明ニシテ透明ナリ、カ、ル人々ハ甚タ健康ニ見ユ、然レトモ微毒性兒童ハ或場合ニハ眼ノ此ノ透明部ニ特別ルナ傷害ヲ現ス、ソハ特別ナル一種ノ慢性

炎衝ニテ角膜間質炎(眼ノ透明部ノ間質炎衝)ト稱セラル、此ハ甚タ恐ルヘキニシテ霜ノツケル硝子又ハ地上ノ硝子或ハ糊ツキ紙ヲハリシ硝子ノ如キ範圍迄視力ヲ減ス、患者ノ視力ハ實際ニハ無ナリ、彼ハ光ノ知覺ハアランモ物體ヲ見ル能ハス、此ハ恐ルヘキ微毒性角膜炎ヲ有スル兒童ノ状態ナリ、少シ宛視力ハ迫々悪シクナリ或場合ニハ全ク視力ヲ失フ

微毒性兒童並ニ微毒性大人ニ屢々發見サル、他ノ眼疾ハ視神經ノ萎縮ナリ、若シ視神經力萎縮スレハ視力ハ失ハル、治療ノ希望ナキハ勿論改善ノ希望スラナシ、國內ノアラル盲目者中半數以上ハ花柳病即チ微毒並ニ痲疾ニヨルトハ驚クヘキ事實ナリ、六、七、八歳頃ニ屢々現ハル他ノ疾病ハ聾ナリ、聽神經ハ害セラレ追々(又ハ更ニ急速ニ六、七、八、週内ニ於テスラ)兒童ハ全ク聾トナル、吾人ノ中ニ精神的不具ナル兒童ヲ收容スル學校ト物理的ニ傷害ヲウケン兒童ヲ收容スル學校トノ事務ニ精通セル者アリ、カ、ル學校ニ關係スル婦人ハ心中ニ覺醒サレタル同情ノ綱ヲ感スヘシ、何トナレハ婦人ハ此ノ叙述ニ於テ不幸ナル稚キ生徒中ノ或者ノ様子ヲ認メ得ン國民カ物理的ニ傷害サレタル人ト精神的不具者トニ注意ヲ初メツ、アルハ結構ナリ、然レトモ彼等ニ注意スルノミニテハ不充分ナリ、盲目者養育院、聾者養育院、病院、特種學校ノ設立不足ナリ、必要ナル事ハ吾人カ傳染ヲ止ムルニアリ、何ヲ自ラ過失ナキニ係ラス傷害ヲ蒙ル兒童ヲ國內ニ有セサルニアリ、兒童ハ産マル、ヲ乞フニ非ス兒童ヲ生存セシムル様ニセンハ兩親ナリ、而シテ其生存ハ幸福ニシテ祝福アルヘキ筈ナルモ然ラスシテ時々甚タ不幸ナリ、或場合ニハ生命ハ呪咀ナリ

トノ外稱スル能ハス

十四歳乃至二十歳間ノ青年期ニハ或兒童ハ潜伏性先天的微毒ノ微候ヲ示ス(慢性遺傳微毒)恐ラクハ彼等ハ嬰兒ノ時ニ微毒微候ヲ示セシナラン、然シ多少有效ナル又ハ無益ナル療法ヲウケ而シテ信用シテ學校生活ノ幼年ヲ通りシナラン、尋常小學校ノ場合トナルカ此等兒童ハ五歳ニシテ學校ニ行キシナラン、或者ハ截痕齒釘狀齒ヲ有シ或者ハ眼病又ハ聾ニ困シタラン、然レトモカ、ル兒童ノ殘部ハ健康ナルモ蒼白ニテ身長ハ阻止セラル、カ、ル兒童ヲ見テ人々ハ『倫敦ノ空氣ト倫敦ノ食物ノ恐ルヘキ影響ヲ見ヨ』ト云フナリ、ソハ倫敦ノ空氣ニ非スソハ遺傳サレタル疾病ナリ、若シ諸氏カ充分ニ知リタランニハ倫敦ノ食物ハ惡シキ物ニアラス、標準ハ尙高カラシモ吾人ノ牛乳吾人ノ牛酪吾人ノ「パン」ハ皆全ク善良ナリ、吾人ハ更ニ法制ヲ望ム、現存法制ノ更ニ烈シキ而シテ同情アル活動ヲ望ム、吾人ハ憐ナル人民ノ爲ニ牛乳、牛酪、他ノ食物ニ更ニ注意ヲ望ム、然レトモ社會ノ他ノ階級ニ屬スル兒童ヲ見ヨ、倫敦ニ生レ成長シタル我々ノ子供及孫ヲ見ヨ彼等ハ身長大、幅廣ク強クスヘテノ點ニ健康ナリ譴責セラルヘキ物ハ倫敦ノ空氣ニモ非ス、倫敦ノ食物ニモ非ス、ソハ遺傳的疾即兒童ニ對シ恐ルヘキ慘酷ヲ減セント欲セサル國民ノ有罪ナル怠慢ナリ、而シテソノ慘酷ハ我等ノ中央ニアリテ、青年期中ニ潜伏性微毒ニ苦ム此等兒童ニハ如何ナル事起ルカ、彼等ハ學校ニ行キタリ、彼等ノ多クハ不具ナルニ拘ラス頭角ヲ現ハセリ、或物ハ郡會學校生徒ニナレリ、學校ノ他ノ教室ニテハ兒童ニ對シテ責任アル人々カ兒童ノ進歩シ發育スルヲ注意シテ大ニ喜ヘリ、責任者ハカ、ル

兒童ヲ善良ナル兒童、伶俐ナル兒童、ナリ、多分非常ニ強壯ニハ非サルモ實ニ非常ニ氣ムツカシキ兒童ニ非ス、實ニ愛ラシキ兒童ナリ、教室ニ頭角ヲ現ハス兒童ナリ、ソノ課業ヲ成就シ得ル兒童ナリ、鸚鵡ノ如ク氣ニヨリテ學フニ非ス才能ニ應スルナリ、年齢ノ規矩ニ一致シ得ルナリ、此等ハ學問ヲ得ル兒童ナリ、吾人カ光明ノ原因ナリト見ル兒童ニシテ次ノ時代ヲ導クヘキ者ナリト稱賛ス、不幸ニモ嬰兒ノ時微毒性ナリシ此等兒童ノ一定割合ノ者ハ十歳ト二十歳トノ間ニ精神的並ニ肉體的特徴ヲ著シク變化シ初ム、母ハ醫師ニ相談シテ尋問ス、『此娘ニハ何事起リシカ、彼女ハカク伶俐ナルカク美麗ナル娘ナリキ、彼女ハ何事ヲモナサント準備セリ、彼女ハ「ホツケ」ナリテニス」ヲ遊フヲ得タリ、彼女ハ「ピア」ニ堪能ナリキ、彼女ハ語學ヲヨクセリ』又他ノ娘ノ場合ニハ母ハカク云フ、『私ハ私ノ娘ニ大希望ヲ懷ケリ、私ハ彼女カ「ギルトン」(Gilton) 或ハ大學ニ行クヘシト思ヘリ、私ハ彼女ノ進歩トヲ大ニ誇トセリ、今ヤ彼女ノ記憶ハ悪クナレリ種々ナル奇妙ナル幻想ト空想ト有ス、彼女ノ食慾ハ衰ヘ食フ能ハス而シテソノ食物ヲ疑フナリ彼女ハ人々カ彼女ニ不親切ナリ同輩生徒カ共ニ語ルヲ欲セサルナリト考フ』ヤカテカ、ル兒童ハソノ發育ノ止マルヲ見ラル、彼等ハ嬰兒病(Intantism)ニ苦ム又彼等ハ特別ナル步態ニテ歩ム幾分動搖シ蹣跚トナル、更ニ十六、十七、十八歳トナレハ娘ハ小サキ子供時代ニ歸レル如ク人形ヲモテ遊ヒナカラ床上ニ坐セルヲ發見セラル、男兒ハ小供ノ如クナル、彼等ノ脚ハ確固ナラス又手ヲ正シク用フル力ナシ、更ニ苦シキ極端ニ到レハカ、ル娘及男兒ハ自ら食スル能ハス、歩ム能ハス、立ツ能ハス、坐スル能ハス、見ル能ハス、書ク能

ハス、「コツブ」ヲ口ニ持チ來ル能ハス、食物ヲ切ル能ハス、ソモソモ何事起リシカ、彼等ハ腦又ハ腦膜ニ微毒性疾病ヲ有スルナリ、又脊髓ニモ微毒性疾病ヲ有ス、要スルニ此等ノ兒童ハ若シ疾病カ大人ヲ冒ス時ハ運動失調又ハ狂人ノ全身痲痺ト稱スル物ヲ惱メルナリ、然ルニ青年ナルヲ以テ疾病經過カ大人ノ場合ヨリモ更ニ急性ナルナリ、此等ノ兒童ハ初期ニスラモ心臓及大血管ノ或疾病ヨリシテ大人ヲ冒スト同シ微毒性疾病ヲナヤム、兒童ニ於ケルカ、ル微毒性疾病ハ大動脈瘤、他ノ心臓病、又血管ノ疾病、神經ノ疾病ヲ起サシム、先天的微毒ノ此等ノ恐ルヘキ結果ニ加フルニ稀ニハ遺傳微毒ノ犠牲者タル青年カ結婚シテ此疾病ヲ稀薄ニナレル形ニシテソノ子供ニ傳フルコトアリ、此場合ニハ祖父又ハ祖母恐ラクハ兩者共ニ微毒性ナリシナリ、彼等ハ微毒ヲ蒙レル兒童ヲ生ミタリ、而シテソノ兒童カ結婚シ後繼者ヲ得ルナラハ孫ハ同病ニ感染セン

### 痲 疾

痲疾トハ眼又ハ泌尿生殖器ノ粘膜炎ノ急性的特有ノ炎衝ナリ、最初ハ細キ尿道ヲ胃ス(此ハ婦人ニテハ一時ノ長サナリ)而シテ膀胱ニ來ル痲疾ハアル特徴ヲ有スル小サキ微生物ナリ、形ハ球形ナリ、常ニ對ヲナシテ現ル、對ヲナシテ現ハル、故ニ一名雙球菌ト稱セラル、他ノ特徴ハ痲疾菌ハ細胞内ニ隠ルヲ好ム事ナリ、吾人ノ身體全部ハ細胞ヨリナル、而シテ痲疾菌ハ粘膜炎細胞内ニ入り込ミ其處ニ自己ヲ安全ニシ暫クシテ更ニ内部ノ組織内ニ潜伏ス、何時ニテモ治スル事容易ナル疾病ニハ非ス、速ニ治シ難クナル、事實ト



シテ醫師ノ間ニ婦人ハ痲疾ノ攻撃ヲ二度受ケストイフ言葉ヨク用ヒラル、何トナレハ一度攻撃サルレハ生命ヲ失フニ到レハナリ、ソハ驚クヘキ教訓ナリ、然レトモソレハ全然眞實ニシテ正確ナルニハ非ス、傳染セラルヘキ不幸ヲ有スル人ハ全ク治療シ難ク望ナシトハ眞實ニアラス

痲疾ノ攻撃ハ熱、痛痒、刺戟性ノ感覺ヲ以テ初リ傷害サレタル部分ニ一定量ノ苦痛ヲ伴フ、感染セラレタル物カ尿道(即チ膀胱迄ノ管)ナル時ハ一般ニ多少ノ苦痛、障礙、湯傷、アリ而シテ放尿頻繁トナル、或婦人尿ヲスルコト余リ頻繁ナリトテ醫師ニ診断ヲ求メテ曰ク『私ハ尿スレハ苦ム、放尿ノ際自然の満足ヲ感シ得ス、放尿了ラサル如ク又了ルコト能ハサル如ク感ス、』ト、若シ患者カ智力アリテ注意深キ時ハ云ハン、『又私ノ尿ニ變化アリ尿ハ普通ハ透明、琥珀色寧ロ青白キ「シエーリ」酒ノ如クナルカ今ハ尿ノ出ツル時ハ曇レリ、尿カ出テ、便器内ニアル時ハ厚キ沈澱物アルヲ見ル』、患者カ醫學的語辭ヲ幾分知レル人ナラハ勿論イハン、『私ハ粘液又ハ膿汁カ尿中ニアリト思フ』、若シ彼女カ此ノ陳述ヲナサヌ時ハ醫師ハ必ス尿ノ出ツル時全ク透明ナリヤト尋ヌ、何トナレハ尿ノ出ツル時全ク透明ニシテ其後不透明ナルハ健康状態ノ普通ナルヲ意味ス、ソレハ個人カ十分ニ水ヲ飲マス過度ニ肉食シ又ハ惡寒又ハ胃弱ヲ意味スルマテナリ、放置セル際ニ不透明トナル尿ニ付キ頭ヲ惱マス必要ナシ、ソハ自然ノ鹽類ヲ溶解スルニ十分ナル水分ナキナリ、ソレ故ニ鹽類ハ沈澱スルナリ、出ツル時ニ曇レル又ハ不透明ナル尿ニツキテハ別問題ナリ、出ツル時ニ曇レハ又ハ不透明ナル尿ハ尿中ニ加答兒ヲ示ス粘液アル故ナリ、或ハ何處カニ化膿ヲ示ス物カ尿中ニアル故ナリ、

沈澱カ温ムル際ニ現ハレサル時ハ膀胱ニ炎衝ナキナリ

痲疾ハ一般ニ先ツ尿道ヲ犯シ次ニ膀胱ニ擴リ湯傷、熱、刺戟性、放尿頻繁、尿中膿汁ノ現出ナル徵候ヲ起ス、甚タシキ場合ニハ尿中ニ認め得ル位血液アリ、婦人ニ於テ次ニ犯サル、部ハ一般ニ外陰部ノ周圍ニ在ル小腺ナリ、殊ニ兩側ニ一個宛アル所ノ一對ノ小腺ナリ、此ハ屢々腫瘡ノ生スル程ニ激シク炎衝來ル、ソノ腺ハバルトリニ氏腺ト稱セラル、コノ腫瘡タルヤ疼痛最モ甚タシ、平素ハ蜀黍大ノ此ノ小腺ハ小サキ腸詰又ハ「タンジエリ」柑程ノ大サニ脹ル、更ニ脹レハ苦痛ヲ増シ此ニ加フルニ激シキ炎衝ト膿汁トノ成生アリ、他ノ原因ヨリ此腺カ炎衝ヲ起ス事モアリ、膿瘡ヲ放置シ置ク時ハ遂ニ破レ周圍ニ、傳染ヲ擴メ他ノ膿瘡ヲ起サシム大過失トイフヘシ、膿瘡ヲ切開シ適當ニ處置スルハ當然ナリ、炎衝ノ次ニ擴ル所ハ一般ニ陰乃チ婦人ノ管道ナリ、此ハ長サ約三乃至四吋アリ、而シテ處女ニハ開キ居ラス、兩邊ハ指ノ兩面ノ如ク互ニ接觸セリ、兩邊ハ硬カラシテ瓦斯管ノ如ク開カレリ、平ナル管ノ全體ハ粘膜ニ蓋ハレ而シテ痲疾ニナレハ粘膜ハ實ニ赤クナリ、大ニ張り大ニ肥大シ排泄物ハ夥シク流出ス、此ハ腔ヨリ出ル排泄物ノ多クノ原因ナリ、未婚婦人及少女ニアリテハ所謂腔炎ハ恐ラクハ其以上ニ達セス、既婚婦人トハ全ク異ル、既婚婦人ニテハ「ウテルス即チ」子宮ハ大トナリ其ノ口ハ多小開ク、カ、ル患者ノ炎衝ハ通過シ行キテ體ノ内部ニ達シ卵巢、輸卵管(即チファロピト管)又腹膜ヲ傷害ス

腹膜炎ニツキ聞キシ事無キ婦人ハ殆トナカラン、何トナレハ腹膜炎ハ種々ノ異レル原因ヨリ起レハナリ、

結核性腹膜炎産後ノ腹膜炎、虫様垂炎又ハ他ノ疾病ニヨル腹膜炎、ソノ中最モ重大ニシテ致命的ナルハ痲疾の腹膜炎ナリ痲疾ハ尿道ヲ犯ス時ハ初メ婦人ニ大ナル不快ヲ與ヘ、次ニ腔ヲ犯ス時ハ苦シキ嫌ハシキ排泄物ヲ出サシメ最後ニ更ニ昇リテ卵巢ヲアロビ―管及腹膜ヲ犯ス時ハ致命的疾病ヲ與フルナリ、最近ノ王國花柳病豫防委員ハ痲疾ノ問題ニツキ多クノ巧妙ナル證據ヲ試験セリ、其ノ說ニヨルニ婦人ノ内部生殖器ヲ犯ススヘテノ重大ナル炎衝及膿瘡ノ中約二十五「パーセント」ハ痲疾ニヨルハ、此等ノ腫瘡ハ急性ニアレ慢性ニアレ外科的ニ治療セラレ得ル事ハ全ク眞實ナリ、種々ナル手術ハ行ハレ屢々成功ス、然レトモ婦人ノ可成多クハ遂ニ内部器官迄犯ス痲疾ヲ等閑ニスル故ニ死ス

如何ニシテ痲疾ヲ減スヘキカ、患者ノ過半数ニハ痲疾ハ花柳病ナリ、即チ一般ニ男女ノ關係ニヨリテ得ラル、ナク、妻ニ傳染セル夫ヨリ感染シ不注意不徳ナル婦人ハ男子ニ傳染セシム、然レトモ犠牲者ノ著シキ割合ハ少女ナリ、彼等ハ全ク無智ナリ、而シテ痲疾ヲ惱ム婦人ノ過半数モ亦無智ナリ。

少女ニ於ケル徵候ハ成長セル婦人ニ於ケルト同シ、只異ナル所ハ膀胱ノ炎衝ハ左程普通ナラス、而シテ子宮ノ炎衝ハ實際ニハ知ラレス、少女ニハ感染ハ殆ト常ニ外陰部ト腔トニ限ラル、故ニ陰門兼腔炎ト稱セラ、如何ニシテ少女ハ痲疾ヲ得ルカ、時ニハ不幸ナル少女ハ男子ノ殘酷ナル慾獸ニ誤用セラレテ得ルナリ、此ハ法外ナル事ナリ、然レトモ小サキ處女ト交接スレハ疾病ヲ治得ト云フ迷信カ惡シキ男子間ニアリ、小サキ處女ハ痲疾ニ苦マン信シ難キ無智且ツ邪惡ナル一例ナリ、勿論アル小女ハ手拭、敷布、便所ノ不注

意ナル使用ニヨリ痲疾トナル、恰度九歳ノ娘カ余ノ診斷ヲ受ケニ來タリシ時ハ既ニ一箇年以上痲疾ヲ惱メリ、其母ノ話ニヨルニ娘ハ其ノ女傳ト共ニ遠キ散歩ヲナシタリ、而シテ其兒ハ歸宅ノ前ニ小便セント欲セリ、幾分輕卒ニ彼女ハ共同便所ニ入レラレタリ、ソノ時以來一般的徵候ヲ以テ苦シムニ到レリト、其少女ハ恐ラクハ注意セサリシ不潔ナル席ニ坐セルニヨリ傳染シタルカ否カハ不明ナリキ、不幸ニモ其ノ際多クノ再發アリキ、遂ニ治スル爲ニ麻痺劑ヲ用フル事ニナレリ

兒童ニテハ治療困難ナリ、何トナレハ腔ハ小ニシテ腔口ハ處女膜ト稱セラル、膜ニヨリテ幾分閉サルレハナリ、充分ニ治療スル爲ニ處女膜ヲ除ク事時々必要トナル

男ヨリ金ヲユスリ取ラント欲スル無智ナル且ツ邪惡ナル女ハ不正ニモ男ヲ告訴スルハ事實ナリ、然レトモ痲疾ハ性交ニヨリ女兒ニ授ケラル、ハ事實ナリ、又女兒ハ暗黒ナル淋シキ場所ニ待伏セラレテ酷待サル、モ事實ナリ、北西倫敦ニ救濟家屋ヲ有スル一貴婦人ハ曰ク彼女ノ少女ハ未熟ナリ、而シテ「レーヂェント」公園ノ如キ人通リ少ナキ場所ニテ猿轡ヲ箱メラレタリ縛セラレシヲ巡查ニ發見サレタリト

甚タ稀ニハ兒童ノ生殖器ハ誕生ノ間ニ母ノ排泄物ニヨリ傳染セラル、コトアリ、兒童ノ痲疾感染中最モ普通ニシテ最モ不幸ナルハ初生兒眼炎ナリ此ハ眼ノ内面ヲ覆フ粘膜ノ激シキ炎衝ナリ初生兒ニ來ル、誕生間ニ排泄物ニテ嬰兒ノ眼、顔、手ヲ汚スニヨリ傳染セラル、婦人カ見得ル程ノ排泄物ヲ出スト否トニ關セスヘテ嬰兒ノ眼、顔ハ其頭カ生ルヤ否ヤ注意シテ清ムヘキモノナリ、手モ洗フヘシ何トナレハ産湯ヲ取ラ

ス前ニ嬰兒ノ眼中ニ擦リ入レル、排泄物カ確ニ手ヲ蓋ヘハナリ、若シ婦人カ痲疾ヲ病メル事知ラレハ若シ化膿性排泄物現レハ一滴ノ硝酸銀溶液ハ感染ヲ防ク爲ニ兒童ノ眼中ニ入レル、此ハ或産科病院ノ規則ナリ、若シ此ノ注意ヲナサハ初生兒眼炎ハ起ラス、而シテ溶液ハ非常ニ強カラヌ限リハ兒童ノ眼ヲ害セス

不幸傳染起ルナラハ數日ハ何事モ見エス、ソノ後母又ハ保姆ハ眼瞼ノ少シク赤色ヲ帶ヘルト稍脹ル、ニ氣ツク、而シ直ニ黄色ノ膿滴漏出ス、疾病ノ進行ハ迅速ナリ而シテ脹レト赤色トハ増シ爲ニ眼カ閉サレサルノミナラス甚タシキ際ニハ眼瞼内面カ裏返シトナリ多クノ褶ナル、赤キ球、芍藥ノ如キ物ニ見ユ、膿汁ノ排泄ハ多量トナリ張りタル粘膜及眼瞼ノ眼球ニ及ホス壓力ハ大ナリソノ營養ハ惡シクナリ角膜(眼ノ透明部)ハ最初ハ曇リ出シ次ニ潰瘍ヲ生シ遂ニ破レ眼ノ更ニ深クニ在ル部分逃レ出ス、而シテ盲目畸形ハ免レス、此等ノ不幸ハ最初ハ母ノ傳染ヲ避ケ疾病ヲ治シ嬰兒生ルヤ否ヤソノ眼瞼ヲ充分ニ清メ硝酸銀液ヲ滴下シ最後ニ眼ノ僅ノ赤色及脹ヲモ迅速ニ適當ニ治療スル事ニヨリ豫防シ得ルナリ、如何ニ些細ナルニモ係ハラスカクスヘキナリ、彼等ノ間ノ痲疾ト微毒トハ國中ノ至盲目患集ノ半數以上ヲ數フ、カルカ故ニ吾人カ此等疾病ヲ抑止セス豫防セス治療セスシテ放置スルハ實ニ一文惜ミテ十文知ラサルナリ、初期ニ數磅ヲ用フレハ疾病ヲ全ク阻止シ得ン、然ルニ吾人ハソノ數磅ヲ費ササルナリ婦人ハ満足シテ年月ヲ全ク怠リ過コス、男子ハ婦人ヲ知ラント欲セス婦人ハ知レト主張セシムルイープ(Eye)ノ自然的好奇心ヲ有セサリキ、

カクシテ萬事進行シソノ極ハ生命ノ損失、生命ノ渴望、養育院ト病院トノ充滿、國民ノ支柱タルヘキ希望タルヘキ男子婦人ノ損失トナル、スヘテ此ノ禍ハ存在ス、而シテ禍ヲ存在セシムヘキ必要ハナキナリ、何トナレハ此ノ疾病ハ實ニ治療セラルヘキ物豫防セラルヘキ物ナレハナリ

#### 花柳病ノ豫防ト治療

花柳病ノ國民的危險ヲ如何ニ處置セント吾人ハ云ハンカ、吾人ハ此等ノ疾病ノ性質ヲ知ル、ソノ分離ハ容易ナリ、吾人ハ藥劑ヲ知リ且如何ニ使用スヘキカヲモ知ル、次ノ問題ハ如何ニシテ患者ヲ藥劑ニ適當セシムルカナリ、此ハ難事ナリ、困難ノ一ハ國民カ微毒痲疾ハ花柳病ナリト知ル事ナリ或ハ知レリト思フ事ナリ、而シテ花柳病ハ常ニ人間ノ惡行ノ結果ナリト信セル事ナリ、此ハ眞實ナラス、時々微毒痲疾ハ遠キ起原ニテハ花柳病的ナレトモ個人的ノ場合ニ花柳病ニ非サル事アリ約言スレハ人ハ微毒ニ罹レル人ト接吻シテ唇ニ感染シ醫師看護婦ハ指ニソノ他種々ノ方法ニテ感染ス、故ニ吾人感染セル人ハ己ノ罪ニテ感染セルナリト判斷シ或ハ語ルヘキニ非ス然レトモカ、ル觀念ハ人々ノ心中ニ根本的ニ無クカ、ル問題ハ罪ト恥トヲ以テ聯想セラレ最近數年ニ到ル迄ハ婦人ハ實際的ニソノ問題ニツキ知ル所ナカリキ、婦人ハ知ラスト男子ハ全く思ヘリ、彼等ハカ、ル事ヲ知ルハ穩當ニシテ適當ナル事トハ考ヘサリキ、而シテ婦人ハ飽ク迄無智ナラント欲セリ、新ラシキ精神今ヤ現ハル、此ノ一部分ハ最近ノ「ロイアルコンミッション」ノ影響ニヨリ一部ハ戰爭ノ悲哀ト懸念トニヨリテ謹直ニナレル公衆ノ大ナル眞面目ニヨル、而シテ一部分ハ過度ノ嬰兒死亡率

ノ認知ニヨリテナサレタル深キ印象ニヨルナリ、花柳病ノ重大ヲ公衆ノ認知セルハ此等ノ物ハ國家ノ危険ヲ作ルトノ深キ確信カ公衆ノ心ニ入レルニヨルナラン、故ニ論議ハ困難ナルニ相違ナキモ人々カ如何ニシテ花柳病ヲ避クヘキカ何故ナル手段ニテ被害者ハ治セラルヘキカヲ知ランカ爲ニ花柳病ニツキ學フハ神聖ナル義務ナリトノ確信ニヨリテ作ラレシナラン

「コンミツシヨン」ハ誤レル恥スル心ヲ止ムヘシト感セリ、人々カ罪アルナラハ恥スルハ當然ナリ、然レトモ彼等自身及隣人ノ爲ニ治療スヘキ也、同様ニ隣人若シ病氣ヲ蒙ルル時ハ治療スヘキハ當然ナリ、人々カ假令知ルト知ラスニ關セス隨意ニ歩ミ廻リテ他ノ人々ニ此等ノ疾病ヲ持チ來ルハ正義ニ非ス、ソレ故ニ「コンミツシヨン」ハ治療ノ多クノ中心ハ倫敦、大都市、及ヒ實ニ國中一體ニ始メラルヘキ事ヲ勸告セリ、彼等ハ第一ニ中心ハ現在ノ病院ト關係シテ作ラルヘシト勸告セリ最近マテ病院ハ花柳病ノ初期ニシテ治療セラルヘキ状態ノ患者ヲ收容スルヲ推シタルハ信シ難キ事ナルモ事實ナリ、病院ハ患者カ盲聾瘂麻痺又ハ狂氣ニナレル時入院スルヲ欲セリ、換言スレハ治療ノ望ナクナリシ時ニ收容セント欲セリ、然レトモ初期ノ治療セラルヘキ状態ノ時收容ヲ欲セザリキ、何故ナルカ公衆カ此等ノ疾病ハ常ニ惡行ノ結果ナリト説服セラレシヲ知レハナリ、而シテ病院カ此等ノ患者ヲ收容スル時ハ病院ノ寄附者ハ金ヲ與フルヲ止メ朋友ハ漸々減スルヲ恐ル、ナリ、又己ノ過失ニヨル病人ヲ收容スル時ハ他ノ患者ハ同シ病室ニ横ルヲ拒ムヲ恐ル、ナリ、看病人ハ我々ハカ、ル種ノ患者ヲ我々ノ病室ニ置ク事ヲ好マス各人ハ感染セント云ハント思ヘリ

スヘテ此等ノ議論ハ根本ヨリ破ル、疾病ハ恥ニ非ス疾病ノ原因コソ恥ナレ、而シテ輿論カ全ク啓發セララル、ヤ否ヤ人民カ苦キ惡ハ正サルトイフ事ヲ理解セハ造營物ニ喜ンテ寄附シ義捐ヲ止メサルヘシ、而シテ基督ノ慈悲ノ教訓——ソノ疾病ハ疾病ナリ治療セララルヘシ——ヲ知ルヤ否ヤ又人々カ僅ノ經濟學ヲ學ンテ最初ニハ五磅ヲ費シテ治セラルモ後ニハ百磅以上ヲ要ス、市稅負擔者ノ金ノ幾百萬圓ハ初期ニ治療セラレサル聾啞盲ニ瘋癲病院ニ使ハル事ヲ知ラハ國民ノ常識ハ寄附者ヲシテカ、ル基督ノ如キ行爲ヲシテ造營物ニ義捐スルヲ喜ハシメン、此病ノ疾病ハ接觸ニヨリテ傳達セラル事ハ記憶セララルヘキ事也、空氣又ハ水ニヨリテ感染セス

故ニ政府ハ此事業ニ於テ協力センコトヲ大病院ニ希望シツ、アリ、病院ハ此レニ對シ快諾ヲ與ヘリ、然レトモ此ノ活動ハ未タ以テ十分ナラス、倫敦中僅ニ十二ノ大病院アルニ過キス、尤倫敦七百萬人中ノ患者ヲ救フ準備トシテハ果シテ充分ナリヤ否ヤ大ナル設備必要ナリ、去ル七月發表サレシ計畫ハ倫敦及其他ノ大都市ニ於テ治療所ヲ建設シ且地方自治體ニ治療所ノ建設ヲ許可セントスルニアリ、而テ此レカタメ經費ノ七十五「パーセント」ハ國庫ニ於テ之ヲ負擔シ殘額二十五「パーセント」ハ地方自治體ニ負擔セシメントス加之開業醫ヲシテ最下級民ノ治療ヲナサシムルタメ藥品購入費ヲ交附セントス

本計畫ニ依レハ醫師ハ患者ヲ拒絕スルヲ得ス、病院ハ如何ナル口實ヲ以テスルモ治療ヲ謝絶スルヲ得ス、患者ニシテ痲病若クハ微毒ノ一ヲ有スルモノハ當然受理セサルヘカラス

多クノ患者ハ公立病院ニ行キ疾病アルヲ語ルヲ欲セサルヲ常トス故ニ無料ニテ治療スルノミナラス毫モ患者ノ住所氏名等ニツキ質問スヘカラス、ケンシントンノ住民モカムバーウエルニ行ク事ヲ得バツデングト  
ンノ人モマイルエンドニ行ク事ヲ得此際醫師ハ管轄外ナリトテ拒絶スルヲ得ス、治療ハ全部無料ニシテ決  
テ餘計ノ質問ヲ發スヘカラス、治療所ハ労働者カ餘暇ニ於テ治療ヲ受ケ得ル様即治療ノタメ彼等ノ晝間ノ  
労働ヲ妨害セサル様時間ヲ規定スルヲ要ス、委員會ハ花柳病患者ニ對スル治療規定ノ改正ヲ必要ナリト信  
ス

委員會カ其仕事ヲ開始セル時ニジョンストン博士ハ地方自治總務官ニヨリ貧民救助法ノ造營物ト病院トヲ  
視察スルヲ命セラレタリ、彼ハ實ニ價値アル報告ヲ作り此ヲ「コンミツション」ニ提出セリ、此報告ハスヘ  
テノ種類ノ箇人ニタイシ殊ニ花柳病患者ニハ貧民救助ノ設備カ不完全ナル事ヲ示セリ、彼ハ男子ハーツノ  
不適當ナル室ニ婦人ハ他ノ室ニ集レルヲ見タリ、醫師ノ意見ヨリ必要ナキ際ニスラ世話スル人ナキ故ヲ以  
テ寢台ニ寢カサレタリ、此等ノ患者ハ着物ヲ着テ散歩スル事ヲ許サルモ實ニ御シ難ク見エタリ故ニ寢衣ヲ  
着セリ、養育院ノ一主人ハジョンストン博士ニ語レリ「此等ノ人々ノ送レル生活ハ戰慄スヘキ物ナリ彼等  
ハ横臥シテ何物ヲモナサス、而モ床ニ臥セントスル程ノ病氣ニアラス、余自身及余ノ妻ノ外ハ何人モ彼等  
ノ戸ノ闖ヲ越エル者ナキハ事實ナリ」彼等ニ面會スル禮拜堂牧師及醫師アラン、トジョンストン博士ハ  
尋ネタリ「否余ノ負擔ヲ要スル事トテ招カス、余ハ余ノ能フ限りノ治療ヲ與フルモカ、ル多數ノ者ヲ如何

### ニ取扱ヒ得ンヤ

勿論カ、ル事情ハ終ルヘシ、更ニ周到ナル注意ハ貧民救助法ノ患者 (Poor Law patients) ニ適用サルヘキ  
ナリ、カ、ル主義ナレハ患者カ欲セスシテ病院内ニ留ル事ハ除外スルナリ、勿論治療サレル内ニ釋放サレ  
退院シ他人ニ傳染ス、數年間ハ今日啓發サレタル努力ハ軍人、水夫、巡查ヲ教訓シ警告スル爲ニナサレタ  
リ、講演ハ現存スル禍ニ付キ並ニ困難カ起リテ彼等カ感染シタル時ニハ如何ニスヘキカニ付キ説カレタリ、  
彼等ハ治療ヲ受クル爲ニ適當ナル陸海軍病院ニ行ク様ニ勵マサル此等ノ病院ニテハ彼等ハ巧妙ニ親切ニ注  
意深く治療セラル、而シテ彼等ノ間ニナサル、善良ナル仕事ハ常ニ偉大ナリ、彼等カ公務ニ入ルヤ彼等ハ  
警告セラル、ノミナラス其後規則正シキ間隔ヲオキテ講演行ハレ彼等ヲ取り卷ク危険ヲ指摘シ彼等ノ爲ニ  
準備セラル、治療ヲ受クル様ニ獎ムルナリ

公衆ノ教育ハ眼目ナリ、人民カソノ危険ト危険ヲ避クヘキ方法ヲ知ル迄ハ何等有功ナル事ハ行ハレス、法  
律、省令、警察、慈善家、道德家ノ努力ハ全國民ノ赤心ノ協力ニヨリテ人民カ扶助セラレ支持セラル迄ハ  
危険ヲ防ク力ナシ、若キ子供ノ兩親、保護者ハ疾病死亡不道德ニ對スル此ノ大ナル社會改善運動ニ於テ如  
何ナル役ヲ演スヘキカ

今日ニ到ル迄患者、教師、女教員ノ多クハ沈黙ノ方針ヲ續行セリ、彼等ハ彼等ノ論達ノ無智ヲ保證シテ潔  
白ヲ維持セント努メタリ、此ノ正直ナル努力ハ成功セサリキ、兒童殊ニ娘ノ或割合ノ者ハ性的生理的及衛

生學ノ知識ニヨリ保護セラレタリ、彼等ハ人生ノ事實ニツキ何等一定セル實際的ノ事ヲ知ル事ナクシテ結婚シ母トナラシメラル、結果ハ不幸ナリ、此等ノ娘ノ中或者ハ痲疾ニ感染セリ而シテ其結果イツマテモ子供ノ如シ、或物ハ微毒トナリ感染セル兒童ヲ産ミタリ、而シテ彼等ハソノ範圍マテ彼等ノ悲哀ノ原因ヲ知ラサリシ故ニ治療ノ機會及生ケル健康ナル兒童ヲ得ントスル希望ハ失ハレタリ、沈黙ノ方針ハ更ニ惡シキ不幸ヲ來タス、小學校程度ノ娘ノ多クハ家庭ノ下女トナル、戶籍吏ノ統計ニヨルニ庶生ハ家庭ノ下女階級ニハ社會ノ他ノ階級ヨリモ普通ナリ、又庶生兒死亡率ハ公生兒ノ物ノ十倍ナリ、人生ノ總テノ事情ハ未婚ノ母及ソノ不幸ナル兒童ニ對シテ存ス、母道ノ危險ヲ蒙ル下女娘ハソノ職ト資格トヲ失フ、多クノ場合ニハ彼女ノ健康ハ害セラレ、過半数ハ彼女ノミカ若シ兒童生レテ生キ殘ル時ハ兒童ノ扶持準備セサルヘカラス、法律ノ現存事情ニテハ未婚ノ母カ己ノ子供ノ父ヲ探シ父タルヲ證シ小兒維持ノ扶助ヲ得ルニ必要ナル法廷ノ命令ヲ得ルハ困難ナリ、罰ノ落ルハ女ノ上ナリ、兒童ヲ不幸ト危險トニ産ム者ハ彼女ナリ、資格ト職トヲ失フ者ハ彼女ナリ、生活手段ヲ失ヒテ己ト子供トノ爲ニ正直ナル生活ヲ行ハント努力セサルヘカラス

十四歳ノ娘カ墮落ノ爲ニ起リ得ル結果ヲ知ラサルハ事實ナリ、彼等ハ一定量ノ智識ヲ得タレトモカ、ル知識ハ困難ナリ救ハンカ爲ニ教ヘラレサリキ、ソノ知識ハ彼等ノ心ヲ高尚ニシ清ムルヨリハ寧ロ獸化シ墮落セシムルト云フ風ニテ得ラレタリ何事モ知ラサル若キ娘ト墮落セル知識ヲ有スル憐レナル女トハ何レカ惡シキ位置ニアルヤハ問題ナリ、前者ハ危險ヲ豫知スル能ハス避クル能ハス、後者ハ危險ノ存在ヲ知ルモノノ致命的ナル事ヲ理解シ得ス

凡ソ青年男女ハ自然ヨリ附與セラレタル特權ニヨリ自己ノ名譽ト尊嚴トニ對シ自覺スル所アラサルヘカラス

父母タルモノハ幼時ヨリ其子女ニ對シ身體ノ清潔、品性ノ純潔ニ關シ絶ヘス教育セサルヘカラス

入浴ニヨリ身體ヲ清潔ナラシメ且清潔ナル衣服ヲ着用セシムレハ兒童ヲシテ自ら自己身體ノ價值ヲ認ムルニ至ラシム又母タルモノハ慈愛以テ其子女ニ克己抑制ノ德ヲ教育セサルヘカラス、他働的制裁ハ効果少キモ自働的克己ハ其効果頗ル大ナリトス、克己抑制ノ醉母ハ自然ニ存在スルモ之ヲ充分ニ發育セシメ得ルヤ否ヤハ至ヤ兩親ノ注意如何ニ存ス

我儘放縱ノ間ニ成長セル兒童ハ癡ヲ横着、亂酒、放蕩ノ虜トナリ無教育ノ乳母ノ手ニ育テ爾青年ハ暴食ノ徒トナリ率ヒテ酒精ノ奴隸トナル、放縱ナル少年ハ遂ニ婦人ニ對スル禮讓ノ道ヲ缺クニ至リ其結果遂ニ身ヲ亡ホスニ至ルヘシ

多クノ兩親ハ彼等ノ兒童ト兩性的問題ニツキ教フル能ハス又教フルヲ欲セスト云フ、然レトモ適當ナル方法ニテ適當時期ニナサルナラハ困難ナル問題ニハ非ス、子供ハソレニヨク適應シユク、彼等ノ尋問ハ簡單ニシテ直接ナリ、彼等ニ對スル返答ハ明白ニシテ信實ナルヘシ、牝雞ト雞、猫ト小猫、家庭ニ於ケル新生兒ハ

子供ニトリテ最モ興味アル問題ニシテ『何處ヨリカ、如何ニシテ』トイフ自然的尋問ヲ起サシム此等ノ尋問ヲ避クルハ愚ナリ、而シテ不信實ノ答ハ罪ナリ——母ニ對スル罪、母ハ再ヒ信セサルヘシ——、兒童ニ對スル罪兒童ノ信實ト信任トハ害セラル、神ニ對スル罪、神ノ加護、知慧及愛ハ眞實ニヨリテ顯サル筈ナリ小供ノ心ハ眞實ニ調和スルモノニシテ眞實ヲヨクウク、彼等ハ幽靈談ノ恐シキ事實ニヨリ戰慄セス、彼等ハ聖母ノ分婉、我々ノ神ノ復活ト昇天トヲ單ニ信ス、彼等ハ説明ヨリモ事實ヲ好ム、神力雜小貓、嬰兒ヲ送レリト兒童ニ語ル母ハ小サキ兒童ニ對シテハ安全ナル地位ニアリ、『如何ニシテ神ハ送リシカ』ト尋ネラレシ時ニハ母ハ兒童ニ尙少シク年行キタラン時語ルヘシト言ヘハヨシ、暫クシテ新生兒ニツキ不思議ナル御伽噺ヲスル時來ル——小サク弱クシテ自ラ生活スル能ハス、而シテ十分ニ大キク強クナリテ獨リ生活シ得ルニ到ル迄母體内ニ温ク安全ニ保タル、嬰兒——賜物ニ對スル感謝ノ數語及偉大ナル愛スル施與者ヲ稱賛スル數語ハ全體ヲ語テ調和ス、次ニ必要ナル注意アリ、『此ハ汝ト我トノ間ノ祕密ナリ他人ニ語ルヘカラス』

尙父ト云フモノニ關スル概念ハ自ラ顯ルヘシ即植物生理ノ事實ハ説明ニ好資料タルヘシ、潔白ノ典型マリア百合草ハ教育ノ根底タルヲ得ム、金色ノ花粉ヲ以テル葯ハ父ヲ示シ柱頭子房並ニ胚珠ハ母ヲ示ス、一方ノミニテハ實生セス二ツ相合シテ受精作用ノ神秘生ス、發情期ニ於テハ一層綿密ナル教育必要ニシテ方正ニ身體ヲ持スル様教育セサルヘカラス、性ニ關スル知識ハ最モ高尚ニ教育シ苟モ天賦ノ特權ヲ濫用スルト

キハ遂ニ健康ヲ破壊スルニ至ルヘキヲ教育スルヲ要ス、青年男女ハ光榮アル天賦ノ特權ヲ感謝シ決テ之ヲ汚損シ濫用スル等ノ行爲アルヘカラス

加フルニ若キ男子ハ婦人ニ對シ恭儉ニシテ禮讓ナル様訓練セラレ且ツ彼等ノ特權ヲ過早ニ濫用スルハ自己ノ健康ヲ害スルノミナラス未來ノ妻子ニ悲哀ト疾病トヲ與フルモノナルコトヲ教育セラレサルヘカラス、恐ルヘキ疾病ハ只一回ノ放蕩行爲ニモ伴ヒ得ルモノナル事ヲ注意セサルヘカラス疾病ハ不行跡ナル生活ニヨリテノミ起ルモノナリトノ俗説ハ全然之ヲ打破シ生涯ノ悲哀ト後悔トハ小供ラシキ惡戯ノ一行爲ノ結果ニヨル事ナルヲ知ラシムルヲ要ス

### ○沃度丁幾ヲ以テセル軟性下疳並ニ其他生殖器潰瘍ノ療法

(本編ノ原著ハ「伯林醫事週報」(一九一六年第二七號)ニ掲載サレアリシヲ本年二月十七日  
發行「瑞西醫事新誌」ニ抄載シタリ Correspondenz-Blatt für Schweizer Ärzte, 1917, Nr. 7)

テ、ザツクス述

著者ハ軟性下疳ノ治療法トシテ藥局法沃度丁幾ニ五〇%ノ「トリブロームフェニール、ウ井スムート」  
Tribromphenyl-Wismut 或ハ「キセロフォルム」Keroforn ヲ加ヘタルモノヲ以テスルコトヲ勸奨セリ、此  
ノ振盪合劑ヲ小桿ニテ塗布スレハ良ク乾燥セシムル作用アリ患者ニハ何等躊躇スル所ナクシテ之ヲ使用ス  
ルヲ得ヘシ。本劑ニ又爾他ノ生殖器潰瘍並ニ創傷療法ニ應用シテ好果アリトセリ

### ○衛生試験所ノ組織

(亞米利加醫學會雜誌(一九一六年十二月三十日發)ノ記事ヨリ採萃シテ熱帶醫學  
及衛生雜誌(一九一七年二月一日發第廿卷第三號第卅二頁)ニ掲載シタルモノ)

於紐育 醫學博士 ウ井リアム、エチ、バーク

茲ニ記述セントスル所ハ紐育市衛生局試験所々長トシテ過去二十二年間ノ長キ經驗ニ基クモノニシテ實ニ  
其ノ間ノ推移ハ最初僅カニ四名ノ所員ヨリ成レル一小細菌學試験所カ遂ニ今日二百餘名ノ所員ヲ有スルニ  
至レルナリ

小都市ノ衛生試験所ニ在リテハ必要上總テ公衆試験所ノ事業ヲモ兼スルヲ常トス、然レトモ衛生上ノ研究  
ト其他要求セラル、研究材料ノ試験トハ實ニ其ノ種類雜多ニシテ又從ツテ研究ノ目的モ夫々異ナリタルモ  
ノナレハ其ノ都市相當ニ大トナリ且ツ經費ノ負擔ニ耐ユルニ至ラハ宜シク先ツ分チテ之レヲ二種ノ異ナル  
試験所トナサンコトヲ希望スルモノナリ

種々肝要ナル試験ノ内ニモ例ヘハ道路造設ニ使用セラル、「アスファルト」ノ如ク衛生トハ因縁ナキモノ多  
シ此等ノ爲メニ社會公共ノ保護ニ資スベキ費用ヲ支出スヘキニ非ズ尙又衛生問題ニ没頭セル所員ヲシテ斯  
カル試験ノ爲メニ其ノ注意ヲ分散セシムルカ如キコトアルヘカラサルハ明白ナリ

細菌學試験所ト化學試験所トヲシテ同一幹部ノ下ニ連結セシムヘキヤ或ハ之レヲ各々分立セシムヘキヤ如



何ノ問題ハ唯其ノ地方ノ状態ヲ研究調査シタル後ニ於テ回答ヲ決シ得ヘキノミ、又水ノ検査モ之レヲ衛生  
 試験所ニ於テ爲スヘキカ或ハ給水局ニ屬スル試験所ニ於テナスヘキカニ關シテモ亦前ト同様ナリ  
 世間往々深く思考スルコトナクシテ試験所ハ衛生局内他ノ諸部ト一種異ナリ全ク別個ノモノナルカノ如ク  
 想像スル者尠カラサレトモ之レ決シテ然ラス、牛乳ノ細菌學的及化學的検査ハ食品部ノ爲メ該部ノ監督  
 下ニ於テ爲サル、モノニシテ又診斷的細菌検査ハ傳染病措置ノ一部ニ屬スルモノナリ  
 試験所ニ於ケル水ノ検査ハ給水管理局ノ事業ノ一部ナリ

若シ又血清、痘苗ヲ製造セハ衛生局ニ於テ此等製品ノ購入ヲナスノ必要ナカラシムルモノナリ、諸部各別個  
 ノ試験所ヲ備フルハ最モ愚ナルモノニテ經濟上必然總ヘテ此等ハ一中央試験所ニ合同スヘキモノナラン、  
 試験所ガ小ナル間ハ化學的及細菌學的實驗所ヲ合一スルヲ常トスレトモ試験所ガ漸次擴張セラル、ニ從ヒ  
 各區分ニ分チ各副取締者ノ指揮ノ下ニ置キ又一一般化學的ノ事業ハ之ヲ食品部ノ監督ニ移轉スルナリ  
 紐育ニ於ケル化學試験所ノ如キハ時トシテハ細菌學試驗所管理局ニ又時トシテハ食品品管理局ニ屬シテ化  
 學者ハ何レカ其ノ時其ノ試験所ノ屬スル處ノ局長ニ報告ヲナセリ  
 一 試験所カ公衆衛生ニ關スル總テノ活動部ノ爲メニ専門的の事業ヲ營ミツ、アル事實ハ大都市ニ於テ衛生試  
 驗所ノ事業カ直接中央衛生試験所ニ附屬セサル他分離セル試験所ニ於テ成サル、理由ヲ説明スルモノナ  
 リ

例ヘハ給水ノ監督ノ如キ市ノ一種別個ノ管理局ニ於テ之レヲナス、防護ノ效果如何ヲ測定センカ爲メノ檢  
 査ハ水ノ検査ヲ專ニセル小試験所ニ於テ爲サレ而シテ直接給水局ヘ報告セラル、コト最モ望マシ、尙又衛  
 生試験所ニ於テハ他ノ目的ヲ以テ水ノ検査ヲ施行スルナリ

政府ハ部局ノ異ナルニ應シテ更ニ一層小區分ニ分離セシメントスルノ傾向ヲ有ス其ノ事若シ甚タ極端ニ走  
 ラサル限り望マシキコトナリ、如何トナレハ此ノ如クシテ各試験所ハ夫々其ノ屬スル部局ノ要求ニ應スル  
 コトヲ得ヘケンハナリ

過去二十年間ニ於テ衛生局ノ活動範圍ハ非常ニ擴張セラレタリ、紐育衛生局ハ常ニ傳染病ノ科學的研究ニ

關係セル總テノ事柄ハ日常ノ試験ト同様ニ其ノ職分内ニ在ルモノト認メ來レリ

衛生局ニ屬スル職分ノ範圍ニ對スル此觀念ハ大方進歩セル社會ニ於テ採用セラル、ニ至リタリ、紐育ニ於  
 ケル試験所ノ豫算ノ内百分ノ一ハ常ニ學術的研究費ニ當ラレアルカ之レハ一般智識ノ増進ニ止マラス他ニ  
 最モ相當ノ理由アルコトナリ

(一)如此シテ屢々疾病豫防ニ關シ直ニ應用シ得ラルヘキ實用的智識ヲ増進ス

(二)技能優秀ナル試験所員ハ學術的研究ニ當ツヘキ時間ノ餘裕ヲ有スル所ニ於テ得ラルヘシ

(三)所員ノ技能優秀ニシテ研究實驗ノ訓練充分ナル時最モ能ク新發見ノ價值ヲ試考スルニ適シ又其ノ採否  
 ヲ決スルニ速カナルヲ得ルナリ

時代ノ趨勢ハ異ナリタル各種事業ノ比較的價值ヲ定メンカ爲メ各部試驗所ノ事業ニ要スル費用ノ計算ヲナシ得ヘキ記録ヲ要求ス、之レ全ク科學的ノ事業ニ從事セル者ニ於テハ甚タ面倒ヲ感スヘケレトモ次ノ如キ理由ノ爲メ試驗所ハ其ノ要求ニ應セサルヘカラス、之レ試驗所ノ作業ノ効力ヲシテ益々増進セシムルカ爲メニ必要ニシテ又市ノ會計ニ參與スル者カ豫算ヲ是認スル爲メニ必要トスルナリ

大試驗所ニ於テハ往々經費ハ各分離セル機關ニ應シテ項目別ニセラル、紐育細菌學試驗所ハ次ノ如キ區分ヲ有ス

員數

- 一、行政 十七人
  - 二、診斷(實扶埤利亞、腸室扶斯、微毒、其他) 五十八人
  - 三、血清、痘苗製造 五十七人
  - 四、治療施行(血清痘苗療法) 十五人
  - 五、細菌的衛生試驗(牛乳、水其他) 二十二人
  - 六、培養基調製 二十四人
  - 七、特別研究(傳染病豫防治療ニ直接關係ヲ有スル實用問題) 十五人
- 此等ノ分類ハ多クノ點ニ於テ多少無理ナル所アリ又相互ニ重複セルノ傾無キニアラスト雖上述ノ分類ハ今

日迄テニ吾人ノ考案シ得タル最上ノモノナリ

活動的試驗所ニ於テハ研究問題ト實地適用トハ常ニ轉移交代シツ、アリ

特ニ經費及組織ニ關スル問題ニ興味ヲ有スル者ハ此等機能ノ分離セラル、コトヲ要求ス、之レ唯ニ費用ノ爲メノミナラス亦實際的ニ要求スルモノナリ、若シ其ノ如クナラバ取締者及副取締者ハ彼等ノ全部ノ時間ヲ擧ケテ委員、醫務官、又ハ各局長等ト協議ヲ爲シ或ハ又他ノ所員ヲ監督スルコトヲ得ヘシ、尙各専門ノ地位ニ在ル者ハ各其ノ一方面ニ向ツテ常務ト學術的研究トヲ進ムルヲ得ルナリ

此ノ分離ハ非常ニ必要ノコトナリ、通常診斷的及衛生的試驗ヲ行フ者ハ研究の作業ヲ爲スコトヲ好マス、然ルニ他ニハ研究の作業ヲナスノ能力ヲ有スル者アリ此等ニ對シテハ一方相當ノ常務ヲ支配シ管理スルト同時ニ研究ノ爲メ時間ヲ分轄スルノ好期ヲ與ヘサルヘカラス、而シテ全ク研究ニ參與ル者モ全ク行政事務ニ當ル者モ其ノ給料ハ之レヲ平等ニナスヘキナリ

試驗所ノ所長及副所長ハ全般ノ事業ト接觸ヲ保チ且ツ少クトモ一區分中ニ實務ヲ擔任セサルヘカラス、各區分間ノ關係ハ非常ニ密接且ツ複雑ニシテ全般ノ事務ニ對スル一般の智識ヲ最モ肝要ナリトス

若シ其ノ任ニ當ル者ニシテ試驗所内行政事務ノ外何物ヲモ爲サストスレハ彼等ハ忽ニシテ運用ノ巧妙ト產出ノ價值トヲ知ル能ハサルニ至ルヘシ

試驗所ノ大小及構成ノ狀態ニ應シテ各區分ヲ副所長ノ監督ノ下ニ置ク可キヤ否ヤヲ決スヘキナリ、即チ其

ノ區分大ニシテ且ツ非常ニ重要ナル時ハ其ノ上ニ一長官ヲ置クヘク若シ又區分小ナルカ或ハ發達ノ過渡期ニアル間ハ便宜上他ノ區分ヲ兼任セル副所長ノ管理ニ委スルモ可ナルヘシ  
副所長及責任アル地位ヲ有スル所員ハ何レモ各區分ノ事業ニ就キ一般的ニ之ヲ了解シ若シ所員間ニ異動起リタル時ハ其ノ空位ハ最モ適當セル他ノ所員ニヨリテ補充シ検査及研究ノ効果アル實施ヲ繼續シテ其間支障ナカラシメサルヘカラス

上級所員ニシテ才能アル者ハ亦少クトモ他ノ一専門ニ就テ智識ヲ有シ益々其ノ智識ヲ廣メ其ノ興味ヲ増進シ退職、疾病、休暇ニ依リテ生スル空位ヲ擔當シ得ル様努ムヘシ

屢々一研究者ノ研究ノ結果カ試験所内ニテ彼カ屬スル區分以外ノ區分ニ於テ實地適用ヲナサル、コトアリ、此ノ場合試験所ノ事業ヲ益々効果アルモノタラシメンカ爲メニ一所員カ其ノ時間ヲ二區分ニ分配スルコト往々ナリ

試験所ノ所長タル者ハ己ノ智識及部下ノ可トスル所ニ從ヒ懸案事項ヲ處理スルノ自由ヲ與ヘラルヘキモノナリ

是ヲ許スヘカラストナスハ明ニ見界ノ小ナルモノト云フヘク、是レカ各機能ノ要スル經費ノ經理ヲ困難ナラシムルモノト認ムルハ誠ニ皮相的ノ觀察ナリ、マタ實際抗毒素製造又ハ牛乳ノ検査ニ要スル費用ノ計算ニ至リテハ是等一般的報告ニ依リテ完全ナルモノヲ得ヘキニ非サルナリ

上級所員ハ總テ何レカ學術的研究事業ニ參與スヘク之レカ爲メニ相當ノ時間ヲ分與スヘキナリ、此ノ如クシテ彼等ノ興味ヲ振興シ其ノ能力ヲ計リ之レヲ益々發達セシメ更ニ一層重要ナル責務ニ應セシムルヲ得ナリ

多數ノ都市及州ハ試験所ニ於テ適當ノ學術的研究ヲナス様豫算ノ整理ヲナサントシテ今尙躊躇ス

實用問題ノ學術的研究ニ要スル資料ヲ缺クカ如キハ余ハ經驗上之レヲ一大誤謬ナリト斷言ス、市試験所ノ研究部ノ編成ハ一ニエチ、エム、ピグス博士ニ負フ所ナリ、氏ハ紐育州衛生委員トシテ同様ノ政策ヲ主張シ金員ヲ求メテ傳染病豫防治療ニ關シ全ク實用方面ノ學術的研究ニ當ルヘキ研究所設立ニ努メツ、アリ氏カ委員トナリタル以前ト以後ニ於ケル試験所ノ有様ヲ充分了解セル者ハ何人モ研究ニ要セシ少量ノ過分經費カ以テ試験所員ノ見界ニ全キ變動ヲ來シ且ツ其ノ事業ノ効果ヲ増進スルニ力アリタルコトハ信シテ疑ハサルヘシ

パスツール、及ロツクフエラー等ノ大研究機關ハ今日衛生局ニ於テ緊要ト認ムルカ如キ公衆衛生問題ニ對シテハ未タ攻究セントスルノ傾向ト時間ト期會トヲ有セサルナリ

## ○「ペスト」ニ對スル處置

四九四

(一九一六年十二月雜誌「ステート、メデイシン」中ニ掲載シタル「拔萃シテ一九一七年一月一日發行ノ雜誌「熱帯醫學及衛生雜誌」第二十卷第一號第十、十一頁ニ記載セルモノ)

公衆衛生局 「クラスゴ」衛生 醫務副官醫學博士 ウヰリアム、ライト、述

船中ニ發生スル「ペスト」病ニ對シ絶對的安全ヲ保證スヘキ理想ノ方法ハ云フ迄モナク病疫地ヨリ歸來セル有ユル船舶ニ就キ入港ト共ニ夫等船中ノ鼠族ヲ悉ク撲殺スルニアルコト明白ナリ、余未タ曾テ當地諸島ノ内何レノ港灣ニ於テモ此ノ如キ過激(根本的)手段ノ採用セラレタルヲ知ラス又尤モ敢ヘテ之ヲ大袈裟ニ施行スヘキ要アリトモ思考セラレス、サハ云ヘ一方例ヘ一頭ノ有菌鼠タリトモ之が上陸ヲ爲シタル際ニハ一流行ノ起固トナリ得ヘキモノナルコトハ記憶ニ値スヘシ、即チ如斯、日常採用シ來リタル防備ノ方法ニ鑑ミテ茲ニ至ラハ我等ハ指導ノ宜敷ト云ハンヨリハ寧ロ僥倖ニヨリテ非常ナル危害ヲ免レタルヲ覺ラサルヲ得サルナリ、抑日常採用シ來リタル方法トハ如何ナルモノソ若シ船中ニ在リテ鼠族間ノ斃死常ナラサル時、換言スレハ死因不明ナル斃鼠ヲ多數ニ發見シタル場合ニハ之レヲ病疫ノ疑アルモノトシテ船舶内ノ鼠族ヲ全部撲殺スルコトニ努ム、「クレイトン」裝置ハ使用セラレ黃硫燻煙ヲ各船艙内ニ壓搾注入スルナリ、同様船中ニ群襲セル鼠族ニ對シ「クレイトン」裝置ヲ採用シタルコト數港ヨリ報告アリタリ、然レトモ何レノ港モ此裝置ヲ有スト云フニ非ス大ナル港灣ニアリテモ之レヲ缺如セルモノアリ又偶々其ノ設備アルモノモ之レ

ヲ使用スルコトハ甚タ稀ナリ、大形船舶ニ在リテハ此裝置ヲ爲セルモノアレトモ通常一般ニ船員カ之ニ對シ大ナル興味ヲ有スルヤ否ヤハ航海者ノヨク知ル所ナリ、「クレイトン」ノ使用ニヨリ船艙内ノ鼠族ハ全部撲殺シ得ラル可キヲ主張サルレトモ此點ニ關シテハ余ハ敢テ意見ヲ呈セス、唯一回ナラズグラスゴ一ニ於テ其方法施行一兩日ニ涉リテ尙ホ生存セル鼠數頭ヲ目撃シタルコトアリタリ、然レトモ「クレイトン」ハ多數ノ鼠族ヲ同時ニ撲殺スル爲ニハ今日我等カ有スル諸機械ノ内最モ有効ナルモノナリ、貨物ヲ滿載セル船舶内ノ鼠族ヲ全部殺滅シ得ヘキモノトハ信ジ難シ、又船艙ハ船體ノ全部ニ非スシテ實際隔離舍、水夫部屋上等寢室、機關室等ヲモ煙蒸消毒ヲ行ハサルヘカラス、從來船中各所ニ捕鼠器ヲ設置シテ鼠族ヲ捕獲シ來レリ、尙ホ一層進ンデ細菌學上ノ見地ヨリスレハ鼠族ヲ塵殺ニアルコトノ必要ナルハ固ヨリ出來得ヘクンハ蚤及「ペスト」菌ヲモ撲滅スヘキナリ、次ニ掲クル一九一一年五月三十日グラスゴ一船内ニ發生シタル「ペスト」ノ證例ハグラスゴ一衛生醫員カ年報中ニモ説明サレタルカ如ク其船中ノ鼠族數ハ極メテ少數ナリシモ惡疫ハ有ユル人爲的防備ヲ犯シテ尙能ク發生シ得ルモノナルコトヲ證明スルニ足ルヘシ

航海日誌 一九一一年二月十一日グラスゴ一ヲ出港、リパブル、ポートサイド、スエズ、ボンベイ、ヲ經由シテカラチー、ニ到ル、四月八日歸航ノ途ニ上リ十九日ポートサイド、ニ到着、同月二十五日マルセーユ、ニ着港セリ、ボンベイ滞在十日間、カラチー、ニ於テ十四日間、然レトモスエズ、及ポートサイドニテハ着港ノ當日出發セリ、スエズ、及ポートサイド、ハ折々非常ニ多數ノ患者ヲ發生スル病疫港ナレト

四九五

モ此地ニ於ケル滞在短時間ナリシト又停泊ノ箇所モ埠頭ニ接觸セサリシ事實ニ依リ何人モ病疫ノ播入ハ此地ニ非スシテボンベイ、カ或ハカラチーニ於テナルコト、信シテ疑ハサルヘシ、是等兩港ハ其當時及今日モ尙ホ病疫流行セリ、再ヒ云フ該船ハボンベイ、二十日、カラチーニ十四日間滞在シタリ、蓋シ此點ハ特筆大書ニ値スルモノナリ、之レニ依リ該船カ病疫汚染ノ最近ノ日ハ四月八日ナリト假想シ得ヘシ、患者——一東印度水夫、廿五歳、カルカッタ生レ——ハ五月二十八日ニ發病セリ、故ニ病疫地ニ停泊シタル最後ノ日即チ四月八日ヨリ身體ニ惡疫ノ徵候ヲ認ムルニ至リシ迄テニ五十日ヲ經過シタルモノナリト云フヘシ、之レニ就テハ後再ヒ記述スル所アリ、該船ハ本國ニ向ツテ航海ヲ繼續シマルセーユ、ニ於ケル三日間ノ停泊中「クレイトシ」装置ヲ以テ船艙内ノ煙蒸消毒ヲ施行シタリ、船員等ハ「クレイトン」ニヨリ硫黄煙ヲ送入シタルカ或ハ一酸化炭素ヲ送入シタル之レヲ知ル能ハサリシト雖モ惡臭ヲ感シタリト云ヘハ多分前者ヲ使用シタルカ如ク推測セラル、四月二十八日マルセーユ、ヲ發シ、五月五日リハブール、ニ到着、五月九日バーケンヘツド、ニ渡リ十二日グラスゴーニ向ツテ出帆五月十三日クライドニ着セリ、ポートサイド及スエズニ於テハ絶對ニ乗組員ヲシテ上陸セシメス、マルセイユニテハ僅カニ浮橋ニ出ツルコトヲノミ許セリ、五月十三日クライドヲ上航シツ、アリシ途中他船ト衝突シタレトモ進航ヲ繼續シ得テ同日グラスゴークイーンズ船渠ニ投錨セリ而シテ此地ニ三日間停泊、該船ハ五月十六日ニ至リ河ノ南岸ゴパンニ於ケルグレイビング船渠ニ移渡サレタリ、五月二十八日マテ患者發生ナカリシカ發生當日ハ恰モクライドヲ發航シ

テヨリ十五日ノ後ニシテ前ニモ記述シタルカ如クカラチーヲ出テシヨリ五十日ヲ經過シ居レリ、グレイビング船渠内ニ入りタル後ハ破損箇所修繕ノ爲メ船骨ノ上部前方港測ナル船板ヲ取りハススノ必要アリ尙ホ發病前ニ於ケル修繕ノ部分廣大ナルト作業上槌ヲ打ツコトハ必然マスカル可ラス其ノ他種々ナル事狀ノ爲メニクライド到着後船内ニ鼠族アリタリトスレハ是等ヲシテ船外ニ追ヒ出シタルヘシ、サレト此點ニ關シテハ歐人士官ハ絶對ニ鼠族ノ影ヲ認メサリシコトヲ主張セリ、又消毒施行ノ後鼠族ハ一ツモ發見セサリキグレイビング及クイーンズノ兩船渠ニ於テ捕獲シタル鼠ハ合計廿六頭ニシテ其ノ内三頭ハ溝鼠モリスニ屬シ他ノ廿三頭ハ家鼠モリスニ屬セリ、而シテ之レヲ検査シタルニ何レモ陰性ナリキ

傳染ノ源泉、航海中特別注意スヘキ他ノ「ベスト」患者ナク又船内ニ鼠族ヲ認メサリシ爲メ傳染ノ原因ハ今日尙ホ確定スルヲ得サルナリ、「ベスト」病處置ニ關シ今日迄承認シ來リタル方法ハ此度ノ患者發生ト其ノ四周ノ状態トニヨリ激シキ電震ヲ受ケ未タ知ラレサル他ノ傳染ノ經路ヲ求メテ之レカ研究ヲ久フセル者ニ對シ思考ノ一道ヲ開拓セリ、セントピーターズバーグニ於ケルアレキザンダー一世皇帝ノ研究所内デーテ、ヴェルジビストスキー博士ノ説明ハ參考ニ値スルモノアリ、即チ次ノ如シ、「菌ヲ保有セル蚤、南京虫等ノ歴シ潰サレタルモノ又ハ其糞便ニ由リテ汚タル「リンネル」及其他ノ織物ニ在リテハ狀況適當ナル時「ベスト」菌ハ五ヶ月以上生存シ尙且惡性ナルモノナリ」

鼠族ノ免疫 「ベスト」ノ研究ノ第七回報告(衛生新報、一九一三年一月、増刊「ベスト」號第二卷、第二三一

頁)中ニ記載サレタル所ニ依レハ「マドラス鼠」ハ接種ノ後其ノ「八十三%」カ「ベスト」ノ爲メ斃死シタルニ對シ「ボンベイ鼠」ハ四十四%、ブーナ鼠ハ三十%カ該病ニ斃レタリ、又有菌蚤ノ媒介ニヨリテ鼠族間ニ該病ノ播殖セラレタル時ニ於テモ類似ノ結果ヲ見タリ、即チブーナ及ボンベイ鼠ハマドラス鼠ニ對シ比較的免疫ノ程度高シ、マドラス市ハ一九〇五年中一小發病ヲ見タル外全クベストノ侵襲ヲ被ラズ然ルニ之ニ反シボンベイ、ブーナ該病ノ爲メ激甚ナル災害ヲ受ケタリキ、是等周到ナル研究ニ徴シ長歲月間ベスト病ノ流行シタル地方ニ於テハ感染動物トノ接觸長キ爲メ大部分鼠族間ニ免疫成リ、從ツテ當國港務官ニ於テモ此ノ如キ地方ノ諸港ヨリ來レル船舶内ノ鼠族ヨリ病毒感汚スヘク危惧ヲ懷クノ要ナカルヘシト推定セラル、言ヲ換フレハ當地ニ於テ從來普通ニ實行サレタル所ト正シク反シ惡疫流行久シキニ涉レル諸港ヨリ來航セル船舶ヨリモ寧ロ唯最近ニ侵襲ヲ被レル諸港ヨリノ船舶ニ對シ最モ警戒ヲ嚴ニスヘキナリ、クラスゴーニ於テハ數年間船渠内ニ捕鼠員ヲ置キタルカ一九一三年中船内ニ於テ六百五十七頭船渠内ニテ二百二十三頭ノ鼠ヲ捕獲シ得タリ而シテ検査ノ結果ハ何レモ陰性ナリキ

稿ヲ結フニ當リ一言諸港ニ於テ普通採用セラル、鼠族上陸防止ノ方法ニ就キ説明スヘシ、其防鼠設備ニ二種アリ、(イ)直徑二十或ハ二十四吋ノ平圓鐵盤、(ロ)是ト同様繩ニ柴ヲ附スルコトアリ而シテ其ノ穂先ハ船ノ方向ニ面セルモノナリ、又往々繩ノ一部分ニ「コールタール」ヲ塗ルコトアリ然レトモコハ船員ノ喜ハサル所ニシテ之レニ換フルニ「コールタール」ヲ塗沫セル布地ヲ以テ繩ヲ卷クコトモアリ、舷門板橋ノ兩端

モ亦二呎宛「コールタール」又ハ胡粉ヲ塗沫ス而シテ後者最モ廣ク採用セラル、サレト此等諸種ノ方法ノ効モ二種ノ弊ニヨリ侵害ヲ受クルモノナリ、(一)港灣規則ニハ一日ノ積荷終了シタル時ハ直ニ荷揚人夫用棧橋ヲ引揚クヘキコト規定サルレトモ之レヲ實行セラル、コト殆ント稀ナリ、又(二)潮汐ノ影響大ナル港灣ニ於テハ二十四時間中船側ノ門口ト船渠ト相平行スルコト四回ノ多キニ及ブ、サレハ鼠族カ上陸ノ形跡ヲ發見シ得ルコト屢々ナルハ之レヲ察スル亦難事ニ非ラサルナリ

## ○リバブル市衛生部衛生注意書

## (一) 鼠族驅除ニ關スル注意書

## 鼠ノ驅除

倉庫並ニ家宅ヲ所有シ又ハ使用スルモノハ次ノ注意書ニ注意シ夫レニ定メタル鼠族驅除方法ニ就キ衛生當局ト力ヲ一ニセラレンコトヲ望ム

傳染病ハ鼠ニ依ツテ傳播サレルコトカ多イ、之レヲ防禦スルニハ

## (一) 鼠ヲ撲殺セヨ

(二) 住宅、倉庫又ハ一般商店等ヨリ鼠ヲ驅除セヨ、而シテ住宅ノ附近テ鼠カ餌ヲ採リニ出ル場所ヲ取リ拂へ

主ニ鼠カ建物ニ這入り込ムニハ

## (一) 床下ノ土中ニ穴ヲアケテ

(二) 排水渠ヤ塀ニ穴ヲ作リテ管ノ通ツテル所カラ

(三) 戸ノ隙間、戸ノ下部ノ破損シタ所、土間ノ開口等カラ

是ヲ防クニハ

(一) 土臺ニ穴カアツタラ「アスファルト」カ「セメント」ヲ塞ケ

(二) 下水ヤ其他管ノ通ツテ居ル穴ノ隙間ヲ塞ケ

(三) 戸口ヲ修理シ、必要アラハ下部ニ鐵板ヲ張レ、土臺ノ穴ニハ必ス金網ヲ張ルコト、建物ノ中ノ鼠ハ早ク見ツケテ殺セ

鼠カ建物ニ這入ルノハ食物ヲ搜シニ來ルノテアル

汚物溜、肉屑溜、厩等ハ鼠ニ食物ヲ與へ塵溜ヤ不用ノ建物ハ巢ヲ造ルニ適スル

家内ノ廢物ハ成ル丈ケ燒キ棄テヨ

地方官憲ハ地主、家主カ此點ニ共力シ又借家人モ鼠族ノ群棲スル場所ヲ衛生部ニ通知シテ之カ撲滅ニ盡力セラレンコトヲ望ム

鼠族ヲ撲滅スルニハ捕鼠器、毒藥ヲ使用スルノカ一番便利テアル

犬、白鼬、猫鼬等テ市場、厩、倉庫ノ鼠ヲ狩獲ル事モ出來ルカ鼠ノ穴ノ中マテハ達シナイ、食料品ヲ蓄ヘテアル所ニ良イ猫ヲ置クノモ効力カアル

捕鼠器ハ彈條ノ附イタモノカヨイ、又大形テナケレハ金網ノモノモヨイ

捕鼠器ヘハ成ルヘク手ヲ付ケルナ、持ち廻ルニハ手袋ヲハメテ人ノ臭ノ移ラヌ様ニセヨ、ソーシナイト鼠カ恐レル

「リバプールのウイルス」「ラツテン」「デニスウイルス」等ノ毒藥ハ藥種屋テ買ヘル

鼠ハカリテナク他ノ動物モ病毒ヲ傳播スルコトカアルカラ無用ノ動物ハ成ル可ク飼養セヌカヨイ

千九百八年七月一日

リバプールの公衆衛生部衛生部醫務官

イー、ダブリユウ、ホープ、述

(二) 蠅關スル注意書

普通家蠅カ病菌ノ媒介ヲナスコトハヨク知ラレテ居ル、蠅カ澤山群集シテ居ルノハ其ノ邊ニ汚物ノアル證據テアル

蠅ハ主ニ肥料ヲ堆積スル所ニ發生スルカ又動植物質ノ腐敗シタモノヤ其ノ他不潔物モ蠅ノ發生所トナル、然シ蠅ノ食物ハ汚物ニノミ限ラレテ居ラヌ其ノ危険ハ不潔ナ肉屑ヲ喰ツタ後ニ汚物ヲ人ノ用フル食品ニ附着シテ食料ヲ汚染スルノテアル

蠅ノ害ハ管ニ汚物ノ傳播ニ止ラス傳染病患者ノ病菌ヲ健康ナ人ニ運搬スル、蠅ハ好ンテ傳染病患者ニ着ク

此ノ害ヲ防クニハ

蠅ヲ殺セ

塵芥汚物ハ焼クカ又ハ適當ナル容器ニ入レテ蓋ヲセヨ、容器ハ度々空ケテ掃除セネハナラヌ

食物ハ何テモ金網、又ハ「モスリン」ノ蓋ヲセヨ、食品ノ賣物ニハ適當ナ蓋ヲスルコト、物ヲ買フニハ蠅

除ノ完全ナ店ヲ選ヘ

臺所ハ殊更家内ヲ清潔ニセヨ

蠅ヲ病人ニトマラスナ、病室ノ蠅ヲ殺セ、病人ノ體ニハ病菌カ附着シテ居ル

下水溝ヲ洗淨シ、排水ヲ完全ニセヨ

衛生上ノ缺點ハ何ニ限ラス直クニ之ヲリバプールの市テール、ストリート、ノ市役所内衛生部醫務官ニ報告セヨ

千九百〇九年五月一日

衛生部醫務官 イー、ダブリユウ、ホープ、述

再發

千九百十年四月

千九百十一年七月

千九百十五年四月

(三) 幼兒ニ對スル注意書

(イ) 爲サネハナラヌコト

赤ン坊ハ生レテカラ八ケ月間ハ親ノ乳ヲ育テヨ

乳ヲ飲マセルニハ規則正シクシ、最初ハ二時間毎ニ段々大キクナルニ連レテ其ノ時間ヲ長クセヨ

乳瓶ハ船形ノ瓶ヲ使ヘ



乳瓶ハ二個供ヘテ交ル交ル用ヒ、空ヒタラ直ク洗テ此ノ次ニ使フマテ冷水ニ浸シテ置ケ親ノ乳カ無イ時ハ「モデファイドミルク」(小兒用特殊乳)ヲ用ヒヨ  
 乳離レシタ兒ニハ普通ノ食物ヲ與ヘル前ニ牛乳ヤ牛乳ヲ作ツタ食物ヲ與ヘヨ  
 赤ン坊ノ寢床ハ常ニ別ニセヨ、衣類籃ヤバナナ籃ハヨイ搖床ニナル  
 赤ン坊ハ毎日叮嚀ニ洗ヘ、洗ツタ後ハ清潔ナ着物ニ着換サセヨ  
 毎日赤ン坊ヲ戶外ニ連レテ行ケ、清イ空氣ニ遇ハセルコトカ必要テアル  
 六ケ敷イコトハ醫者ニキケ  
 毎朝窓ヲ開ケヨ  
 汚レタ水ハ直クニ棄テルコト

(ロ) 爲シテハナラヌコト

一ケ年以上親ノ乳ヲ飲マスナ

泣ク度毎ニ乳ヲ飲マスナ

長イ管ノ付イタ乳瓶ヲ使用スルナ、管ヲ清潔スルコトカ出來ヌ  
 生レテ六ケ月ノ間ハ赤ン坊ヲ座ラセテハナラヌ、春ヲ害フカラ  
 床ノ上ニ落チタ玩具類ヲ洗ハナイテ赤ン坊ニ渡スナ

「シヤブリ」飴、齒磨粉、ヲ與ヘルナ、加減カ悪ルイ時ハ醫者ニ聞ケ

赤ン坊ヲ連レテ出ルトキ餘リ厚ク包ムナ、ソースルト清イ空氣ニアタラナイカラ

野菜ヤ魚肉ノ屑ハ塵芥箱ニ棄テナイテ燒イテシマヘ

便所ヤ下水渠ハ毎日掃除シテ清潔ニシテ置ケ、水ヲ充分ニ使フノハ消毒ヨリモ遙ニ效力カアル、便所、下水渠、揚蓋其他衛生上ノ缺點ハデールストリートニアル市役所ノ衛生部ヘ通知セヨ

暑イ時子供カ嘔吐又ハ下痢ヲシタラ直クニ醫者ノ診察ヲ受ケヨ

金網ノ蓋ヲシテ子供カ火ニ燒ケヌ様注意セヨ

兩親ハ特ニ次ニ掲ケタル千九百〇八年小兒法令第十五項ノ規定ニ注意セヨ

「十六歳以上ノ者カ七歳以下ノ小兒ヲ監護中充分ナル注意ヲ缺キ開放セル火氣アル室内ニ入ラシメ爲メニ其小兒カ死亡シ又ハ重傷ヲ受ケタル時ハ即決裁判ニヨリ十「ハウンド」(百圓)以内ノ科料ニ處セラルヘシ

### (ハ) 幼兒ノ下痢

不潔カ原因テアル

母親ハ自分ト子供トヲ毎朝洗ヘ

衣類、夜具、家内ヲ清潔ニセヨ

汚レタ水ハ毎朝棄テヨ

空氣ノ不潔カ原因テアル

毎日窓ヲ開ケヨ

食物カ原因テアル

赤ン坊ハ八ヶ月ノ間ハ必ス全ク母ノ乳テ育テヨ

一ケ年以上母ノ乳ヲ飲マズナ

母ノ乳カ無イ時ハ誰レテモ牛乳屋カ又ハ「コーボレーションセンター」ヘ行ケハ「モデファイドミルク」カ得ラレル

赤ン坊ニビール、ウキスキ、又ハ堅イ食物ヲ與ヘルナ

牛乳ハ必ス煮テ用ヒ、器具ハ清潔ニセヨ

食物ハ總テ新鮮ナレ殊ニ魚類菓物ハ然リ

食物ハ總テ蠅ニ注意セヨ、殊ニ牛乳ニ於テ然リ

不注意カラ來ル

兩親カ仕事ニ出掛ケル時ハ相當ナ人ニ幼兒ヲ托シテ適當ニ食物ヲ與ヘ且ツ清潔ニセヨ

子供ニ下痢ノ微候カアツタラ直クニ醫者ニ連レテ行ケ

(二) 蠅

蠅カ幼兒ニ非常ニ不幸ナ幼兒下痢ノ様ナ傳染病ヲ傳播スルニ甚タ重要ナル關係ノアルコトハ確ナ證據カアル、是等ノ昆蟲ハ病人ノ病毒ヲ健康ナ人ニ傳ヘルモノテ彼等ハ特ニ傳染病患者ニ近付ク、子供ノ夏ノ下痢ハ大層死亡者ヲ出スカ多クハ蠅ニ依ツテ傳播サレルノテ丁度蠅ノ澤山ニ發生スル期節ニ流行スル

食物殊ニ牛乳、「コンデンスマルク」砂糖、「バタ」付パン等ハ蓋ヲシナイテ置クト蠅カ集ツテ來ル又夏ノ下痢其他腸ノ病ニ罹ツテ居ル子供カ汚シタ衣類モ同シ事ナリ、病ハ蠅カ持ツテ來テ食物ヘ附着サセタ病原カラ起ル、蠅ハ肥料ヲ堆積スル場所ヤ動植物ノ屑ノ中カラ發生スル  
危険ヲ遁レルニハ

蠅ヲ見付ケ次第ニ殺スコト

食物ニハ蓋ヲシ食事ノ後ハ殘ツタ物ヲ直クニ片付ケテ病毒ノ汚染ヲ防クコト

食料品ハ蠅除ノ完全ナ店テ買フコト

常ニ何ノ部屋モ取り分ケ臺所ハ清潔ニシテ屑ハ皆燒キ棄テ庭ハ奇麗ハ掃イテ下水等ハドン／＼水ヲ流シテ洗フコト、ソシテ衛生上不備ナ點ハ直クニ報知スルコト

デールストリートノ市役所内衛生部醫務官、述

注意不行届ノ爲メニ毎年多數ノ子供カ麻疹ニ罹ツテ死亡スル、又死ヌマテ、ナクトモ病後常ニ不健康ノ原因トナル

(徴候) 麻疹ノ初メハ普通眼鼻カラ涙ヤ鼻汁カ流レ出テ「クサミ」ヲシタリ咳ヲスルソレカラ數日ノ内ニ體ヤ顔ニ赤イ發疹カ出來ル、近所ニ麻疹カ出來タ時ニ若シ小兒カ惡寒テモスル様ナコトカアレハヨク注意シテ又發疹スルカモ知レヌカラ三四日中ハ決シテ油斷シテハナラス

子供ニ麻疹カ傳染シテカラ最初ノ徴候即チ寒ケカ出ルマテニハ普通十二日ノ間カアル

(通知) 自分ノ家ニ麻疹カ發生シタ場合ニハ直ニ兩親ナリ監督者カラ衛生部ノ醫務官ニ報知スルコト

(治療) 假令輕イ麻疹モ麻疹ニナツタラ直ニ醫者ヲ呼ヒナサイ、病兒ハナルタケ暖カニシテ熱アル間ハ決シテ床ヲ離シテハナラス、病兒ノ寢テ居ル部屋ハ暖カニシ且ツ換氣ニ注意シナサイ、ソシテ病ノ癒ルマテ其部屋ニ寢カシテ置カネハナラス、未タ病氣ノ癒ラヌ兒童ヲ戶外ニ連レ出シタリ寒イ部屋ニ置イタリ又風ニ吹カセルノハ非常ニ危險テアル、兒童カ麻疹ニ罹ルカ又ハ麻疹ニ罹ツタラシイト思ツタラ直ニ學校ヲ休マセテ教師ニ其譯ヲ通知ナサイ、病兒ヲ日曜學校、活動寫眞、其他遊園場所又ハ近所ノ家等ニ這入ラセテハナラス

(豫防) 麻疹ニ罹ツテカラ少クトモ二週間ハ他ノ子供ト一緒ニシテハナラス、麻疹ノアル家へ子供殊ニ赤

ン坊ヲ連レテ行ツタリ又ハ兒童ヲ病兒ト共ニ遊ハセテハナラス、自分ノ家ニ麻疹カ出來タラ他所ノ兒童ヲ這入ラサヌ様ナサイ、小兒ハ早晚麻疹ニ罹ルノタカラ早ク罹ツタ方カヨイナト、思フノハ非常ナ誤解ヲ遅クナルタケ危險カ少ク中ニハ全ク罹ラヌ者モ多クナル、幼イ兒程危險カ多イノテアル

麻疹ト百日咳テ死ヌル子供ノ數ハ他ノ種々ナル傳染病テ死ヌ者ヲ全部一緒ニ集メタヨリモ遙ニ多イ

(ハ) 百日咳

百日咳ハ非常ニ傳染力ノ強イソシテ最モ危險テ難儀ナ幼兒ノ病テアツテ看護ヲ怠ル故ニ多數ノ兒童カ此ノ病ノ爲メニ命ヲ棄テルノテアル

(徴候) 百日咳ノ初メハ熱病ノ様ニ惡寒ヲ覺エル、シカモ既ニ傳染力ヲ持テ居ル、直クニ激シク咳嗽カ出テ窒息シテシマウカト思ハレル程苦シンテ往々嘔吐スルコトカアル、咳嗽ハ又餘程後カラ出ルコトモアル

(治療) タトヘ病氣ハ輕クトモ醫者ニカ、ルカ肝要テアル、病兒ハ暖クシテ強イ發作ノナクナル迄テ床ヲ離シテハナラス、病室ハ暖クシテ又換氣ヲ好クセヨ

(豫防) 百日咳ハ傳染スルカラ病ニナツタラ五週間ハ他ノ兒童ト一緒ニシテハナラス、ソシテスツカリ全治スルマテ學校ニ出シテハナラス

近所ニ百日咳カ出來タラ何様ナ風邪テモ用心セヨ

百日咳ノアル家へ兒童殊ニ赤ン坊ヲ連レテ行ツタリ又ハ病兒ト共ニ遊ハセテハナラス、又自分ノ家ニ百日咳カ出來タラ他所ノ兒童ヲ這入ラサナイ様ニナサイ  
全治シタナラハ兒童ノ着物ヤ夜具等ヲ洗濯シ洗濯ノ出來ヌモノハ庭へ出シテ日光ニ曝シ又窓ヲ開ケテ部屋へ新シイ風ヲ入レナサイ

此ノ病ニ罹ルコトカ遅クナルタケ死亡ノ虞ハ少クナル  
兒童カ百日咳ニナツタリ又ハ百日咳ニナツタラシイト思タラ直ニ學校ヲ休マセテ教師ニ其譯ヲ通知ナサイ  
麻疹ト百日咳テ死ヌル子供ノ數ハイロクナ他ノ傳染病テ死ヌル者ヲ全部一緒ニ集メタヨリモ遙ニ多イ

リバプール市

子供ノ爲メニ特別ニ製造シタ「モデファイドミルク」又ハ「ドライドミルク」ハ次ニ掲ケタ場所テ得ラレマス

場所	幼兒愛護會
場所	執務時間
同	自午前十一時至午後六時
同	
同	
同	

○腸室扶私ト都市ノ行政

(本文ハ一九一七年二月十五日「セントヂ州」インデアアボリス市「インデアアナ」給水及衛生協會ニ於テ朗讀セラレタルヲ同年五月四日發公衆衛生週報廿二卷十八號中六四二頁以下ニ記載シタルナリ)

合衆國公衆衛生部傳染病學者

エー、ダブリュー、フリーマン、述

腸室扶私ハ都市生活ノ現下ノ状態ニ於テ殆ント絶對的豫防ヲ爲シ得ラル、ニ至レリ、此ノ點ニ於テハ合衆國內ニ普通ニ流行セル諸種傳染性疾病中腸室扶私獨リアルノミ、他ノ疾病ハ比較的豫防ヲ爲シ得ヘク或ハ相當ノ限度内ニ於テ防壓シ得ヘシ然レトセ腸室扶私ニ至リテハ實踐的活動状態ノ下ニ在リテハ殆ント絶對的ニ豫防シ得ラル、モノト云フヲ得ルナリ、腸室扶私傳播ノ経路ハ既ニ充分探知セラレ之レカ豫防ノ方法ハ眞ニ正確ニ確定セラレタリサレバ如何ナル都市ト雖モ相當ノ金額ト努力ノ消費ニ頼リテ其ノ都市カ有スル腸室扶私ヲシテ消盡ニ歸セシムルヲ得ベシ

公衆官權カ設定シ施行スル方法ニヨリ市民個人ノ不便ト努力トノ最少限度ヲ以テ豫防ノ完成ヲ致シ得ラル、點ニ於テ腸室扶私ハマタ他ニ類似ヲ有セサルナリ、一般傳染性疾病ノ豫防措置ハ市民ノ日常生活ニ密接スル細事ニ大關係ヲ有スルモノニシテ事ノ成就ハ唯單ニ此等細事ノ變更ニ俟ツヘキノミ而モ其ノ變更タルヤ常ニ長歲月間ノ努力ニヨリテ齎サル、モノナリ、然ルニ腸室扶私ノ防壓ハ殆ント大部分其ノ社會ノ公衆衛生ノ職掌ニシテ市民各個ニ要求スル法定上經濟上ノ援助ノミ、サンバ騰チブスノ豫防ハ奇異ノ言ヲ以テ

スレハ購求シ得ヘキ商貨ナリ、而シテ如斯方法ハ健康保全ノ爲メ市民ハ敢テ經費ノ多少ヲ論セラルナリ  
 腸窒扶私豫防事業ノ完成上必要トセラル、主要ノ方法カ正當可然衛生手順トシテ人々一般ニ了知スル所ト  
 相融和スルハ之レ誠ニ幸福ノ事ニシテ尙ホ其ノ方法ハ吾人ノ清潔及方正ニ對スル遺傳的思想トモ亦調知ス  
 ルモノナリ、吾人ハ諸都市ニ於ケル腸窒扶私豫防ニ關シ既ニ吾人ノ成シ得タル進歩ヲ祝賀スルニ當リ此ノ  
 成績ノ大部分ヲ致セルモノハ此等清潔方正ノ本原動機ヨリ案出サレタル方法ニシテ之ニ負フ所寧ロ腸窒扶  
 私豫防ニ關スル眞ニ自覺的ノ努力ヨリモ遙ニ大ナルヲ觀過スヘカラス  
 勿論都市ニ於ケル腸窒扶私豫防ノ上ニ必要トスル方法ハ既ニ克ク了解セラル、所ニシテ今更詳細ヲ喋々ス  
 ルニ及ハサレトモ諸種豫防方法ト之レカ施行後ニ期待シ得ヘキ成績ノ輕重大小ヲ比較的ニ考究スルコトハ  
 マタ利益アルモノ、如シ

都市ニ於ケル腸窒扶私豫防方法ノ第一主要骨子カ可及の最高度清淨ノ公共給水設備ニアルヘキハ言ヲ俟ス  
 シテ明白ナリ而シテ此點ニ關スル合衆國內衆庶ノ意向ハ公衆衛生問題中他ノモノヨリモ一層克ク一致ス、  
 勿論如何ナルモノカ良供給ヲ構成スルヤニ關シテハ意見區々ナルヘケレトモ實際上清淨水ノ必要ニ就テハ  
 何人モ異議ヲ挿ムモノナシ、公共給水ノ受納セラルヘキモノハ終始絶對的ニ清淨ナルヘシトハ之レヲ余リ  
 ニ過度ニ力説スヘカラス、然レトモ實際可能的の最高度清淨ニ達セサル給水ハ腸窒扶私豫防ノ効果少ナシ、  
 勿論市内ニ於ケル腸窒扶私ノ流行ハ或ル程度マテ公共給水ノ清淨ノ度ニ比例スルモノナレハ此ノ如キ給水

モ亦腸窒扶私流行ヲシテ減退セシムルコトアルヘケレトモ其ノ根絶ハ可及の最高度清淨水ノ供給ノ實施ニ  
 ヲリテ始メテ成就セラルヘキモノナリ、而シテ工學ノ進歩ハ今ヤ殆ント如何ナル状態ノ下ニ在リテモ此ノ  
 如キ給水ヲ可能的ノ經費ヲ以テ求メ得ラル、ニ至レリ

給水問題ニ關シ吾人ハ次ノ事實ヲ承認スヘシ即チ腸窒扶私流行ヲ減退セシメント欲セハ公共給水ハ其ノ社  
 會中全部ノ住民ニヨリテ使用セラレサルヘカラス、往々此事ノ都市行政ニ於テ余リニ度外視セラル、ハ誠  
 ニ遺憾ナリ、水質優良ノ公共給水カ人口稠密ナル社會ニ於テ僅カニ半數甚シキハ三分ノ一數ノミカ其ノ使  
 用ヲナスヲ見ルコト稀ナラス、其ノ殘部ノ住民ハ私ノ供給ニ頼ラサルヘカラス、而モ其ノ供給タルヤ何等  
 ノ監督ヲモ受ケスシテ設備シ經營スルモノニシテ普通汚染ノ大危険ニ曝露サレアルモノナリ、公共給水ノ  
 全般の普及ハ其ノ裝置ト同様緊要ナリトス

腸窒扶私豫防ノ第二至要骨子ハ一社會ヨリ總ヘテノ人體排泄物ヲ迅速ニ且ツ完全ニ移轉ヲナスコトナリ、  
 其ノ完成ハ勿論其ノ社會中ニ包含セラル、總テノ家庭カ形式完備セル衛生的下水渠ト連接ヲ有スルニ至リ  
 テ始メテ成シ得ラル、此ノ事實ハ最モ進歩セル近世ノ衛生家ニ在リテモ斯クト認ムルコト甚々遅カリシモ  
 ノナリ、我國諸都市ニ於ケル下水裝置ノ大方ハ衛生上ノ立場ヨリト言ハンヨリハ寧ロ便利ト快感ヲ理由ト  
 シテ設備セラレタルモノニシテ住民ノ大部分ニヨリ、便利快感美觀等ノ點ヨリシテ望マシキモノト認メラ  
 ルレドモ衛生上絶對的ニ至要ノモノトシテニハ非サリシナリ

サレハ其ノ結果トシテ我諸都市ニ於テハ通常上等或ハ稠密ニ建設セラレタル住居及商業區域ハ下水ノ連接ヲ有スレトモ塙末或ハ下等街ハ之レヲ有セス、必然此等區域ノ住民ハ其ノ排泄物ノ處理ニ關シ常ニ何等カ不完全ニシテ兎角不衛生的ナル便所ノ形式ニヨラサルヘカラサルナリ  
如何ナル種類ノ下水ヲモ有セサル塙所ニ於テモ腸チブスノ抑壓ハ或ハ之ヲ成スヲ得ヘキモ之ヲ根絶ハ望ムヘカラス、便所ノ形式ヲ拘束スルニハ不斷ノ監視、毎度ノ追行、二三年度ニ勞力ノ全キ反覆ヲ必要トス、此ノ如キハ誠ニ不満足ナル手順ナリ、若シ腸窒扶私ノ根絶ヲ欲セハ「地表便所」<sup>サトウエスクリビ</sup>外人曰。東京ノ共同便所ハ夫レナリ及總ヘテ私人個々ノ下水汚物處置ノ方法ヲ先ツ以テ廢止セサルヘカラス

既ニ記述セル方法ハ如何ナル都市ニ於テモ腸窒扶私根絶ノ根本的地業ヲ包含スルモノナリ、即チ此等ノ方法ニヨリテ減退作業ノ大部分ヲ完成シ得ヘシ、數年前（腸チブス傳播ニ關スル吾人今日ノ智識一九一三年一月十日、公衆衛生報）述者ハ其ノ當時普通ノ状態ノ下即チ北部都市ニテ其ノ地方ニ在リフレタル衛生状態ノ下ニ於テ且ツ黑人々口ノ割合低キ所ニ於テハ給水ノ清淨ノミカ腸窒扶私死亡率ヲシテ年平均人口一〇〇、〇〇〇ニ對スルニ〇前後ニ減退セシムルヲ算セリ、然ルニ一方黑人ノ割合高度ナル南部都市ニ於テハ其ノ當時ノ儘ノ衛生状態ノ下ニテ前同様ノ方法ニテ腸窒扶私率ヲ年平均一〇〇、〇〇〇對約五〇ニ減セシメタリ、彼ノ衛生技師トシテ又腸窒扶私研究者トシテ有名ナルジョージ、エー、ジョンソン氏ハ此ノ問題ヲ論ジテ此等ノ數字ハ餘リニ高カルヘシトノ意見ヲ發表セリ（腸チブス警告亞米利加水道組合雜誌一九一六年六月第三卷第二號）然レトモ氏ノ論書ト共ニ公表サレタル表中ニハ二十都市ヲ含ミ僅カ

ニ其ノ四カ南部ニ位置スルモノナルカ其ノ表ニ依レハ此計算カ事實ト余リニ遠サカラサルヲ證スルナリ、又例外トシテハニュージャーシー州ノバタートン及シンシナチニ於ケルカ如ク獨リ給水ノ清淨カ非常ニ顯著ナル成績ヲ齎シタルアリ

下水装置ノ完備カ腸窒扶私流行ニ及ホス影響ハ其ノ設備以前ニ於ケル状態ニ應シテ非常ニ差違アルモノナリ、概シテ、清淨ナル公共給水ノ存スル北部都市ニ於テハ一般共同下水装置ハ腸窒扶私死亡率ヲシテ一〇〇、〇〇〇對年平均一〇ニ減退シ之ト同様ノ状態ノ下ニ於テ南部都市ハ年平均死亡率一〇〇、〇〇〇對約二〇ニ減シ得ヘシト言フヲ得、然レトモ此等ノ計算ハ大ナル異動アルモ保シ難シ蓋シ南北兩地方共ニ都市下水ノ完成セルモノ誠ニ少數ニシテ更ニ一層此方法カ廣大ニ施行セラル、曉ニ於テ果シテ如何ナル影響ヲ期待シテ可ナルヤハ未タ充分信ヲ置クヘキ指示ヲ得ルニ足ラサルナリ

サレハ既ニ記述セル方法ニヨリテ都市ノ腸窒扶私死亡率ヲ年平均一〇〇、〇〇〇對一〇乃至二〇ニ減退セシメ得ルモノト假定スレハ殘餘ニ對スル減退及最後ノ根絶ニ必要ナル方法ハ尙ホ宿題トシテ攻究スヘキモノナリ、腸窒扶私ノ率カ減少スルニ從ヒ進ンテ更ニ減退ヲ致スヘキ方法ハ之ヲ案スルコト益々困難トナルハ勿論ナリ、全病率ノ大部分ヲ占ムル發生原因タル不純水及下水汚物ノ不完全處置ハ一般工學的ノ方法ニヨリテ根絶セシムルヲ得ヘシ、サレト此等根絶ト共ニ多數ノ小原因ノ更ニ研究ヲ要スルモノ殘留ス而シテ尙勝利ヲ望ムモノハ各々ニ對シ個々別々ニ攻撃ノ途ヲ講セサルヘカラス

腸チブス流行ノ此等小原因中第一位ニ又數量ノ立場ヨリシテ最も重要ナルモノハ給乳ノ汚染ナリ、此主因ノ重要ノ度ニ關シテハ從來意見識ニ區々ナリキ牛乳ノ媒介ニヨル腸窒扶私ノ發生マタ尠カラス而シテ夫レ以外ニモ傳染病學上ノ證據トシテ認メラル、程ニ充分大ナラスト雖モ牛乳汚染カ原因トナリテ衆庶中ニ可成多數ノ病者ヲ發生セシムルコトハ何人モ承認スル所ナリ、最近マサツセツ州ケーレー氏ノ述フル所ニ依レハ(イアーレ、ケーレー、亞米利加牛乳組合雜誌六十七卷廿七號一九九七頁「牛乳ノ媒介ニヨル傳染病」)マサツセツ州ニ於ケル腸窒扶私患者中其ノ原因牛乳ニアリトノ疑ヲ付セラレタルモノ六%ニシテ夫レト確定シタルモノ僅カニ五%ナリト、此統計ハ一九〇九年一、九一三年間ニマサツセツ州ニ於テ發生シタル患者ヲ基礎トシテ算シタルモノナリ、然レトモケーレー氏ハ腸窒扶私ノ牛乳傳播ヲ定義シテ曰ク『然レトモ如何ナル疾病モ牛乳ノ媒介ニ依ル事ヲ確定シテ明言センタメニハ細菌學的及化學試驗ノ方法ニ依リ疾病ノ周到ナル探索ヲ行ヒ疾病ノ過去ノ歴史即チ如何ナル場所ニ於テモ牛乳取扱人及ヒ其他ノ人ニ於ケル狀況ヲ知り而シテ總ヘテ傳染ノ導管トナリ得ヘキ他ノモノヲ全然排除スルヲ要ス』ト、實際經驗アル腸窒扶私研究家ノ何レモ勿論細菌學的ニモ又化學試驗的ニモ牛乳取扱人中ノ現在及過去ノ腸窒扶私患者ト直接ノ關係ヲ認ムルコト能ハサルモ疑ナク牛乳ノ媒介ニヨリ發病ニ遭遇シタルコトアルヘク尙ホ又牛乳ノ媒介ニヨル流行病ノ細菌學的特徴ハ明ニ獨特ニシテ又一定不變ナルコト而シテ實地ニ於テハ大多數ノ場合誤ラルヘキモノニ非サルヲ考フレハケーレー博士ノ定義ノ制限ハ不相當ニ極端ナルカ如シ

フロスト氏ハ最近ノ論書中ニ(ダブリューエチ、フロスト、給乳ト腸窒扶私ノ關係、一九一六年十二月一日公衆衛生報再版三八〇號)此ノ問題ヲ充分ニ論シ腸窒扶私發生ノ原因トナルヘキ汚染牛乳ノ影響ヲ算シテ大約ケーレー氏ノ所說ト同様ノ結論ニ達セリ然レトモ、余リニ小團ニシテ夫レト認メラレサル場合ノモノニ於テハケーレー氏ノ承認スル所ヨリモ遙ニ高率ト爲スノ傾向ヲ有ス

故ニ容易ニ吾人ハ都市ニ於ケル腸窒扶私ノ根絶ニハ汚染牛乳ニ關スル豫防方法カ一大責務ヲ負フモノナリト云フコトヲ得

給乳ノ處置ハ過去十年間ニ於テ公衆衛生施設中ニ重要ノ地位ヲ占メタルモノニシテ既ニ大イニ進歩ヲナセリ、然レトモ検査ノミニテハ如何ニ之ヲ精功ニ施行セラル、トモ牛乳ノ媒介ニヨル疾病殊ニ腸窒扶私ニ對スル豫防方法トシテ充分ナラサルコト日ヲ追フテ益々明瞭トナレリ、腸窒扶私保菌者及未發患者ニヨル給乳ノ一大汚染ノ危險ハ検査又ハ裝置及方法ヲ如何ニ清淨ニ爲ストモ之ヲ避クルコト能ハス、勿論流行病ノ危險ハ此等方法ヲ以テ減少セシムルヲ得ヘケレトモ全然除去シ得ヘキニ非ス、牛乳ノ媒介ニヨル腸窒扶私ニ對スル豫防方法トシテ眞ニ有功ニシテ且ツ單簡ノモノハ市中給乳ノ全部ヲシテ公衆監督下ニ於テ完全ニ強制的ニ加熱殺菌法ヲ行ハシムルニアル事ヲ明ニ承認セサルヘカラス、何レノ社會ニ於テモ完全ナル加熱殺菌ヲ施セル給乳ノ割合カ其社會ノ牛乳ニ起因スル腸窒扶私ニ對スル防禦狀態ヲ測定スル標準トナルモノナリ水、牛乳、排泄物ノ不適當處理等ニ因スル傳染ノ危險カ除去セラレタル後ニハ患者、保菌者トノ接觸及其

ノ他ノ小原因ニヨル少數ノ腸窒扶私感染経路ヲ殘留ス、此等ハ大ナル原因ニ於ケルモノ、如ク數多一時ニ攻撃ヲナシ又ハ除去ノ處置ヲ施スコト能ハスシテ個々別々ニ攻撃ヲナサ、ルヘカラス、之カ成功ヲ臨マハ衛生官側ニ於テ眞ノ興味ト熱心ヲ有シ患者發生毎ニ又月々歳々流行状態ノ全般ニ涉リ勞力ヲ惜マスシテ研究スルコトヲ要ス、此撲滅作業ニ於テ有効ナリト認メラル、諸種方法ハ曰ク、快復期患者ノ細菌學の検査、食料品取扱者ニ對スル健康診断(ウヰルダ反應ヲモ含ム)、保菌者ノ登録及監督、患者ノ病院收容及病毒接觸者ニ對スル豫防接種等總ヘテ發見患者ニ關係スル豫防法ナリ、此ノ事業ノ成功ハ一ニ衛生官及其ノ助手ノ人格ト熱心トノ如何ニ懸ルモノナリ、蓋シ當ニ一社會ニ於ケル該病ノ根絶ハ衛生官ノ眞ニ希望スル熱心ノ程度ニ應シ效果ヲ收メ得ラル、モノナリ

紐育、ボストン、ニューアーク、プロビデンス、シンシナチ、劍橋、リッチモンド及其ノ他諸大都市ニ於テハ腸窒扶私カ減退シテ事實上撲滅ノ域ニ達セルヲ見ルヘシ、之レ此ノ作業ニヨリ如何程迄ノ成功ヲ爲シ得ラル、ヤヲ説明スルモノナリ、今月迄ハ大都市ニシテ一ケ年ヲ通シテ腸窒扶私死者一名モ發生セサリシモノ未タ無カリシカ若シ現在ノ進歩ノ步調ヲ繼續シ得ルトキハ斯カル「レコード」ヲ作り出スモ其日マタ遠カラサルヘシ

オハイオ流域諸都市ニ於ケル腸窒扶私豫防ノ現下ノ狀況

腸窒扶私豫防ト都市ノ關係ニ關シ既ニ記述シタル多少理想的ナル所説トオハイオ河流域ニ位スル都市團ニ

於テ現在存スル狀況トヲ比較スルハ筆者思フニ又興味アルコトナルヘシ、即チ此目的ヲ以テ一九一〇年ノ人口調査ニヨリ人口二萬五千以上ノモノ二十四都市ヲ撰定セリ、此ノ表ハオハイオ流域ニ於テ三首都ビツツバーク、シンシナチ、ルイスビル、ヲ除クノ外人口二萬五千以上ヲ有スル都市ヲ總ヘテ包含ス、此等首都市ハ他ノ小都市ニ關スル報告ト同様ノ検査ニ依ラサリシヲ以テ之ヲ除外ス、夫等報告ノ全部ハ茲ニ用ナシ、此研究中ニ含まレタル諸都市ニ關スル報告ハ公衆衛生當局カオハイオ河ノ不淨調査ト關連シテ該地方都市ノ衛生状態ヲ検査スル間ニ蒐集シタルモノナリ、各都市ハ何レニモ出張シ報告ハ總ヘテ直接ニ蒐集シタリ、其ノ作業中ノ衛生技師ニヨリテ給水及ヒ下水ノ装置ヲモ調査シ各都市衛生課ノ經營ニ關スル報告ハ醫務官ニヨリテ蒐集シタリ、此報告ハ可及的正確ニシテ其ノ検査ノ行ハレタル一九一四、一九一五年ノ夏ニ於ケル各都市ノ狀況ヲ充分ニ表示スルモノナルヲ信ス、又該検査ニ於テハ検査ノ施行前五ケ年間ノ腸窒扶私流行ニ關スル報告ヲ蒐集セリ、而シテ諸都市ニ於ケル腸窒扶私死亡率ノ平均ハ右年間ニヨリテ計算セラレタルモノナリ

ペンシルバニア州ニューカッスル及インディアナ州エバンズビルノ二都市ニ於テハ調査施行中給水ニ大變動アリタルカ故ニ兩市ハ其ノ變化後ニ就テノミ調査シ至五ケ年ノ調査期間ニヨリテ腸窒扶私死亡率ヲ算出セリ

實際上腸窒扶私患者ノ計數ハ或ハ不完全或ハ全然不備ナル都市アルヲ以テ腸窒扶私流行ノ研究ハ全ク研究



中ノ諸都市ニテ正確ニ登簿サレタリト認メラル、腸窒扶私死亡率ニ基キテ研究セリ

第一表ハ検査ノ當時諸都市ニ於テ發見シタル腸窒扶私流行ノ爲メニ蒙レル影響ノ状態ニ關スル基礎的事實ヲ掲ク、給水ノ等級トハ調査員ニ於テ公共給水ノ水源、病毒豫防、清淨ノ方法等ヲ精密ニ視察シ、且ツ其實驗所試験ノ總ヘテ有力ナル記録ヲ研究シタル結果最高點一〇〇ヲ基礎トシテ定メラタル水質ノ衛生的價值ノ數字上ノ表示ナリ、此ハ關係アル有力ノ事實ヲ精密ニ試験シタル後ニ於ケル調査員ノ水質ノ衛生的價值ニ關スル意見ヲ表示スルモノニシテ其ノ價值ヲ決スルニハ其ノ社會ニ現在流行セル腸窒扶私ハ之ヲ思考セス

公共給水ノ使用人員ノ割合並ニ下水ニ連絡ヲ有スルモノ、割合ハ地方記録ニヨリテ可及的正確ニ定メラレタリ

消毒牛乳使用人員ノ割合ハ可及的正確ニ牛乳販賣額ヲ計リ其ノ社會ノ總ヘテノ消毒所ヲ視察シテ加熱殺菌ヲ施行シタル量ヲ確定シテ以テ得タルモノナリ

患死者ノ記録ノ蒐集及研究、並ニ病毒豫防ニ關スル報告ハ衛生課ヲ訪問シ視察シテ得タルモノナリ

價值ニ關スル意見ヲ表示スルモノニシテ其ノ價值ヲ決スルニハ其ノ社會ニ現在流行セル腸窒扶私ハ考セス

公共給水ノ使用人員ノ割合並ニ下水ニ連絡ヲ有スルモノ、割合ハ地方記録ニヨリテ可及的正確ニ定タリ

消毒牛乳使用人員ノ割合ハ可及的正確ニ牛乳販賣額ヲ計リ其ノ社會ノ總ヘテノ消毒所ヲ視察シテ加テ施行シタル量ヲ確定シテ以テ得タルモノナリ

患者ノ記録ノ蒐集及研究、並ニ病毒豫防ニ關スル報告ハ衛生課ヲ訪問シ視察シテ得タルモノナリ

第一表

オハノオ流行域ノ人口二萬五千以上ヲ有スル都市二十四個ニ於ケル腸窒扶私抑壓ニ關スル情況

「ビツツバグ、シンシナチ、ルイスビル、ヲ除キテ一九一〇年ニ於テ人口二萬五千以上ヲ有スル總テノ都市ヲ含ム」

都市名	推定人口	給水		牛乳		腸窒扶私報告		腸窒扶私研究		患者ニ關スル豫防事業ナリ	死者百
		水源及處置	「等級」者百分率	乳場檢査組織	殺菌給乳割合	患者報告割合	死者報告割合	全患者ヲ訪問セシヤ	患者ニ關スル研究		
オハイオ州	五九、一三九	掘井戸	九三	有	六六	五〇	一〇〇	然	否		五五
カントン	一二五、五〇九	全	九三	有	六六	五〇	一〇〇	然	否		一〇九
全	三九、六五五	全	八〇	有	三五	九〇	一〇〇	然	否		三〇
紐育州	三五、七二九	全	九八	有	八五	九五	一〇〇	然	否		三二
シエームスタウン	五〇、八〇四	古河床滲入井戸	九五	有	八五	九〇	一〇〇	然	否		五一
オハイオ州	二〇九、七二二	スシヨット！河機械濾次クロール酸	九五	有	八五	九〇	一〇〇	然	否	一部分	一六三
全	三九、七〇三	留池	九〇	有	三五	九〇	一〇〇	然	否	全	五八
ケンタツキ州	七二、三二五	全	九〇	有	三五	九〇	一〇〇	然	否	全	二一
レキシントン	四〇、三五一	全	八七	有	四五	九五	一〇〇	然	否		九二
インディアナ州	五八、五七六	全	八七	有	四五	九五	一〇〇	然	否		九九
ペンシルバニア州	四六、七四三	全	八六	有	四五	九五	一〇〇	然	否		七七
ニューヤツスル	六四、八〇六	全	八五	有	四〇	五〇	一〇〇	然	否		九〇
マクギーアスポート	三三、三〇〇	全	八三	有	三六	五五	一〇〇	然	否		七四
インディアナ州	四三、五七二	全	九〇	有	四〇	五〇	一〇〇	然	否		六〇
テネシー州	三一、五五四	全	七五	有	一〇	九〇	一〇〇	然	否		五二
オハイオ州	一〇四、四八九	全	八〇	有	三五	九五	一〇〇	然	否		一八九
ヤングスタウン	二六五、五七八	全	八〇	有	三五	九五	一〇〇	然	否		三〇五
インディアナ州	六六、五八五	全	九〇	有	四〇	五〇	一〇〇	然	否		八九
ペンシルバニア州	一一五、九七八	全	八〇	有	一八	七五	一〇〇	然	否		二五五
テネシー州	五六、五二〇	全	七〇	有	一八	七五	一〇〇	然	否	一部分	三七
ケンタツキ州	三一、七二二	全	九一	有	三五	七五	一〇〇	然	否		三九
オハイオ州	二八、九五三	全	七五	有	三五	七五	一〇〇	然	否		三二
ニューアーク	三〇、四〇六	全	九〇	有	三五	七五	一〇〇	然	否		八〇
全	四三、〇九七	全	五〇	有	三五	七五	一〇〇	然	否		一一〇
西バーミア州		全	八〇	有	三五	七五	一〇〇	然	否		
ウイリーング		全	八〇	有	三五	七五	一〇〇	然	否		

注意 總ヘテ平均死亡率ハ腸窒扶私死者全數ヲ其ノ發生シタル年ノ人口總計ヲ以テ割リタルモノ  
 (イ) 一九一三年一四年ノミニ死亡者及其割合  
 (ロ) 検査後新設備

價値ノ數字上ノ表示ナリ、此ハ關係アル有力ノ事實ヲ精密ニ試験シタル後ニ於ケル調査員ノ水質ノ衛生的價値ニ關スル意見ヲ表示スルモノニシテ其ノ價値ヲ決スルニハ其ノ社會ニ現在流行セル腸窒扶私ハ之ヲ思考セス

公共給水ノ使用人員ノ割合並ニ下水ニ連絡ヲ有スルモノ、割合ハ地方記録ニヨリテ可及的正確ニ定メラレタリ

消毒牛乳使用人員ノ割合ハ可及的正確ニ牛乳販賣額ヲ計リ其ノ社會ノ總ヘテノ消毒所ヲ視察シテ加熱殺菌ヲ施行シタル量ヲ確定シテ以テ得タルモノナリ

患者ノ記録ノ蒐集及研究、並ニ病毒豫防ニ關スル報告ハ衛生課ヲ訪問シ視察シテ得タルモノナリ

第一表 オハノオ流行域ノ人口二萬五千以上ヲ有スル都市二十四個ニ於ケル腸窒扶私抑壓ニ關スル情況

「ビツツバード、シンシナチ、ルイスビル、ヲ除キテ一九一〇年ニ於テ人口二萬五千以上ヲ有スル總テノ都市ヲ含ム」

都市名	推定人口	給		水		牛乳		腸窒扶私報告		全患者ヲ訪問セシヤ	患者ニ關スル豫防ノ事業ナリ	亡者	百分率
		水源及處置	「等級」	被供給者百分率	下水連 結人口百分率	乳場檢査組織	殺菌給乳割合	患者報告割合	死者報告割合				
ハイオ州	五九、一三九	掘井戸	九三	九六	八三	有	六六	五〇	一〇〇	然	否	五五	二〇・四
カントン	一一五、五〇九	全	九三	九〇	六七	有	六五	九〇	一〇〇	然	否	一〇九	一八・一
グイトン	三九、六五五	全	九五	八〇	三三	無	八五	九五	一〇〇	然	否	三〇	一六・一
ハミルトン	三五、七二九	全	九八	九七	九五	有	一五	九〇	一〇〇	然	否	三二	一九・二
サエームスタウン	五〇、八〇四	古河床滲入井戸	八五	九五	三八	有	八五	九〇	一〇〇	然	然	五二	二一・〇
ハイオ州	二〇九、七二二	スシヨートー河機橋	九五	九五	九五	有	八五	九〇	一〇〇	然	然	一六三	一六・九
コロンバス	三九、七〇三	留池	九〇	八〇	三三	有	二五	五〇	一〇〇	然	然	五八	三一・三
レキシントン	七二、三二五	全	九〇	七〇	五〇	無	二八	七五	一〇〇	然	否	二一	二六・八
エバンズビル	四〇、三五一	全	八七	七〇	八〇	有	二〇	九〇	一〇〇	然	否	九九	三九・五
シールバニア州	五八、五七六	全	八七	九七	七五	有	四五	五五	一〇〇	然	否	九九	三九・五
ニューヤツスル	四六、七四三	全	八六	九三	五五	有	四〇	九〇	一〇〇	然	否	七七	三四・七
チャタノーガ	四六、八〇六	全	八五	五二	四〇	有	四〇	九〇	一〇〇	然	否	九〇	二九・六
シールバニア州	三八、三〇〇	テネシー河機橋	八三	九五	九〇	有	三六	五五	一〇〇	否	否	七四	三九・八
ノックスビル	四三、五七二	オハイオ河機橋	八〇	九〇	七〇	有	一〇	九〇	一〇〇	然	否	六〇	四一・七
ハンチントン	三一、五五四	バミリキン河機橋	七五	七五	四七	有	七五	九〇	一〇〇	然	然	五二	三五・三
ダンビル	一〇四、四八九	マホニング河機橋	八〇	八〇	七〇	有	一〇	九〇	一〇〇	然	否	一八九	四三・三
ハイオ州	二六五、五七八	州井戸及ホワイト河	九〇	六五	六〇	有	二五	九〇	一〇〇	然	然	三〇五	二四・七
ヤンガスタウン	六六、五八五	後者機橋	六五	九四	五〇	有	四九	九〇	一〇〇	然	然	八九	二九・五
インディアナ州	一一五、九七八	小流ヲ留池次クロー	八〇	六八	六〇	有	一八	七五	一〇〇	然	然	二五五	四五・三
ジョンスタウン	五六、五二〇	酸及鹽素	七〇	九二	五〇	有	六六	六〇	一〇〇	然	否	三七	一三・六
ナツシビル	三一、七二二	静凝固次クロー河沈	七二	九一	五〇	有	七五	七五	一〇〇	然	否	三九	二五・二
ニューボート	二八、九五三	オハイオ河一部凝固	五二	七五	四〇	無	三三	五〇	一〇〇	否	否	三二	二三・八
ハイオ州	三〇、四〇六	次クロー河沈静貯藏	九〇	七五	四〇	無	二五	四〇	一〇〇	然	否	八〇	五五・一
ニューアーク	四三、〇九七	河無處置	一五	九〇	六五	無	五〇	七五	一〇〇	否	否	一一〇	二八・六
マスコケム河次ク		マスキトガム河次ク											
ロイル酸		ロイル酸											
オハイオ河無處置		オハイオ河無處置											
平均	七九・七		八一	六四			五三	七五					
口總數	一、六九九、八一六												

(イ) 總ヘテ平均死亡率ハ腸窒扶私死亡者全數ヲ其ノ發生シタル年ノ人口總計ヲ以テ割りタルモノ  
一九一三年一四年ノモノニ死亡者及其割合  
(ロ) 検査後新設備

給 水

此研究ニ含まレタル二十四都市ノ内五ハ地下水ヲ用ユ、其ノ供給中四ハ堀井戸ニシテ第五ハ古川床ノ滲入井戸ナリ、一ヲ除クノ外總ヘテ水質ノ等級ハ九〇以上、滲入井戸ヨリノ給水等級ハ八五、全體ノ平均等級ハ九三ナリ

十一都市ハ地表流水ヲ供給使用ス、夫等ハ凝固沈澱ノ後濾漉ス、内例外二ハ其後ニ於テ次クロール酸石灰ヲ以テ作用セシム、其給水三ハ等級九〇以上、六ハ八〇乃至九〇、一ハ七五、一ハ五〇ナリ、然レトモ此最後ノ給水即チオハイオ州ヤングスタウンニ於ケルモノハ検査當時改良工事ノ進行中ナリシカ一九一五年ノ始メ方新設備、等級八五ヲ開始セリ、濾漉給水全般ノ平均等級ハ八三ナリ

インデアナボリスハ地下水ト濾漉地表給水トヲ混合シテ使用スルカ故ニ分類ヲ別ニス其ノ等級ハ九〇ナリペンシルバニア州ジョンスタウンハ小流ヲ池ニ蓄ヘテ供給シ貯水スル以外ニ處置ヲ施サス、等級ハ六五ナリ

三都市ハ大河ノ流水ヲ鎮靜セシメテ使用ス、其一ナツシビルニ於テハ鎮靜ヲ授クルニ凝固沈澱ヲ以テス、他ノ二ハ約三十日間ノ貯藏ヲナス、各ノ等級ハ八〇、七二、七〇ニシテ全體ノ平均等級ハ七五ナリ、三都市ハ不淨流水ニ何等處置ヲ施サスシテ使用ス、一ハマスキングム河ノ水源ヨリ、一ハリツキング河ヨリ、他ノ一ハピッツバーグヨリ六十八哩ノ下流地點ニ於テオハイオ河ノ水ヲ引ク、此等給水ノ等級ハ夫々二五、一

五〇ナリ、ピッツバーグヨリ六十八哩ノ下流地點ニ探ルオハイオ河ノ流水ハ處置ヲ爲サスシテハ全然使用ニ適セサルモノト信セラル

サレハ二十四都市ノ内八ハ給水ノ等級九〇以上即チ先ツ最上等ト呼フヘキモノヲ有シ、他ノ八ハ給水等級八〇乃至九〇ニシテ上等ト呼フヘシ、然ルニ殘レル八ハ給水等級八〇以下ニシテ而カモ其ノ三ハ絶對的ニ危険階級ノモノナリ

人口ニヨリテ全體ニ平均シタル給水ノ平均等級ハ七九ナリ

各都市ニ於ケル此等給水ノ使用割合ハ夫々非常ニ差違アリ、即チ十三都市ニ於テハ住民ノ九〇%以上カ共同供水ヲ使用シ三部市ニ於テハ之レヲ爲スモノ八〇乃至九〇%、四ハ七〇乃至八〇%、二ハ六〇乃至七〇%他ノ二ハ五〇乃至六〇%カ共同供水ヲ使用ス

使用割合ノ最下級ハ西バージニア、ウイリーングノ五〇%ニシテ該市ハ又最低等級ノ給水ヲ有スルノ覺東ナキ状態ニアリ

之ヲ全般ニ平均スルニ共同給水ヲ使用スルハ人口ノ八一%ナリ

下水汚物ノ處理

諸都市ニ於ケル下水汚物處理ノ狀況ハ下水渠ト連結ヲ有スル人員ノ割合ヲ以テ示サル、下水清淨設備ハ之ヲ斟酌セス

何トナレハ之レ主トシテ其ノ都市ヨリ遙下流ニ住スル者ノ福利トナルヘキモノナレハナリ、求メラレタル所ノモノハ人糞尿移轉ノ敏速及實効ニシテ右ハ下水渠連結ノ割合ニヨリテ最モヨク表現セラル、ソハ表中ニ見ラル、カ如ク各々非常ナル懸隔アリ、連結割合九〇%以上ノモノハ全數中僅カニ三ニシテオハイオ州コロンバスノ九五%ヲ以テ最高トス、而シテ八〇乃至九〇ノモノ二、七〇乃至八〇ノモノ三、六〇乃至七〇ノモノ四、五〇乃至六〇ノモノ五、四〇乃至五〇ノモノ四、三〇乃至四〇%ノモノ三ナリ  
故ニ下水渠ト連結ヲ有スル全人口ノ平均割合ハ六四%ニシテ殘レル三六%ハ未タ兎ニ角不衛生的ニシテ舊式ノ便所ニ頼ルナリ

牛 乳

五個ヲ除クノ外二十四都市ハ何レモ何等カ乳場検査ノ形式ニ適ヘル局部的殺菌法ヲ有ス、然レトモ殺菌方法ノ完備セルモノ一モ非ス、只其ノ内ニテ最モ完全ニ近キモノハオハイオ州コロンバス、スプリングファイールド、ハミルトンニシテ全給乳ノ八五%ヲ殺菌ス、人口ニ依テ算セル殺菌給乳ノ平均割合ハ五三%ナリ

患者ノ報告研究、豫防

諸都市ニ於ケル腸窒扶私患者ノ報告ハ完全ノ度ニ於テ一〇ヨリ九〇迄ノ相違アリ而シテ全對ノ平均ハ七五%ナリ  
死亡者ノ報告ハ總テノ都市ニ於テ始ント完全ニシテ其ノ例外タル西バージニア州ハンチントンニ於テハ完

備七五%ト推算セラル

五市ヲ除ク他何レノ都市ニ於テモ腸窒扶私患者ノ報告アリタル場合ニハ何者カ衛生課ノ代表者ヲシテ患家ヲ訪問セシム通常其ノ任ニ當ルモノハ衛生巡查又ハ他ノ特別技能ノ訓練ナキ者ナリ

報告サレタル腸窒扶私患者ニ對シ何等カ秩序的ノ研究ヲ爲シタルモノ僅ニ七都市アルノミ、大多數ノ都市ニ於テハ報告書類ハ綴リ込マレタルマ、更ニ顧ラレス、然レトモ七都市ニ於テハ患者累年早見表、並ニ點星附地圖ヲ作リテ腸窒扶私ハ如何ナル小發生モ速ニ注意ヲ惹ク様ナル方法ヲ講ス、患者ノ豫防ハ殆ント全ク民間醫師ノ努力ニ委ネラレ僅カニ五市カ患家ニ印刷引札ノ配布ヲ爲ス等其ノ外豫防ノ監督ニ努ム

故ニ此等都市ノ腸窒扶私根絶ニ對スル事業ノ發展ヲ總括スルニ全市民ニ對スル良水ノ供給ハ平均三分ノ二完成シ、水質八〇%ノ水ノ支給ハ人口ノ八〇%ニ及フ、下水工事ニ於テハ約三分ノ二完成シ、牛乳ノ殺菌ハ半完成シ腸窒扶私ノ研究及豫防ニ關シテハ三分ノ一以內ニ於テ完成セリ

腸窒扶私ノ流行

諸都市間ノ腸窒扶私流行状態ヲ見ルニ五ヶ年内平均死亡率ハ一〇〇、〇〇〇ニ付二八、六ナリ、而シテ登簿地方全體トシテハ一八、七ニシテ分水界ニ於ケル二百都ビツツバーク、シンシナチ、及ルイスヒルニ於テハ平均率同期間内一ヶ年ニ付一〇〇、〇〇〇ニ對スル一六ナリ

此率ハ諸都市間ニ於ケル給水、下水處置、牛乳ノ處置一般腸窒扶私ニ對スル處置ノ狀況如何ヲ語ルモノニ

シテ其ノ率ノ差違ハ非常ニ大ニ最低率ハシンシナチ監督長區ニ地位スルケンタツキ州コビンダトンニシテ最高率ハホイーリング及ゼエーンズビルナリ而シテ此等ハ其ノ都市ニ於ケル公衆給水ノ状態ヲ以テ證明スルコトヲ得

此ノ分外ノ腸窒扶私流行ノ原因タル給水ノ影響ハ此等都市ヲ其ノ給水ノ等級ニ應ジテ各階級ニ區分シ各階級ノ腸窒扶私死亡率ヲ計算シテ明確ニ論證スルコトヲ得、次ニ示セル表ハ各階級ノ成績ヲ表ス、之ニ依ツテ見ルニ最高給水等級(九二・八)ヲ有スル都市間ニ於テハ腸窒扶私最低死亡率(二一・一)ヲ示シ最低給水等級(一一・三)ヲ有スル都市間ハ最高腸窒扶私死亡率(四七・三)ヲ示ス、概シテ腸窒扶私死亡率ハ正ニ給水等級ニ反比例スルナリ、但シ給水等級六〇乃至七〇ノモノハ例外トス、此一團ハ僅ニ三都市ヲ含ミ其ノ一イリノイ州ダンビルハ寧ロ高率ヲ有スレトモ他ノ二ハ率非常ニ低クケンタツキ州コビンダトンノ如キハ給水等級ハ僅カニ七〇ニシテ住民ノ五〇%ノミガ下水渠トノ連結ヲ有スルニ拘ラズ都市間中何レノモノヨリモ低級ナリ

第二表 給水等級其ノ他ノ階級別附平均等級ト腸窒扶私死亡者及死亡率ノ概況

等級別	都市數	各都市間千九一五年人口總數	各都市間給水等級平均	給水使用人員割合	下水裝置連結人員割合	一九一〇—一九一四年腸窒扶私患者總數	一九一〇—一九一四年平均死亡率
九〇—一〇〇	八	八四七三六〇	九二・八	八一・四	六九・三	七九〇	二一・一
八〇—九〇	八	四五九、一三〇	八四・五	七九・五	六二・三	七二七	三六・五

計	二四	一、六九九、八一六	七七七	八一〇	六四〇	二、二五五	二八六
○	三	一〇二、四五六	一一三	六八九	五〇五	二二三	四七三
五〇	二	一七一、〇七四	五六・一	八五四	六二・二	二七八	三七七
七〇	三	一一九、七九六	七七	八七五	四九三	一三八	二二三

(1) 一九一三—一九一四年ノミオンヤアナ、エバンス、ビルチ含ム  
 (2) 一九一三—一九一四年ノミルンシルバニア、ニューカウス、ルチ含ム

コピントン及ニューボートニ於ケル腸窒扶私死亡率ノ低キコトハ此ノ研究ヲ通シテ非常ニ興味アルモノナリキ、兩市ハシンシナチノ彼岸ニ位シ別ニ衛生ノ發展或ハ行政上特ニ著明ナルモノナシ、兩市ノ給水ハ之ヲシンシナチヨリ僅カニ上方地點ニ於テオハイオ河ニ採リ其ノ處置トシテハ唯沈靜シ、三十日間貯藏スルノミニニューボートニテハ其ノ上ニ少量ノ凝固劑及極少量ノ次「クロール」酸石灰ヲ使用ス處置方法並ニ細菌學的水質ヲ精密ニ研究シ生水ノ見地ヨリ論シテ決シテ最高品位ノモノト云フヘカラサレトモ此等ノ事實ニ拘ラス多年間其ノ都市ハ著明ニ腸窒扶私ノ災害ヲ免レタリ、生水中ニ最モ屢々存在スル腸窒扶私病原菌ニ對シテ水ノ沈靜及貯藏カ及ホス影響ハ好良ナルモノ、如ク又給水ノ實際ノ清淨ハ腸窒扶私菌ノ撲滅ニ關シ通常細菌學的及化學的實驗ノ結果カ指示スル方法ヨリモ遙ニ有効ナリ

給水ノ等級ニヨリテ分類シタル都市團ニ於ケル腸窒扶私流行狀況ノ差違ハ誠ニ明確ニシテ異ナリタル都市團ハ各々夫々相當ノ流行ヲ示ス、其ノ差違ハ次ニ掲クル表ニヨリテ見ルヘシ該表ハ各團各月ノ死亡者總數ヲ表シ又月別一〇〇、〇〇〇對平均年死亡率ヲ示スモノナリ

第三表 オハイオ河流域ニ位スル人口二萬五千以上ノ都市貳拾四ニ於ケル腸窒扶私發生ノ期節的分類

(給水等級ニヨリテ分類セル各都市團各月死亡者總數並ニ月別平均年死亡率)

月次	給水等級		死亡年率		死亡年率		死亡年率		死亡年率		死亡年率		死亡年率	
	九〇—一〇〇	八〇—九〇	七〇—八〇	五〇—七〇	〇—五〇	都市全部	死亡年率	死亡年率	死亡年率	死亡年率	死亡年率	死亡年率	死亡年率	死亡年率
一	四〇	四三	二五三	一一	一七九	一七	一五	一八八	一五	一八八	一五	一八八	一五	一八八
二	三七	二八	一六九	三二	五〇四	一三	二〇	一九六	二〇	一九六	二〇	一九六	二〇	一九六
三	四〇	二六	一五七	三三	五二〇	一六	二一	一九三	二一	一九三	二一	一九三	二一	一九三
四	三九	三〇	一八一	一九	三〇九	一七	二二	一九一	二二	一九一	二二	一九一	二二	一九一
五	三三	三五	二二一	二二	三五八	一四	二四	一八〇	二四	一八〇	二四	一八〇	二四	一八〇
六	三九	四七	二八三	九	一四六	一〇	二五	一八六	一〇	一八六	一〇	一八六	一〇	一八六
七	六三	九七	五八四	一四	二二八	七	二六	三一一	一四	三一一	一四	三一一	一四	三一一
八	一三四	一〇二	六二四	二六	四二二	一三	二八	四六二	二六	四六二	二六	四六二	二六	四六二
九	一三三	一一三	五八一	三三	五三〇	一八	三三	五九三	三三	五九三	三三	五九三	三三	五九三
十	九八	一〇〇	六〇二	三四	五五三	一一	三六	五二六	三六	五二六	三六	五二六	三六	五二六
十一	七九	六〇	三六一	二五	四〇六	一〇	三七	四三六	三七	四三六	三七	四三六	三七	四三六
十二	五七	四七	二八三	二三	三七四	二〇	三五	四一七	三五	四一七	三五	四一七	三五	四一七

壹ヶ年總計	(4) 六一	三三	七七	三六五	一三八	三三三	二七八	三七七	四一五	四五三	二〇七九	二八三
-------	--------	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

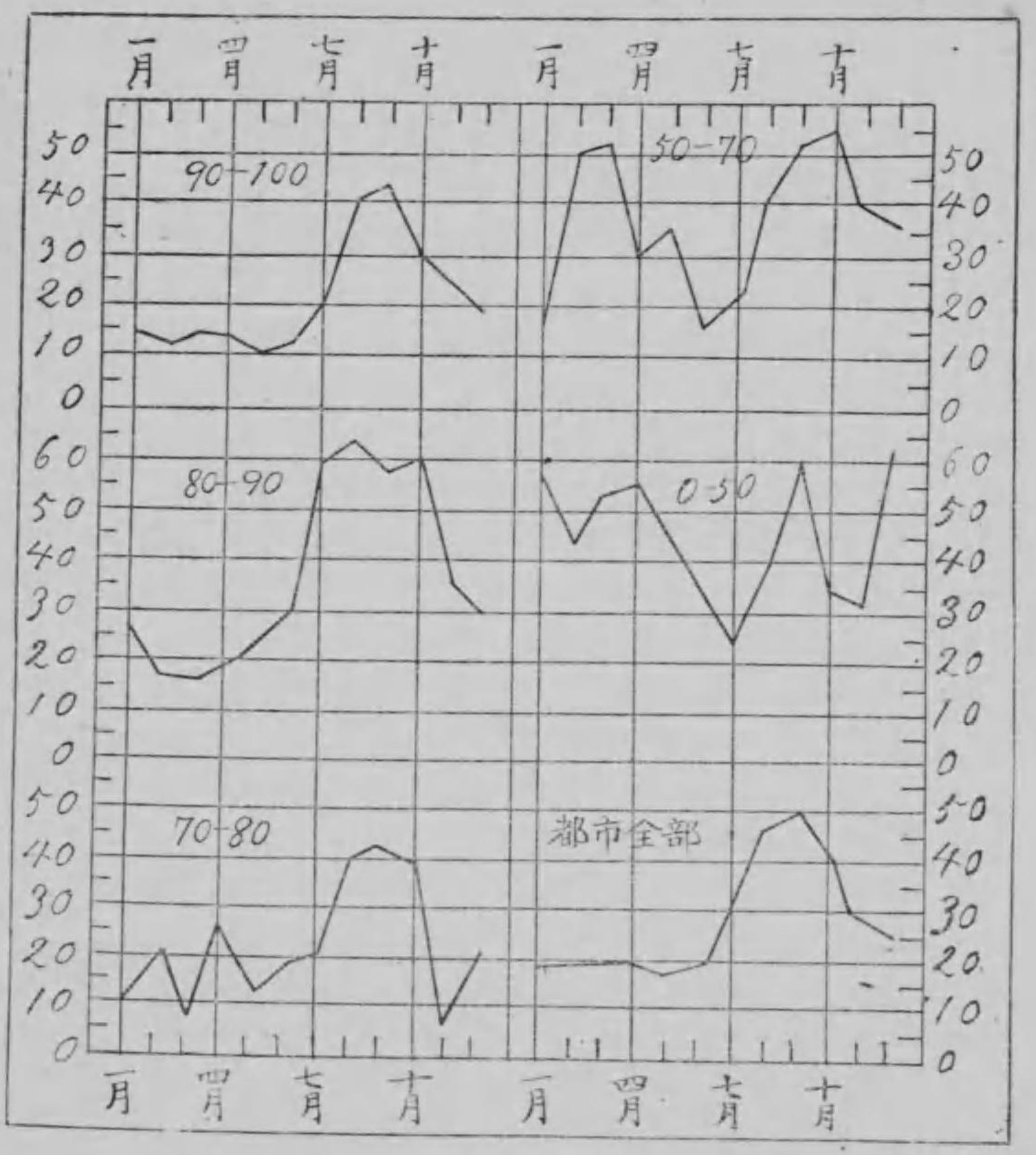
(4) (イ) インドネシア州エバンズビル、ハ一九一三年ノ死亡者ノミチ含ム、一九一四年中死亡九名ハ之ヲ除ク、各月分類不明  
 (ロ) 西バードニア州ホイトリンケ、ハ一九一二年、一九一三年ノ死亡者ノミチ含ミ、一九一〇、一一、一四年中死亡六七名ハ之ヲ除ク、各月分類不明

附屬圖解中ニ見ラル、カ如ク給水等級九〇—一〇〇ノ都市團ニ於ケル曲線ハ冬期月中ハ殆ント水平ニシテ夏期月中特有ノ隆起ヲ畫キ清淨水獨特ノ曲線ヲ示ス

第二ノ給水團其ノ等級八〇—九〇ノモノ、曲線ハ同様一般の形狀ヲ有シ全進行ニ於テ高位ニシテ多少延長セラレタル尖峯ヲ畫ク、此形狀ハ疑モナク其都市團中ニ含まレタル多數ノ南部大都市ノ影響ヲ受ケタルモノナリ、即チ南部諸都市ノ腸窒扶私ハ同等ナル給水狀態下ニ於テ常ニ必ス北部諸都市ヨリモ高率ヲ示シ且又流行ノ波頭モ南部都市ニ比シテ多少早期ニ起ル、此等理由アルカ故ニ此團ハ若シ第一團ノ如ク北部都市ノミヲ包含シタリトシテ豫期セラル、モノヨリモ必然高率ニシテ又曲線モ廣大ナリ

其次ニ來ルヘキ都市團即チコペンゲン及ニユーボートヲ包含スルモノハ既ニ論シタリ、其ノ合計率ハ第一團ノ夫ニ比シテ必スシモ給水ニヨリテ發生セル病者アルヲ示スモノニ非サルカ如キモ曲線ノ一般形狀ハ不規則ニシテ屢々冬期波頭ヲ示ス之レ即チ汚染水ニ起因スル傳染アルヲ證スルモノナリ

給水等級五〇—六〇ノ都市ヲ包含スル一團モ亦前同様冬期波頭及意外ニ高キ流行ヲ示ス、最下級團等級五



○以下ノモノニ在リテハ甚シキ汚水ヲ使用スル都市ニ於テ普通ニ見ルカ如ク一種獨特ノ不規則ナル曲線ヲ示ス

附圖

- 「給水等級」ヲ以テ表サレタル給水々
- 實ニ應シテ分類シタルオハイオ流域
- 二十四都市ニ於ケル腸窒扶私ノ季節的流行狀態
- 人口一〇〇、〇〇〇對腸窒扶私年死亡率



此研究中ニ包含サレタル諸都市ニ於ケル腸窒扶私流行狀況ハ腸窒扶私豫防ニ採用セラレタル方法ヨリ案出セラレタル結論ノ眞ナルコトヲ明確ニ證スルモノナリ、腸窒扶私發生ノ主因タル汚染水、人糞尿ノ不當處理ハ尙未タ非常ニ與ツテ力アルモノニシテ、小原因ハ牛乳ノ殺菌ヲ除クノ外大方面外視セラレ、此都市團ハ大階級亞米利加都市ノ好代表者ナルカ尙未タ最モ明ニ了知セラレ且ツ容易ニ豫防シ得ヘキ原因ニヨル腸窒扶私ノ過度ノ流行ニ煩ハサル、モノト謂ハサルヘカラス

### ○腸「チフス」ト牛乳ノ關係ニ就テ

(合衆國公衆衛生週報(一九一六年十二月一日發行)三十一卷四十八號記載、本文ハ一九一六年六月十日「オハ」イオシシシナチニ於ケル亞米利加牛乳研究會へ前記衛生醫官(軍醫助手)アロスト氏ノ提出ヒシモノ)

ダブリユー、エチ、フロスト、述

牛乳カ腸「チフス」ノ傳播ニ關係ヲ有スル因ヨリ世人ノ知ル所ニシテ之ヲ論シテ病毒汚染ノ徑路或ハ之カ防止ノ方法ヲ云々スルハ馭足ノ感無キニ非サレトモ其詳細ノ點ニ關スル吾人今日ノ智識ハ未タ以テ完シトセス茲ニ不備ヲ論シ併セテ既知ノ諸說ヲ以テシ聊注意ヲ促サントスル所以ナリ

#### 腸「チフス」傳播ト牛乳

牛乳カ腸「チフス」菌ノ汚染ヲ蒙ル一般他ノ飲食料品ト同様ナリ勿論牛乳ハ他ノ食料品ヨリ以上ニ病菌ト接觸スル場合多シト云フニアラス寧ロ日用野菜又ハ飲料水等ニ比シ其機會僅少ナリ、然レトモ牛乳ハ他ノ腸「チフス」菌媒介物ト異リ他ノ媒介物中ニアリテハ普通ニ病菌ノ漸次減少スルニ反シ牛乳ノ中ニハ之カ繁殖ヲ助クル要素ヲ有ス、如斯一度侵入シタル病菌ハ益々激増スルノ危險アルヲ以テ牛乳ノ取扱ハ腸「チフス」豫防方法ト至大ノ關係ヲ有ス、牛乳ノ性質カ斯ク病菌ノ繁殖ニ適スルト又一方冷牛乳カ廣ク用ニ供セラレ、トニヨリ一般他ノ飲食料ニ對スルヨリモ一層消毒ヲ嚴ニシ取扱ニ注意ヲ拂フ可キハ論ヲマタサルナリ腸「チフス」傳播ニ對スル牛乳ノ影響ハ次ノ如キ簡單ナル主因ニヨリテ定ムル事ヲ得ヘシ

## 一、牛乳ノ接觸シタル病原

二、是等病原ヨリ病毒ノ侵入スル機會又ハ之ニ反シ其侵入ヲ防止スル處置方法

三、一度汚染シタル牛乳ノ病毒傳播ヲ助クル場合

## 病源

一般ニ牛乳カ腸「チフス」菌ニ汚染スル割合ハ其接觸スル排泄物ト其排泄物中ニ含有スル病菌ノ程度ニ比例シ他ニ異ナル所ナケレハ汚染ノ機會ハ其牛乳ト危險接觸ヲ爲ス人員ノ數ニ準ス、危險接觸トハ唯單ニ牛乳ヲ直接取扱フ者ノミナラス其排泄物カ牛乳ト接觸スル機會ヲ有スル他ノ人々ノ場合ヲモ考フ可キナリ、牛乳ト接觸スル人員中ニ腸「チフス」感染者ノ存スル疑ハ今日迄彼等ノ間ニ流行シタル腸「チフス」ノ状態ニヨルハ勿論ナリ、是等ノ事實ハ既ニ一般ニ認めラル、所ニシテ牛乳取扱人員ヲ減シ又特ニ取扱人中該病ノ疑アル者アル時ハ迅速ニ通報セシムル事ニ努メツ、アリ、然レトモ如斯方法ニテハ完全ナル豫防ハ望ミ得ヘカラズ、如何トナラハ兎ニ角或ル程度迄ノ人員カ牛乳ニ接セサル可ラサルハ明白ナル事實ニシテ又如何ニ病毒ノ疑アル者ノ報道ヲ速カニシ或ハ之カ隔離ヲ嚴ニスルトモ尙慢性保菌者又ハ初期或ハ潜伏的「チフス」患者ヨリ來ル危險ハ免ル可カラサルナリ

## 取扱上ノ警戒

傳染病々源ニ接觸スル牛乳ヲシテ汚染セシメサラントスルハ一ニ牛乳取扱人ノ警戒如何ニヨル其意ヲ用フ

可キ必要ノ點ハ取扱人カ身體ヲ清潔ニスルコト、如何ナル塵芥モ之ヲシテ侵入セシメサルコト、蓋ヲ設ケテ蠅ヲ防キ容器ヲ清淨ニシテ洗水又ハ得意先ヨリ來レル殘物中ノ病毒ノ侵入ヲ防ク等ノコトナリ、之ヲ要スルニ病毒汚染ヲ防止スルヲ以テ乳場ノ一大急務トス、サレトモ是等豫防ハ完全ニスル事甚ク難ク最上ノ警戒ヲ以テスルモ尙往々悲惨ナル傳播ヲ惹起スル事アリ

## 汚染牛乳

次ニ考フヘキハ災害ノ範圍ニシテ即チ牛乳カ病毒ニ汚染シタル結果其發生ヲ來シタリト推定セラレ、腸「チフス」患者ノ數ヲ調査スル事ナリ、此點ニ關連シテ注意ヲ要スルハ腸「チフス」菌ノ繁殖ヲ助クル機會ニシテ是等ハ配達前ニ經過シタル時間ノ長短、保タレタル温度ノ高低、取扱上ノ注意如何ニヨル、牛乳中ニ一度侵入シタル病菌ハ其繁殖甚大ナルヲ以テ諸方ヨリ蒐集シタルモノヲ混合シテ配達スルハ最モ危險ナリ、蓋シ少量ノ病毒モ以テ大量ノ牛乳ヲ汚染セシムルノ虞アレハナリ、單一ノ乳場ヨリ來レル數瓦ノ牛乳ヲ直接配達スル時ハ病菌有リタリトスルモ少數ノ感染者ヲ出スニ止ルヘケレト若シ之ヲ混合シテ配達スル時ハ數百ノ消費者間ニ病毒ヲ傳播スルコト、成ルヘシ、故ニ同様ノ注意ノ下ニ取扱ハレタル場合直接配達ヲ爲シタル少量ノ牛乳ハ大々的ニ蒐集シ混合シテ配達セラレタルモノニ比シ割合ニ安全ナリ、努メテ牛乳ノ汚染ニ起因スル患者ノ發見ヲ迅速ニシ之ガ慢延ヲ防止スルノ策ヲ講シ牛乳消費者間ニ於ケル腸「チフス」ノ豫防治療ヲ謀ルトキハ漸次其災害ヲ減退セシムルヲ得ヘシ、サレトモ患者ノ發見ヲ速カニセント欲スルモ牛乳ヨ

リ來レルモノハ感染後少クモ十日ヲ經過セサレハ鑑別シ得ヘカラス必然遲延スルヲ免カルヘカラス、牛乳カ偶々病菌ヲ保有シ爲メニ災害ヲ惹起スルノ虞アルニ對シ最後ノ手段トシテ最モ効果アルモノハ配達前ニ充分殺菌消毒ヲ行ヒ其後ニ於ケル病毒ノ侵入ヲ警戒防禦スル之ナリ、腸「チフス」ニ限ラス一般傳染病豫防方法ヨリ論スレハ蒸氣殺菌ハ如何ナル他ノ豫防方法ニモ附隨シテ必ス之ヲ施行ス可キモノナリ、蓋シ如何ニ完全ナル方法ト雖モ常ニ多少不備ノ點無キヲ保セス、即チ第一防備線ノ隙ニ乘シテ病毒カ侵入スル事アルヘケレハ其際最後ノ手段トシテ是等病毒ヲ殺塵スル蒸氣消毒ヲ以テ唯一ノ方法トス

#### 一般腸「チフス」ト牛乳ヨリ發生スル腸「チフス」

既ニ述ヘタルカ如キハ普ク世人ノ認ムル所ニシテ實際牛乳取扱上一般ニ適用セラレツ、アリ、而シテ是等殺菌消毒或ハ其他ノ豫防處置ノ効果ニヨリ遂ニ牛乳ヨリ發生スル腸「チフス」ヲ絶滅セシメ得ヘキコトモ亦一般ニ知ラレタリ、然レトモ今日各都市ニ於テ見ル如ク豫防方法採用セラル、モ尙牛乳カ腸「チフス」ノ發生ニ影響ヲ與ヘツ、アルヤ未タ了解スル所乏シ、或ハ云フカ、ル影響ノ程度ハ結局之ヲ精確ニ測定スルノ要アリヤト、サレト實際其知識ノ必要ナル所以ハ喋々論スル迄モナク明白ナル事實ナリ、牛乳取扱管理上最良ノ教示ハ有効ナル豫防處置ニ依リテ防止セラレタル患者ノ研究ト合セテ不備ナル點ヲ調査研究シタル論說ナリ、正確ナル實驗ノ上ニ建テタル理論的ノ陳述ト熱狂的信念ニヨル急激ノ論トハ一般公衆モ分別ニ難カラサルヘシ

完全ナル牛乳ノ取扱及處置ハ單ニ牛乳ヨリ發生スル腸「チフス」ヲ抑壓スルニ止ラサレトモ腸「チフス」ノ防止ハ最モ手近ニ測定スヘキ問題ナレハ其確定的ノ知識ヲ得ル爲メニ充分周到ノ注意ヲ以テ之カ調査研究ヲ爲ス甚タ肝要ノ事ナリ

#### 流行的發生

腸「チフス」傳播ニ及ホス牛乳ノ影響ハ最大ナル應々著シキ患者發生カ其原因ヲ探ルトキ明ニ牛乳ヨリ來レルヲ發見スルナリ、サレハ牛乳ヨリ發生シタル該傳染病ノ學術的研究ヲ爲スモ亦必要ノ問題ナリ、單一ノ牛乳カ病毒ニ汚染シタル爲メ可驚腸「チフス」患者ノ發生ヲ來スコトアルハ一般ニ認メラレタル明瞭ナル事實ナリ、然レトモ間々疑ヲ挾ムモノハ單一牛乳ノ消費者間ニハ不相當ニ多數ノ患者發生ヲ見ルニヨル、之カ審査ヲ爲スニハ一方總テ腸「チフス」患者ノ發生報告ヲ迅速ニセシメ各患者ノ牛乳ノ使用法及供給ノ源ヲ充分研究シ又他方ニ於テ各販賣者ノ販賣シタル量ヲ調査スルコトヲ必要トス、何レノ衛生局ニ於テモ如斯シテ牛乳ヨリ發生シタル該傳染病ヲ調査シ疑ハシキ供給ヲ速ニ検査シ供給者ノ責ヲ明ニスルハ主要ナル簿記ノ問題ナリ、問題ハ容易ナリ市中數多牛乳ノ供給ヲ致ス者ノ内其一カ起因タル傳染病ノ發生ヲ速ニ探知シ之カ検査ヲ爲ササルハ該地衛生局員ノ怠慢或ハ無能トノ非難ヲ受クルモ已ムヲ得サルナリ

サレハ淺薄ナル疫學上ノ識見ニ被ハレ尤モラシキ說トシ他ノ原因ニヨルモノニ比シ牛乳ヨリ發生シタリト認メラル、モノモ多カルヘク近年文明諸國ノ有ラユル場所ニ於テ此種ノ報道論說ニ充滿ス以前「トラスク」

ハ此種腸「チフス」ノ報道一七九ヲ集メ得タリ、今日ニアリテハ是等論說中ノ報道ヲ合スレハ其數非常ニ増加スヘシ、斯ク普通ニ牛乳ヨリ發生シタル腸「チフス」ノ報道繁多ナリト雖モ之ヲ多數ノ人口ト長期間ニ涉リテ牛乳ト腸「チフス」ノ關係ヲ精密ニ調査研究セラレタルモノハ極メテ少數ナリ、此稿ヲ起スニ當リ此問題ニ關シ廣ク調査シテ正確ナル統計ヲ作成スルノ好機ヲ得サリシカ次ニ載クル散漫ナル記述ニヨリ牛乳カ合衆國各都市ニ於テ腸「チフス」發生ニ如何ナル影響ヲ與ヘツ、アルヤヲ伺ヒ知ルヲ得ヘシ

流水汚染ノ研究ヲ爲スト同時ニ余カ監督ノ下ニオハイオ流域ニ位スル人口一萬以上ノ都市ニ於ケル衛生狀態ヲ調査シ殊ニ腸「チフス」ノ原因及夫レカ流行ニ關シテハ特別ノ注意ヲナセリ

之等諸都市ニ於テ蒐集シタル各種論材ノ内ニ最近患者發生數、流行範圍、發生ノ原因等ニ關スルモノアリ、我等ノ記録スル所ハヒツチスバーク、シンシナチ、ルイスヰイルヲ除ク他ノオハイオ流域ノ人口二萬五千以上ノ都市二十五ニ於テ一九〇一年ヨリ一九一四年迄ノ間ニ檢シタル平均總數百六十萬人ニ關スルモノナリ、是等都市ニ於ケル牛乳ノ取扱方法及其他ノ處置ハ一樣ナラサレトモ米土内地ノ大中都市ニ於ケル一般ノ狀況ヲ察スルニ足ルヘシ、一調査報告ニ依レハ是等都市ノ内二十ニ於テ販賣スル牛乳ノ五十%ハ殺菌消毒ヲ行ヒ其四十%ハ「ホールディング」式ニヨリ十%ハ所謂「フラッシュ」法ニヨレリ、一九一五年中吾調査ノ施行サレタル時二十五市ノ内十市ハ殆ント腸「チフス」ノ秩序的ノ研究ナリ從ツテ牛乳ヨリ發生シタルモノモ特別顯著ナルモノ他ハ大方看過セラレタリ、其他ノ都市ニ於テハ腸「チフス」ノ研究報告共ニ多少ノ異同アレトモ兎ニ角該病ニ對スル態度稍々意ニ適フモノアリ

一九一〇年ヨリ一九一四年ニ至ル五ヶ年間七市ヲ通シテ原因牛乳ニアリト確定サレタル腸「チフス」患者數ハ四四六ニシテ其間右二十五市ニ於ケル腸「チフス」患者總數ハ八、二六〇ナリ故ニ牛乳ヨリ發生シタルモノハ總數ニ對シテ大凡五・四%ノ比ヲナス、サレトモ是等都市ノ患者報告ハ甚タ不備ニシテ死者ノ數ヨリ判スルニ此期間ニ於テ實際發生シタル腸「チフス」患者數ハ其報告ヨリ遙ニ超過シ略々二四、〇〇〇ニ達スヘクサスレハ牛乳ヨリ發生シタルモノハ患者總數ニ對シテ二%ナリ、然レトモ前述ノ如ク或ル都市ニ在リテハ研究不充分ナリシ爲メ從ツテ牛乳ヨリ發生シタルモノモ認メラレサル場合アルヘケレハ右ノ概算ニヨル比例ハ餘リニ小ニ過キタルヘシ

人口少ク且ツ調査ノ範圍充分擴大ナラサリシカ如キモ一九〇六年ヨリ一九〇九年ニ至ル四年間コロンビア洲ニ於テ腸「チフス」流行ト其原因ニ對シ精密ニナサレタル衛生局ノ研究ノ結果ハ一層信ヲ置クニ足ルモノアリ、其最後ノ報告ニ依レハ牛乳カ原因タルコトノ明白ナル腸「チフス」發生ハ四年ヲ通シ各一回以上アリテ一九〇六年一九〇七年一九〇八年中ノ患者數ハ右期間中コロンビア州ニテ毎年夏季(五月一日——十一月一日)ニ調査ニ罹ル腸「チフス」患者發生數ニ對シテ十%ノ比ヲナス、一九〇九年中ハ牛乳ニ起因スル該病流行一回ニシテ患者ハ十三名ナリ而シテ之カ同年中ノ患者總數ニ對スル比ハ二・三%ナリ

又ヱアージニア州リツチモンドニテハ一九〇七年六月ヨリ嚴密ニ腸「チフス」ノ研究ヲナシタルカ市衛生官レヱイー博士ノ言ニ依レハ七年半ニ涉リ總計二、三〇〇ノ患者ヲ檢査シタレトモ遂ニ牛乳ヨリ來レリト思

フモノヲ認メズ而シテ若シ發生アリタリトスレハ之ヲ認メ得サルカ如キコト無カルヘシト、尙此關係ニ就キ前ヅアージア州衛生會副長アレクサンダー、ダブリュー、フリーマン氏ハ語ツテ曰ク六年間腸「チフス」ノ發生報告アル毎ニ自ラ臨ンテ其研究ニ干與シタルカヅアージア市ニ於テ牛乳ヨリ發生シタルモノ前後二回ニシテ患者一〇〇ヲ出セリ、同期間中腸「チフス」患者總數ハ一二、〇〇〇ナリ故ニ牛乳ヨリ發生シタルモノハ僅カニ其八%ナリ

當時地方ニ於ケル該病發生ハ直チニ之ヲ州衛生會ニ報シ充分ニ研究サレタルヲ以テ夫レ等ノ内ニモ亦牛乳ヨリ發生シタルモノ多カリシナラン、ワシントン、リッチモンド、ヅアージア市ヲ合スルモ尙調査ノ範圍狹少ニ過キオハイオ流域ニ於テハ檢スル所多大ノ人數ニ及ブト雖モ其方法一定ヲ缺キ且完全ナラス、從ツテ上ニ記スル所ハ唯以テ參考トナスノミ決シテ牛乳ヨリ發生スルモノカ一般腸「チフス」ニ對スル影響ノ度ヲ正確ニ推定スルニハ足ラサルナリ

#### 土着的腸「チフス」

既ニ論シタルハ僅カニ牛乳カ腸「チフス」發生ニ對スル關係ノ一端ニ過キス決シテ全般ヲ確定スルニ足ラス亦尤モ斯クセン事甚タ困難ナリ、勿論病源汚染ノ牛乳カ顯著ナル流行ヲ惹起スルノ他續發其他人ノ注意ヲ引クモノナカリシ爲其原因ヲ探知スルニ至ラザリシ程度ニ於テ患者發生ノ原因ヲナシタルモノ多カルヘシ、所謂顯著ナル流行トハ如何ナルモノヲ謂フヤ定義スルコト不可能ナレトモ疑アル牛乳ノ供給範圍、其

地ニ於ケル腸「チフス」平常流行程度、發生患者數ト流行範圍及期間、其他附屬的ノ證據ヲ合セ思考シテ定ムルヲ得ヘシ、大都市ニ於テハ單一牛乳カ數千ノ消費者ニ分配セラレテ旅館、飲食店、製藥場ノ如ク卸賣ヲ以テ大々的供給ヲ仰ク所ニアリテハ流行病ト認メラレサルモ牛乳ニ起因シテ患者ノ點々發生シタルモノ非常ニ多數ナルヘシ、如斯散在或ハ特發シタル患者ノ總計ト牛乳ヨリ發生シタルコトノ顯著確定セルモノトノ關係ハ長キ歲月ノ研究ニヨリ明ニスルヲ得ルナリサレト此種ノ報告誠ニ少ク未タ以テ之ヲ推定シ難シ

右ニ關シヘル氏ノ引用セラレタル例證ハ最モ興味アルモノナリ、氏ハ人口七八百ヲ有スルミネソタ村ニ於テ腸「チフス」患者十名ヲ檢査スル機會ニ遭遇シタルカ右十名ノミナラス夫レヨリ前五年ノ間ニ發生シタル患者ハ總ベテ單一販賣所ヨリ牛乳ノ供給ヲ受ケタル事實ヲ發見セリ此證據ニヨリ氏ハ遂ニ該土ニ於ケル前五年間ノ患者發生ハ確ニ單一牛乳ノ病源汚染ニ因スルモノナリト斷定セリ、汚染ノ原因ハ牛乳場内ニ在リテ腸「チフス」菌保有者カ執務セシニアリ而モ其ノ牛乳トノ接觸ハ單ニ空罐ノ洗淨ヲナスニ過キサリシトカ、偶々ヒル博士ノ檢査ヲ受ケタル患者十名ノ發生ニ先チ五年ノ間ニカ、ル少數ノ散在シタル住民ノ間ニ可成不同ノ間隔ヲ置キテ汚染牛乳ヨリ感染發病シタルモノ十一名ナリ、此異常ナル例ニ見ルニ一般ノ場合ヲ定ムルニ足ラスト雖モ、病源汚染ノ牛乳カ顯著ナル流行ヲ惹起スル以前ニ於テ長キ歲月ノ間數多ノ散在セル人々ノ間ニ災害ノ因ヲ爲シツ、アルハ明白ナリ、而シテ夫レ等患者ノ總數ハ最後ニ來ル顯著ナル流

行ノ内ニ發生スル患者數ヨリ遙ニ大ナルヲ思ヘハ注意セサルヘカラサルナリ  
 他ノ腸「チフス」ノ主ナル原因ハ汚水及排泄物ノ不當處置即其結果排泄物ヲ蠅其他病毒媒介者ニ接觸セシム  
 ル事、是等カ土着的腸「チフス」ニ如何ナル影響ヲナシツ、アルヤニ關シ吾人ノ智識ハ牛乳ニ關スル夫レヨ  
 リモ不充分ナル事ナリ、是等ノ主因ハ其影響非常ニ大ニシテ此狀態ノ急激ナル變化ニヨリテ從來受ケタル  
 影響ノ範圍ヲ知リタル事多シ

全市中ニ於テ使用サレタル汚水ヲ他ノ源泉或ハ清淨方法ヲ用ヒテ斷然清水ニ變セラレタルモノ今日迄記録  
 ノ上ニ其數多シ、而シテ此給水ノ根本的改良ノ結果カ腸「チフス」ノ流行ヲ減退セシメタル誠ニ顯著ニ誠ニ  
 急激ニ誠ニ確實ニシテ腸「チフス」流行ノ減退ハ一ニ給水改良ノ結果ナリト云フヲ得ヘキモノアリ、此減  
 退ニヨリテ見ルニ給水改良以前汚水カ該病流行ニ及ホシタル影響ノ度ヲ正確ナラスト雖モ尙大體ニ伺ヒ知  
 ルヲ得、給水改良後ノ狀況ヨリ判スルニ其以前數多ノ都市ニ於テ腸「チフス」總數ニ及ホス汚水使用ノ影  
 響ハ非常ニ大ニシテ或ル者ハ八〇%以上ニ上レリ、又近年ニ至リ類似ノ證據少數ヲ見タリソハ排泄物ノ處  
 置及便所不完全ニシテ蠅其他病毒媒介者カ汚物ニ接觸シ爲メニ一般食料品ノ汚染ヲ來シ疾病ノ原因トナル  
 事ナリ、其證據ノ最モ顯著ナルニハリツチモンド市ヴアトジニア州ジャクソンビル市フロリダ州ノ兩市ニ  
 於テ爲サレタルモノニシテ地方衛生局ハ便所ノ廢止及便所ニ關スル規則ヲ制定シ其實行ニ力ヲ盡シタル結  
 果腸「チフス」流行ノ大減少ヲ來セリ、其狀況ヲ深ク研究スルニ是等腸「チフス」流行ノ減退ハ確ニ便所

ノ廢止ト便所ノ完備トノ結果ニシテ尙右實施以前ニ於ケル該影響ノ大ナリシヲ知ル、是等二ツノ主因カ腸  
 「チフス」流行ニ大ナル影響ヲ與フル事ハ其根本的ノ變化ヨリ大體ヲ測リ知ルヲ得タリ、既ニ如斯諸種ノ關  
 係ハ研究ニヨリテ明ニナレリサレハ之ヲ他ノ地方ニ於テモ類似ノ場合ニ適用スル事ヲ得ヘシ、給水ノ改良  
 及下水汚物ノ處置ノ完全ヲ急激ニ且ツ根本的ニ爲シタル結果ハ幸ニ顯著ナル變動ヲ來シ大ニ腸「チフス」ノ  
 流行ヲ減退シ、吾等其關係ニ就テノ智識ヲ豐富ニシタレトモ未ダ市中ニ供給サル、牛乳ノ影響ニ對スル觀  
 念ハ甚タ不確定ナリ、蓋シ牛乳取扱改良ノ効果ハ現出誠ニ漸次ニシテ給水改良ニ伴フ變化ハ全市一日ヲ爭  
 フハカリ明カナルニ反シ牛乳ハ然ラス、且ツ他ノ種々ナル關係ト混雜シテ單獨ニ牛乳改良ノ効果ヲ檢出ス  
 ルコト難シ

廣ク一般根本的ノ改良ハ取扱人、配達人ノ教育、各乳場ノ機械設備ノ改善ヲ俟テ遲々ニ成功セララルヘキナ  
 リ、短期間内ニ根本的改良ヲナシシ効果アラシメントスルニハ生牛乳ノ販賣ヲ禁シ一般殺菌消毒ヲ履行セシ  
 ムルヲ要ス

近時「オハイオ」州「シンシナチ」市ニ於テ之ヲナシ一九一四年七月一日法令ヲ發布シ「證明」"Certified"又ハ  
 「監督」"inspected"トシテ賣ラル、少量ノモノヲ除ク外市内ニ販賣サル、牛乳ハ全部殺菌消毒ヲナスヘキコ  
 ト、セリ、而シテ市衛生官ランヂス博士ニヨレハ一九一五年一月一日以後ハ一般ニ之カ行ハル、ニ至レリ  
 ト云フ尙諸市ニ於テモ牛乳ノ改良及腸「チフス」流行ニ就キ實地深ク研究ヲ積ミ以テ其關係ヲ明カニサレン

コトヲ望ム

牛乳カ腸「チフス」ノ原因トナルコト水ノ場合ニ於ケルカ如ク明瞭ニ知ラレサル他ノ理由ハ牛乳ノ影響スル所ノ範圍比較的狭少ナルニヨル、何レノ市ニアリテモ土着の腸「チフス」ニ就テ長時間深ク傳染病學的研究ヲナストキハ該病流行ノ種々ナル原因ノ個々ノ關係ヲ發見スルコトヲ得ヘシ、サレト是等ノ決定ハ全ク附隨の間接ナル不正確ノ證據ヲ基礎トセサルヘカラス從ツテ多數該病ノ主因ノ中一ヲ抽テ明確ナル判斷ヲ下ス事難ク唯大小輕重ノ割合ヲ定ムルニ止リ其影響ナルモノニ就テ比較的正確ナル測定ヲナスヲ得ルノミ、汚水ヲ清水ニ交ヘ便所ヲ改良シタル等カ該病流行ヲ減シタル程度ヲ比較的正確ニ研究調査シ得タルカ如シ、又牛乳ノ改良ニヨリテ尙一層該病流行ヲ減退セシメ得ヘキモ其範圍ハ確實ニ測リ知ルヘカラサルナリ牛乳カ腸「チフス」流行ニ及ホス影響ノ大小ハ地方ニヨリテ異ナルハ勿論ナリ、一般ニ他ノ點ニ於テ相違ナク他ニ主因トシテ有力ナル條件具備セル所ニアリテモ尙牛乳ハ重大ナル主因ヲナス、大都市ニ於テハ給水ノ處置ノ如ク一般殺菌消毒ヲナスニ非サレハ牛乳取扱ノ効ヲ收ムル事難シ、給水其他腸「チフス」ノ主因ヲナスモノ、處置カ講セラレ而シテ一般「チフス」豫防方法ノ不備ナル市ニ比シ實際ノ發生ハ少ナキ所ニアリテモ汚染牛乳カ原因ヲシタル腸「チフス」ノ發生ハ比較的大ナリ

上述ノ論ヲ再ヒ茲ニ概括センニ牛乳カ腸「チフス」菌媒介物トシテ危險多キ事ハ普通一般ニ了解セラレ、實施上多少不適當ノ場合ナキニシモアラサレト其知識ノ上ニ立ツ豫防處置モ亦整ヘリト云フ可シ、然レトモ

未タ處置不完全ナル牛乳カ腸「チフス」ノ流行ニ及ホス影響ヲ正確ニ知ラサルカ故ニ各都市ニ現在行ハル、豫防處置ノ効果或ハ之カ爲メニ減退シタル該病發生ニ就キ確タル觀念ヲ得ル能ハス、此點ニ關スル知識ノ必要ナル單ニ學術上ノ興味ニ止ラサルナリ、之誠ニ重大ノ點ニシテ之ニヨリテ各種腸チフス豫防方法ノ比較的價值ヲ充分ニ知ラシムルハ勿論其確實ナル證據ニ基キ一般牛乳取扱上一層効果アルモノヲ得ルナリ

## 今後ノ研究

肝要缺クヘカラサル所ニ吾人ノ知識乏キヲ思ヒ團結シテ秩序的ノ努力ヲ爲サル、事ノ尠キヲ思ヘハ驚クノ他ナシ、此問題ノ徹底的研究ノ結果ハ實ニ貴重ノモノアルヘシ

腸「チフス」全般ニ對スル牛乳ヨリ發生セルモノ、割合ヲ一層正確ニ知ラント欲セハ數多ノ都市ニ於テ長年月ノ間精密ニ腸「チフス」ノ研究ヲナシタルモノヲ集メテ統計ノ編纂ヲナスヘシ、其統計ヲシテ價值アルモノヲラシメンニハ多數ノ都市ニ於テ長年月間調査研究サレタルモノナルコトハ第一要件ニシテ、是等蒐集サレタル論材ヲ各地方ニ於ケル處置ノ性質及効果ニ從ツテ細分類サレタルモノナルコトヲ要ス、腸「チフス」ノ流行ニ及ホス牛乳ノ影響ヲ研究スルニハ我數箇ノ大都市ニ於ケルカ如ク他ノ該病ノ主因カ殆ント極度迄減退セラレタル都市カ其最モ望マシキ好機會ヲ有ス、腸「チフス」ノ流行ト其原因ニ就テハ「コロンビア」州ワシントン州ニ於テ爲サレタル如ク何レノ都市ニ於テモ牛乳ノ關係ニ對スル特別ノ調査ト共ニ其研究ヲ深クスヘク而シテ其研究ノ結果ハ今日見ルヨリモ尙一層廣ク一般ニ採用セラル、様ナスヘキナリ

最後ニ何レヨリモ勝レル牛乳ノ影響ヲ計ル好機會ハ法令或ハ規則ヲ制定シテ一般殺菌消毒ヲ爲サシメ牛乳取扱上急激ノ變化ヲ來シタル都市ニアリ、市内牛乳ノ安全ノ爲メ殺菌消毒ヲ可トスル意向次第ニ盛トナレルヲ以テ近ク數年ノ後ニハ數多ノ都市ニ於テ之カ必要ヲ是認スルニ至ルハ確信ヲ以テ期待シ得ルナリ、而シテ其活動ノ開始セラル、ヤ其主要ノ目的ハ一般公衆ノ健康ヲ保護セラル、コトニテ又少クトモ其變化ニ伴ヒ必要知識ヲ得ルノ好期ヲ與ヘラルヘケレハ之ヲ看過スヘキニ非ス、一般殺菌消毒カ如何程迄腸「チフス」減退ニ効果アルヤヲ正確ニ測定セントスルニハ勿論其調査ノ基礎タル殺菌消毒ハ實施上有効ニシテ牛乳ヨリ發生スル腸「チフス」ヲ絶滅セシメ得ルカ如キモノナラサルヘカラス、効力疑ハシキ殺菌消毒ヲ以テ定メタル決論ハ無益ト云ハンヨリモ寧ロ世ヲ害フモノナリ、研究上利益アラシメント欲スレハ無消毒ヲ變シテ殺菌消毒ノ勵行ヲナスニハ之ヲ短期日間ニナスヘキナリ、而シテ終始之ニ伴ヒテ其地方土着の腸「チフス」ノ學術的研究ヲ繼續スルヲ要ス

### ○發疹室扶私菌ニ依ル豫防的免疫ニ就テ

(熱帯醫學衛生雜誌(一九一七年一月十五日)第二十卷第二號ヨリ)

前 Pp. H. Plotz, P. K. Orlitsky, and G. Baehr.

此作業ハ去ル一九一五年六月亞米利加赤十字社ノ保護ノ下ニセルビヤニ派遣セラレタル紐育マウント、シナイ病院遠征隊ニ依リ行ワレタルモノニシテ、セルビヤノブルガリヤニ占領セラレタル後ニ於テハブルカリヤ陸軍當局ノ要求ノ下ニ、繼續セラレタリ

尙ホ一九一六年一月ニ於テ、既ニ其ノ當時流行ヲ見ツ、アリタル露西亞ボルハイニアニ於テモ埃太利政府ノ要求ノ下ニ同様ノ作業開始セラレタリ

其ノ「ワクチン」ハ發疹室扶私菌十五株ヲ生理的食鹽水ニ浮遊セシメ、攝氏五十八度乃至六十度(華氏百四十度乃至百三十六度)ニ三十分乃至一時間處置シ、其ノ消毒ニ關シ嫌氣性、好氣性細菌險査ヲ遂ケタル後、〇、五%ノ石炭酸水又ハ「トリクレゾール」ヲ加エタルモノナリ、而シテ其ノ一立方仙迷中ニハ約二十億ノ細菌ヲ含有シ、五日又ハ六日ノ間隔ヲ以テ、〇、五% emulcem ノ三回注射ノ方法ニテ之ヲ接種ス、バルカンニ於ケル發疹チフスハ一九一六年一月下旬ニ初リ、同年五月中旬ニ至ルマテ發生セシモ、其ノ極點ハ二月下旬ナリキ、吾人ノ統計ニ依レハブルガリヤ衛戍病院ニ收容セラレタル患者ノミニテモ約三千人



ニ達シ、其ノ他全國ニ涉リ民衆ノ幾千、之ニ罹患セシヤ明ニアラス、而シテ死亡率ハ十一%ヲ示セリ  
而シテ豫防注射施行ノ範圍ハ「ソクチン」供給ノ關係上、最モ危險ニ類セルモノニノミ之ヲ行ヒタリ即チ  
一、患者入院ノ際即チ虱ノ之ニ附着シ居ル際、其ノ患者ニ接近スル病院職員、使丁  
一、入院ノ際患者ノ毛髮ヲ剃リ、又ハ其ノ入浴、脱衣等ニ從事スルモノ  
一、本病流行地方ニ於ケル衛生關係當事者

其ノ他一般病院ノ多數、及本病ノ發生セル又ハ發生ノ虞アル軍隊ノ少數

ブルカリヤ及ヒブルカリヤノ占領セシ後ノセルビヤニ於テハ六十三個ノブルカリヤ衛戍病院並ニ陸軍衛生  
隊ニ對シテ接種ヲ施行シ其ノ五千二百五十一人ニ之ヲ行ヒタリ、内六〇%一九一五年十一月十二月、残り  
ハ一九一六年一月、二月、三月ニ涉リ之ヲ施行シタルナリ

ブルカリヤ衛戍病院、並ニ衛生隊ニ於テ接種セシ人員五千二百二十一人中、其ノ多數ハ屢々感染ノ危險ニ  
臨ミタリシモ之ニ感染セシハ僅カニ三人ニ過キス、ブルカリヤ陸軍醫務總長ノ統計ニ依レハ（其ノ數ハ之  
ヲ發表スルコト難シト雖モ）軍隊、並ニセルビヤ、ヴルカリヤニ於ケル他ノ病院ニ於ケル未接種者中ノ罹  
患數ハ之ニ比シ非常ニ多數ナリ、尙ホ一、二例示セシニ

一、アスカブ市ニ於ケル五ヶ所ノ衛戍病院中其ノ四ヶ所ハ豫防接種ヲ完了シ、他ノ一ハ之ヲ行ワザリシニ、  
前者ニ於テハ流行期間中一人ノ病院感染者ヲモ發生セザリシニ、後者ニ於テハ同期間中三十四名ノ病院

#### 感染者ヲ出セリ

一、ブルガリヤニ於ケルゴールニヂユミール市ニ於テハ豫防接種ヲ施行セザリシ以前ニ於テハ病院職員中  
多數ノ患者發生シ接種施行中（十日）ニモ尙ホ四名ノ患者發生セリ、然ルニ施行後三週間ニ於テハ入院患  
者三百人以上ヲ數エタリシモ一人ノ院内感染者ヲモ發生セザリキ

一、ブルガリヤニ於ケルラドミール市ニ於テハ接種施行前ニハ病院職員二十人ニ罹患セシモ、其ノ終了  
スルヤ、入院患者ハ増加セシニモ拘ラス一人ノ患者ヲモ發生セザリキ

露西亞ニ於ケル當該事業ハ主トシテ、其ノ當時、埃洪國ノ占領セシボルハイニア地方（國境ナルガリシヤ  
ノダブラツツ兩市ノ南方ニ當ル）ニテ行ハレタルモノナリ、而シテ此地方ニハ埃洪戰地傳染病院並ニ發  
疹室扶私ニ對スル檢疫所ノ設ケアリ、同地方ノ發疹室扶私流行ハ一九一五年十二月ニ始リ、一九一六年五  
月ニ終リ、一般民衆多數ニ犯サレタルモ、軍隊ヨリモ多少ノ犠牲ヲ出シタリ、流行ノ範圍ノ詳細ハ事、軍  
事ニ關シ發表シ難シト雖モ、吾人ノ觀察ニ依レハ其ノ流行ハ甚タ廣キニ涉リ、其ノ數、數萬ニ達ス可ク、  
其ノ地方ニ於テ之カ侵襲ヲ被ラザリシ町村ハ一モ存在セザリシカ如シ、同地方ノ小キ發疹室扶私病院ニ於  
テモ、吾人カ研究ノタメ滞在セシ三ヶ月間ニ、然カモ此地方ノ交通ノ不便ナル、隣接セル町村ノ患者ヲ收  
容シ得ルノミニ拘ラス、其病院ニ收容セラル、患者ハ二百名ヲ超過スルノ状態ナリキ

豫防接種ハバルカンニ於ケルカ如ク傳染危險ノ度甚シキモノ即チ主トシテ病院、衛生隊ノ職員ニ行ワレタ

リ、四十六個ノ病院其ノ他ニ行ワレ其ノ數三千六百九十九人ニ及ヒタリシニ、一九一六年五月ニ至ル間ニ三人ノ患者其ノ内ニ喪ハタリ然レトモ、未接種者中ノ罹患者ハ更ニ一層多數ナリキ  
或ル軍隊ニ於テ四個ノ傳染病院ノ職員五十人ハ一九一六年一月ニ豫防接種ヲ受ケタリ、其ノ施行以前ニ於テ五人ノ醫師ハ發疹室扶私ニ死亡シ、(醫師、看護人、使丁等ノ感染者數ハ明ナラサルモ)其ノ施行中(十日)五人ノ職員ハ之ニ罹患セリ、豫防接種施行ニ於テモ入院患者ノ數ニ變化ナク又入院手續ニ於テモ變化ナカリシニモ拘ラズ一人ノ患者ヲモ發生セサリキ

概 括

セルビヤ、ブルガリヤ並ニボルハイニアニ於テハ病院衛生隊其ノ他百〇九ヶ所ニ於テ本流行期間中八千四百二十二人ノ豫防接種ヲ施行セリ、而シテ其ノ人員ハ凡テ傳染ノ大ナル危險ニ頻シツ、アリシモノナリシニ罹患者ハ僅カ六人ニ過キサリキ

一九一五—一九一六年冬、春、ニ於テバルカン及ヒボルハイニアニテ爲サレタル、發疹室扶私菌「ワクチン」ノ成績ニ依レハ發疹室扶私注射免疫ハ絶對ニハ之ヲ發生セシムル能ハズト雖モ、其罹患率ヲ減少スルノ能力ヲ有スルモノナルヲ認ム

(亞米利加醫學協會雜誌、一九一六年十一月廿六日)ヨリ抄録)

○墨其西哥國境ニ於ケル發疹室扶私豫防

(亞米利加合衆國衛生院週報(一九一七年三月二十三日)ノ一節)

公衆衛生院最高官 シー、シー、ビーアス、述

過去五年間ノ墨其西哥ニ於ケル歐洲的ノ動亂、並ニ、極貧ト悲惨トヲ以テ來ル亡命者、兵士、其ノ家族等ノ頻回ナル移住、衛生施設ノ欠陥、等ハ發疹「チフス」遂行ニ好機ヲ與エ、其ノ國ノミナラス、之ニ隣接セル國境都市ニモ其ノ病毒ヲ齎スニ至リタリ  
流行範圍ハ甚タ廣シト雖モ之ニ犯サル、モノ多クハ極貧ニシテ害虫ニ侵サル、者ニ限り、他ノ少數ノ罹患 者ハ此階級ニ接近スル者又ハ醫師看護婦等ナルヲ見タリ  
千九百十五年十二月、三名ノ發疹「チフス」ハテキサス州ラレドーニ發生セリ、我衛生院ハ直ニ病毒侵入防止ノ策ヲ講ス可ク、之ニ職員ヲ派シ、不取敢墨其西哥國ヂヤレツ、ビードラスネグラス、スエボラレドーニ於ケル消毒所ヲ復舊シ、帶虱者ノ衣服ハ蒸氣消毒シ、其ノ身體ハ石鹼ヲ以テ洗滌スルニアラサレハ本邦ニ入ルヲ許可セサルコトニスルト共ニ此ノ他ノ場所ニ於テモソレ、一時的豫防ノ方策ヲ講セシメタリ、是等ノ方法ハ其ノ効果顯著ナリシモ、尙ホ其ノ取締ヲ充全ナラシムルニハ、本邦領土内ニ於テ、國境ニ接シ、入浴、荷物取扱、衣服消毒等ノ設備充全ナル消毒所ヲ設置シ、我カ監督ノ下ニ之ヲ施行スルヲ可トストセ

ラレ、幾分其ノ實現ヲ見ルニ至リタリ、即チ今ヤテキサス州エルバン、イーグルバス、ブラウシスヅ井ルレ、ヒダルゴ、リオグラド、シチーニハ其ノ施設既ニ成リラレド、ニ於テハ特ニ其ノ施設成ラントスルノ状態ナリ

今其ノ處置方法ニ關シ簡單ハ記述スル所アラントス

墨其西哥ヨリエルバンニ來着スル者ニシテ帶虱ノ虞アル者ハ凡テ之ヲ消毒所ニ入ラシム、男女ハ之ヲ別チ、男子ハ一側ニ、女子及兒童ハ他ノ側ニ至ラシメ、適當ナル室ニ於テ脱衣セシム、其ノ衣服ハ之ヲ括リ其ノ壁ニ存スル受入口ヲ通シ消毒室ニ送り、消毒器附屬ノ受容器ニ之ヲ積ミ込ム、靴、帽子、革帶、其他消毒ニ依リ毀損セラル、物品ハ他ノ受入口ヨリ大ナル洗濯籠ニ之ヲ入レ、必要ト認メラル、場合ニハ青酸瓦斯ヲ以テ之ヲ處置ス

貨弊並ニ高貴物ハ之ヲ木綿囊ニ入レ糸ヲ以テ之ヲ結ヒ、番號アル眞鍮相札ヲ之ニ附ス、此合札ノ番號ハ綱ニ之ヲ記シ、所有者ニ所持セシム、入浴中ト雖モ之ヲ頸ニ附シ居ルコトヲ得

衣服ヲ脱キ裸トナリテ消毒室ニ來リタル者ハ其ノ性ニ從ヒ、男又ハ女ノ職員ノ前ニ至リ、頭ニ虱ノ存在スルヤ否ヤノ検査ヲ受ク、男子又ハ兒童ニシテ頭ニ虱ノ存スルモノハ、「番號〇〇バリカン」ヲ以テ之ヲ斬髮シ、其ノ毛髮ヲ新聞紙ニ受ケ之ヲ包ミテ焼却ス、婦人ニシテ頭ニ虱ノ有スル者ハ醋、石油ノ等分混合液ヲ以テ毛髮ヲ浸シ、手拭ヲ以テ三十分間之ヲ被包ス、稀薄醋酸ハ毛髮ヨリ卵ヲ解離セシメ、石油ハ虱ノ成虫ヲ殺

シ又ハ之ヲ麻酔ス、温湯及石鹼ヲ以テ毛髮ヲ洗フトキハ是等ハ凡テ除去セラル、此方法ハ必要ナル場合ニハ之ヲ反復シ以テソノ卵ヲ剿滅ス

然ル後ニ上部ニ存スル貯藏器ヨリ石鹼液ヲソノ身體ニ撒布シ、次テ入浴ス、其ノ石鹼ハ石鹼一、水四、ヲ加ヘテ煮沸シ、之ニ石油二、ヲ加エテ製シタルモノニシテ冷却スレハ凝結ス、然レトモ此凝結セル石鹼一、ニ温湯四、ヲ加フレハ簡單ニ石鹼液ヲ調製スルヲ得、而シテ此石鹼液ハ五「ガロン」ノ罐ノ中ニ貯藏セラ

ル、罐ニハ其ノ底部ニ一ノゴム管附着シ、其ノ一端ハ該液ヲ放出スルノ用ヲナシ、此處ニ個節閉閉器ヲ備フ職員ハ其ノ入浴ノ状態ヲ監視ス、入浴終ルヤ、他ノ一室ニ至リ、消毒室ノ「清潔端」ヨリ返却セラル、衣服ノ交附ヲ受ク、前記ト同様ナル合札ハ衣服ニハ置カレサルカ故ニ各人ハ各自己ノ衣服ヲ撰出ス

括ラレタル衣服ハ消毒器ノ受容器ニ充滿セラル、ヤ、消毒器ニ之ヲ送入シテ閉鎖ス、器中ハ十乃至十五時ノ氣壓トナシ、之ニ蒸氣ヲ導入シ、壓、二十磅、溫度華氏二百五十九度ノ下ニ、蒸氣ノ充分ニ浸透シ得可キタメニ、十分間之ヲ放置シ、然ル後消毒器ヲ開ク他二十時ノ氣壓ヲ作り更ニ之ニ十分間放置シオクトキハ衣服ハ充分ニ乾燥ス、然レトモエルバンノ如キ乾燥セル氣候ニ於テハ此必要ヲ見ス

テ、確實ナリ

衣服ヲ着ケタル後更ニ他ノ室ニ至リ、返却サル可キ凡テノ物品ヲ受領シ、消毒所長ノ調査ヲ受ケ、豫防接種セラレタル後次ノ證明書ヲ交附セラル

亞米利加合衆國公衆衛生院墨其西哥國境檢疫

一九一一年

本證書所持者ハ

男性(年齢……本日除風、入浴、豫防接種ヲ受ケタリ)

女性(衣服、荷物ハ消毒セラレタリ)

十年以下ノ兒童、人ヲ有ス

合衆國衛生院官醫

十年以下ノ兒童ニハ證明書ヲ與ヘス、其ノ兩親ニ與ヘタル證書ニ之ヲ記載ス

外國人ハ最終ノ室ヨリ更ニ移民取扱所ニ送ラレ醫師ノ檢診ヲ受ケタル後、亞米利加合衆國移民局之ヲ適當ニ處理ス

青酸瓦斯室ハエルバンニ於テハ主要建築物ノ外ニ在ルモ他ノ場所ニ於テハ消毒室ノ内ニ在リ、靴、適當ナル箱、類似物品ハ必要ナル場合ニハ青酸瓦斯ヲ以テ處置ス、汚染セル衣服カ靴等ノ内ニ在リタルモノナ

リシ場合ノ外ハ虱ヲ除去スルタメニ荷物ヲ處理スルコトハ重要視セラレズ、但シ、移民ノ携帯セシモノナルトキハ之ヲ消毒ニ附ス、消毒濟ノモノハ次ノ如ク記ス

亞米利加合衆國衛生院

荷物ノ此部分ハ本日消毒濟

勞働者タル墨其西哥人ハ消毒所ニ於テ處置セラル、ニ非レハ列車ニ依リ國境都市ヲ放ル、コトヲ禁セラル  
總テノ輸送會社、合衆國衛生院監視官、等協力シテ之カ取締ニ任スエルバンノ消毒所開設以來、一九一七年一月二日ヨリ二月九日ニ至ル期間ニ一萬二千三百六十人ハ入浴、除風、豫防接種ノ處置ヲ受ケタリ

## ○保菌者ノ處置

(Eisen 一九一六年十月十一日  
日維也納臨床週報)

五五四

(熱帯醫學衛生雜誌第二十卷第四號(一九一七年二月十五日)抄 錄)

細菌ノ排泄ト臨床症狀トノ關係ヲ見ントシ、毎日又ハ隔日ニ於テ、糞便及尿ノ検査ヲ試ミタルニ、併發スル熱作用ハ細菌ノ排泄ヲ減減スル作用ヲ有スルノ事實ヲ確メ得タリ、依之、人工的ノ體温上昇モ亦同様ノ作用ヲ有スルヲ推想スルヲ得、茲ニ此目的ノタメ「ワクシン」ノ使用ヲ試ミタリシモ有効ナラザリシカハ蛋白質ノ注射ヲ行ヒ、乳汁ハ此目的ニ添フモノナルヲ見タリ、コハ血友病、惡性貧血、白血病等ノ療法トシテ發熱ヲ來サシムルニ足リ、乳汁ノ十立方仙達ヲ湯ニテ煮沸シタル上、臂筋ニ注射スルモノナリ、注射後約八乃至十時間ニ於テ時トシテ惡寒ヲ以テ發熱シ、二乃至三時間稽留シタル後再ヒ前温ニ下降ス、或ル場合ニ於テ輕度ナル頭痛ヲ來スノ外、副作用トシテ認ム可キヲ見ス

熱ノ上昇ハ中等度ニシテ、個人ニ依リ、又同一個人ト雖モ其ノ時ノ異ルニ從ヒ、同一程度ニアラス、然レトモカ、ル體温反應ハ大体ニ於テ血液疾患ノ際ニハ來ラサルヲ常トス、茲ニ保菌者、並ニ患者ノ細菌ハ血液中ニ驅出セラレ、其ノ一部ハ尿中ニ排泄セラル、ニ至ル、尙ホ局部ニ炎症症狀ヲ增加シ、血液ノ性狀ニ變化ヲ來ス、是等ノ現象ハ免疫體ノ發生ヲ伴ヒ、諸現象相俟チテ、身體中ノ穩レタル細菌ハ其ノ保菌巢窟ニ至ルマテ絶滅シ得ルモノ、如シ

勿論、同種蛋白質處置ノ方、有効ナルヤ否ヤノ決定ハ之ヲ後日ニ待タントス

今日迄ニ於テハ、慢性ノ四症例ニ於テ、四、五回ノ注射ヲ成シタルニ糞便、尿ノ細菌ハ常ニ陰性ナルヲ見タリ、最近ノ例ニ於テハ一回ノ注射ニテ充分ナリキ

反應ハ比較的輕度ニシテ、其ノ不安狀態ハ對腸室扶私、ワクシン接種ノ際ノソレニ比シ、概シテ輕シ

對腸室扶私、ワクシン接種ニ伴フ副腎現象 (IV. K. Jochims, 醫學雜誌十月十九日、二十四卷五十八號) 六症例ニ於テ第一回對腸室扶私ワク

シン接種ヲナシタル其ノ晩又ハ翌日ニ於テ、其ノ個人ハ蒼白、「チアノーゼ」ヲ呈シ脚部、腰部ノ倦怠、疼痛、並ニ血壓下降、下痢即チ副腎ニ起因スル血行障害ノ全症狀ヲ來シタリ、然ルニ之ニ「エヒネフリン」ノ

一定量ヲ服用セシメ又ハ皮下注射ヲ行ヒタルニ、此症狀ノ凡テハ直チニ、完全ニ治愈セリ、之ニ因リ、此症狀ハ副腎機能ノ一時的變調ニ起因スルコトヲ知ル、一回又ハ三回注射ニ於テモ、多クノ場合ニ於テ副腎

機能不全ノ症狀即チ虛脱、衰弱、及血壓下降ヲ生ス、而シテ血壓下降ハ其ノ目的ノタメ試ミラレタル三十人ノ兵士中十六人ニ於テ證明セラレ、一日間尙ホ以上存在シタリ、此反應ハ「ワクシン」ノ各注射ノ後ニ

於テ左程強度ニアラサリキ「モルモット」ニヨル動物試驗ニ於テモ此ノ症狀ハ副腎ニ起因スルモノナルヲ確認スルヲ得タリ

吾人ハ將來ニ於テハ、腸室扶私ニ對シ「ワクシン」注射ヲナスニ先チ、腎臟、肝臟、心臟並ニ肺臟ヲ検査スルニ止ラス尙副腎ノ機能力ヲモ檢スルヲ要ス、コハ其ノ血壓ニヨリ知ルコトヲ得、「ワクシン」接種ハ疲勞

五五五

シ居ル者ニハ行フ可カラス、若シ、血、壓、低、キ、時、ハ、コ、ク、チ、ン、接、種、ノ、數、時、間、前、ニ、於、テ、エ、ビ、ネ、ブ、リ、ン、ノ、一、定、量、ヲ、與、フ、ル、ヲ、可、ト、ス、血、壓、尙、ホ、低、ク、又、ハ、一、層、低、下、シ、行、ク、時、ハ、數、時、間、後、更、ニ、之、ヲ、反、復、ス、可、シ

## ○蚊ノ飛行力

(「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ飛行距離ニ關スル研究)

(米國公衆衛生局發行「公衆衛生報告」第三十二卷(一九一七年)第十八號所載)

### 合衆國公衆衛生部

衛生技師 チエー、エー、ル、ブランズ、述

防疫官補 テイ、エツチ、デイ、グリフイツ、述

「マラリア」ノ防遏方法ニ關シテ最モ肝要ナル事柄ハ、「アノフェレス」カ「マラリア」ヲ公衆ニ傳播スルコトヲ豫防センカタメニ施スヘキ蚊ノ繁殖防止ヲシテ如何ナル限度ニマテ及ホスヘキカヲ知ルコトニアリトス「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ハ、南方諸州ニ於テハ恐ラクハ「マラリア」ノ主要ナル運搬者ナルヘシ。「アノフェレス、パンクチベンニス」又ハ「アノフェレス、クリユシアンズ」ノ該病ヲ傳播シ得ル範圍ハ未タ決定スルニ至ラス、而シテ實際上ニ於ケル「マラリア」傳播ノ要因トシテノ重要性ヨリ見テ、是等三種ノ蚊ニ如何ナル階級的地位ヲ附スヘキカハ未タ研究中ニ係ルト雖モ、充分ナル立證材料ニ依リテ按スルニ今ノ所、其ノ飛行距離ニ就キテハ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」カ三者中最モ有力ナル向徑ヲ有スト爲スヲ正當ナリトセサル可ラス

斯ルカ故ニ、他ノ種ノ蚊ニ關シテモ亦其ノ飛行距離ニ就キ同様ノ調査決定ヲナスヲ至當トスヘキモ、飛行距離ノ本研究ニ關シテハ、專ラ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ニ就キテノミ爲シタリ。(註一)

千九百十四年ヨリ千九百十五年ニカケテ、停滯水溜ニ就キテノ「マラリア」研究ヲ爲シタリシカ、其ノ研究ニ關連シテ、「アノフェレス」ハ其ノ發生所トシテ知ラレタル場所ヨリ如何ナル距離ノ所マデ之ヲ發見シ能フヘキカヲ決定シ得ルノ機會ニ屢々接シタリ

建物ノ内部ニ就キテ幾多ノ調査ヲ爲シタル結果、「アノフェレス」ハ其ノ繁殖非常ニ多カリシニ拘ラス、其ノ發生所ヨリ一哩以上ノ所ニ居ルコトハ甚タ稀少ナリシコトヲ知リタリ

又、此ノ種ノ蚊ハ最モ繁殖シタル發生所ヨリスルモ、一哩四分ノ一、若クハ其レ以上ノ所ニ在ル住家又ハ穀倉ニ於テハ全ク發見セラレサリキ、又上述ノ場所ヨリ一哩二分ノ一ヲ距タリタル所ニ住メル人々ハ全ク蚊ノ居ラサリシコトヲ報告シ來リタリ

千九百十六年ニハ、南「カロリナ州ノステヴンス、クリーク」及ヒ「フォート、ラウン」ニ於テ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ飛行距離ニ關シテ、一層精確ナル立證材料ヲ得ンカ爲メニ其ノ實驗ヲ屢々行ヒタリ

南「カロライナ」州ノ「ナウス、オーガスタ」ヨリ約十哩ノ所ニ在ル「ステヴンス、クリーク」ニ於テ行ヒタル前回ノ研究ヨリシテ、該地ニ於ケル停滯水溜ノ一部ハ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ繁殖及ヒ生

育ノ場所ナルコト竝ニ此ノ種ノ蚊ノ大舉セル家屋侵襲ハ其ノ近邊一帶ニ之レアリシコト及ヒ人ノ住居スル家屋及穀倉ニ於ケル「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ數ハ水溜ヨリノ距離カ遠クナルニ從ツテ漸次減少スルコトヲ看取シタリシカ故ニ人ノ住居セル建物中ニ於テ發見シタル吸血セル蚊ハ主トシテ前記ノ發生所ヨリ來リタルモノナリト斷定スルコトヲ得タリ

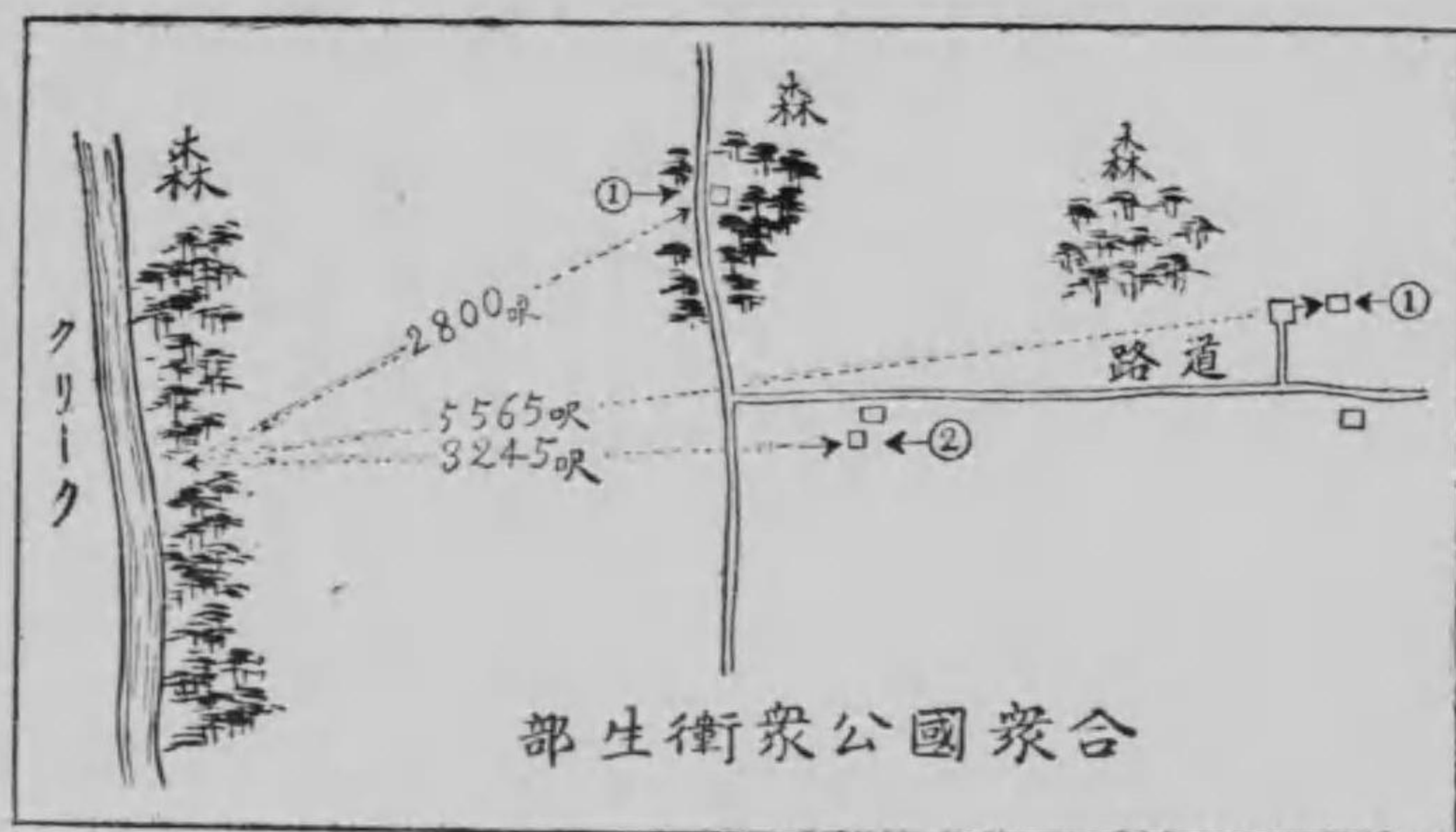
「ガタン」ニ於テモ「バナマ」種ノ「アノフェレス、ターシマキユラタ」ノ飛行力ニ就キ是等ト同一ナル點ニ關スル實驗ヲ企テタリ、從ツテ、試験ノ爲メニ多數ノ生キタル「アノフェレス、クワドリマキユラタ」ヲ捕ヘタリシガ、其ノ捕獲ノ場所及方法ハ次ノ如シ

一、夜間、蚊張(蚊網)ヲ發生所ニ近接シテ張り置き、「アノフェレス」カ餌タル人ニ引キ付ケラレテ蚊張ノ中ニ入りタル所ヲ「プロノエオジン(帶黃色)水溶液ヲ吹霧器ニテ散滴シテ之ヲ着色シ以テ之ヲ放飛シタリ

二、其ノ他ノ「アノフェレス」ハ晝間住家ヲ侵襲セシトコロヲ手ニテ捕獲シタリ、斯クシテ得タル蚊ハ放飛所トシテ豫メ選擇シタル發生場所ノ一部ニ之ヲ集メ、前述ノ方法ニテ之ヲ着色シテ放飛セシメタリ。最初ノ日ニハ其ノ僅少ヲ放チタリシカ、二日日ニハ同一場所ニ於テ多數ノ蚊ヲ放飛シタリ

着色蚊ノ第一組ヲ放飛シタル後十日間ハ、放飛地點ヨリ一哩二分ノ一以内ニ在ル住家、穀倉、厩ノ中ニテ毎日捕蚊ヲ行ヒタリ、此ノ期間内ニ於テ、捕ヘテ着色ヲ檢査シタル「アノフェレス」ハ千五百四十二匹ナリ

圖 一 第



部生衛衆公國衆合

再サ「スレエフノア」色着テ於ニタスガーオ、スウナノ州ナイラロカ南  
圖取見ス示テ置位的係關ノ倉穀及所場ルタシ捕

五六〇

キ。第一組ノ放飛ノ後、三日目ニ最初ニ着色シタル標本ヲ發見シタリシカ、此ノ標本ハ放飛地點ヨリ五千五百六十五呎ノトコロニテ捕ヘタルモノナリ。次ノ日ニハ第二回目ノ標本ヲ二千八百呎ノトコロニテ捕ヘタリ。他ノ二標本ハ六日目ニ三千二百四十五呎ノトコロニテ之ヲ捕獲セリ。再捕セラレタル着色標本ハ總テ吸血シ居リ、且ツ晝間ニ、發生地ノ近邊ニテ捕ヘタルモノナリキ

第一圖ヲ參照セハ、蚊ノ飛行ハ放飛地點ヨリ四方ニ散飛スルモノナルコトヲ知ルヘシ。又第一圖及第二圖ニ於テ示ス地形ハ住家、穀倉カ近距離ノ所ニノミアルモノナリ

南「カロリナ」州ノ「フォート、ラウン」ニ於テ選ヒタル染蚊所ハ「カタウバ」河畔ニ在リテ同州ノ「チエスタ」ヨリ約十八哩ノ所ナリキ。而シテ此ノ場所ハ土地カ河岸ヨリ急ニ隆起セル所ナリキ。斯ノ如キ場所ヲ選ヒタルハ、「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ハ果シテ河ヲ越エテ

圖 二 第



圖面斷縦ノ路通行飛ルケ於ニタスガーオ、スウナノ州ナイラロカ南

五六一

飛行スルモノナリヤ否ヤ決定セント欲シタルカ爲メナリシナリ

標本放飛ノ地點ハ之ヲ其ノ地點ヨリ一哩以内ニハ住家一、二軒ヨリ多カラサル東河岸ニ選ヒタリ、而シテ西河岸ノ側ハ東河岸ニ比シ住家モ多ク、且野ニハ家畜ノ放飼セラルルモノ多カリキ——即血ノ供給潤澤ナリ

「アノフェレスカドリマキユラタス」ハ河ヨリノ距離四分ノ一哩乃至三分ノ一哩マデノ所ニ在ル住家ニハ夥シク居リタリシカ、半哩ノ所ニ在ル住家ニハ殆ント稀ニシテ、一哩ノ距離ノ住家ニ至リテハ全ク發見スルヲ得サリキ。西岸ノ側ニ於テハ、「カタウバ」河ヨリ半哩以内ニ在ル住家及穀倉ニ於テ、約二百七十四ノ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ト三十四ノ「アノフェレス、バンクペンニス」トヲ捕ヘタリシガ是等ハ東岸ニ選定シタル放飛地點ニ於テ、一%ノ「エオジン」溶液ニテ着色シテ放チタルモノナリ。七十二時(三日)ノ間ニ「アノフェレス、クワドリマキユラタス」二匹ヲ西岸ニ在ル黑人ノ小舎中ニテ發見シ、次ノ日ニハ同一場所ニ於テ、「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ第



三番目ニ屬スルモノヲ捕ヘタリ

「アノフェレス」ノ大多數シ實驗ノ爲メニ最初捕ヘタル茅屋中ニ、後ニ至リテ(實驗ノ時)再ヒ着色標本ヲ發見シタルハ注目ニ價スル事柄ナリ。此時ノ飛行距離ハ放飛地點ヨリ三千〇九十呎ナリキ、但シ之ヲ一直線ニスレハ「カタウバ」河ノ水面ヲ越エテ八百呎ナリ。該河ヨリ四分ノ三哩乃至一哩ノ距離ニ在ル多數ノ住家ニ就キテ爲シタル調査ノ結果ハ全ク陰性ナリキ

「フォート、ラウン」ニ於ケル「アノフェレス」ノ産出ハ「ナウス、オーガスタ」ニ於ケルモノヨリモ、其ノ範圍非常ニ狭小ナルモノナリキ、而シテ住家ニ對スル検査ノ結果ノミヨリシテ決定スレハ、飛翔ノ平均最大距離ハ前者ヨリモ少ナリ、是蓋シ、前者ニ比シテ、其ノ發生、生育セシモノ少ク、且血ノ供給(近クニ?)便宜ナルカ爲メナラント思惟セラル(註二)

撮要

(一)「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ自然ノ状態ニ於ケル飛行力ヲ觀察シタル結果ハ、蚊ヲ非常ニ産出シタル發生所ヨリハ大體ニ於テ一哩四方ニ廣カリ、此ノ距離ヲ超エテハ全ク着色標本ヲ發見セザリキ

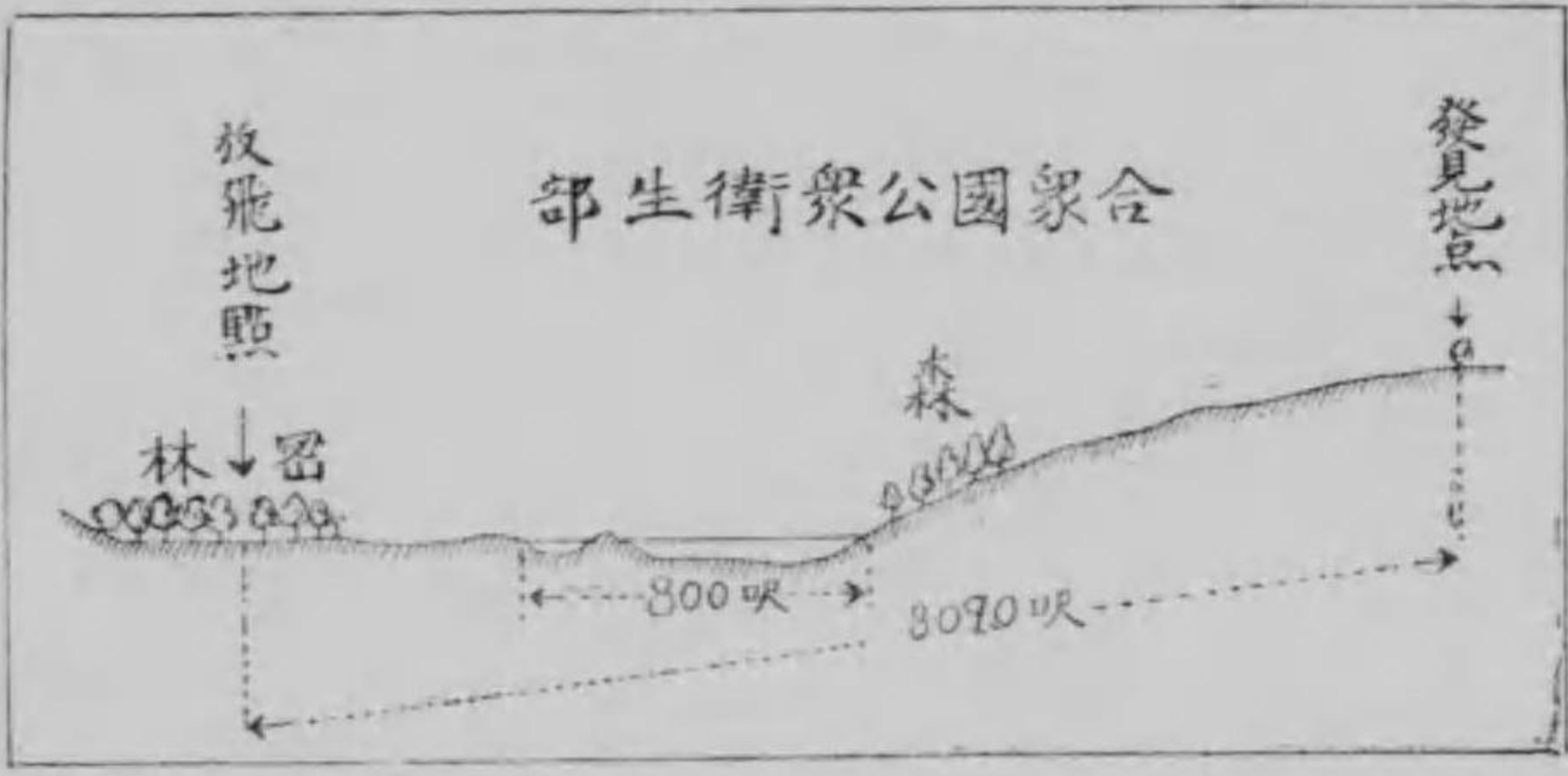
(二)發生所ヨリノ飛行距離ハ甚タ種々ナルモ前項ニ述ヘタル所ニ比シ發生概シテ少キ場合ニ在リテハ——約半哩内外ナリト斷言スルヲ得ヘシ

(三)「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ノ着色標本ハ次ノ如ク捕獲シタリ

- 放飛地點ヨリ五千五百六十五呎ノ所ニテ捕獲セルモノ 一
- 同三千二百四十五呎ナルモノ 二
- 同三千〇九十呎ナルモノ 三
- 同二千八百呎ナルモノ 一

(四)一試験ノ時、「アノフェレス、クワドリマキユラタス」ハ試験ノタメニ最初捕ヘタル場所ヘ河ヲ越エテ八百呎ヲ飛ヒテ歸ヘリタリ  
總計九百乃至千匹ノ蚊ヲ放飛シタリ

第三圖



南カロライナ州ノドーラ、ニ於テ飛翔路ノ斷面圖

(註一)着色蚊ノ飛行距離ノ決定ヲ以テ最終ノ目的トナサ、ル可ラス。而シテ、「アノフェレス」蚊ノ最大飛行(距離)ヲ以テ、彼カ一番初メニ血ノ食事ヲ得ントシテ飛フモノトシ、且ツ其後十日乃至十四日間ヲ經ルニアラサレハ人ニ傳染セシムルノ力ナシト爲スヲ得

此ハ以テ千九百十三年ノ「ガタン」ニ於ケル大飛行モ猶、同地ニ於ケ

ル「マラリア」率ノ増加ヲ來タサ、リシ事實ヲ説明スルヲ得ヘシ

(註二)公衆衛生公報(再版)二百四十四號十一頁、「カーター」衛生公報、一九一五年三月、南方醫事雜誌所載「マラリア」ノ偶發ニ關スル停滯水ノ影響」參照

### ○マラリヤ (合衆國ニ於ケル公衆衛生ト經濟問題)

(原文ハ一九一六年十月廿七日オハイオ州シンシナチニ開催ノ亞米利加合衆衛生協會總會ニ於テ朗讀シタルモノナリ、合衆國公衆衛生週報第三十一卷第五十一號記載一九一六年十二月二十二日發行)

合衆國公衆衛生局副軍醫總監 ジョン、ダブリュー、トラスク、述

異常ナルモノヲ恐レ不可解ナルモノヲ恐ル、ハ人情ノ常ニシテ日常見慣レ聞慣レタル事柄ニ對シテ深キ注意ヲナスモノハ殆ント稀ナリ、外襲性ノ疾病ニシテ未タヨク了解セラレサルモノ、折々ノ襲來或ハ發病ノ虞アルトキハ世人ハ之カ注意攻究ヲ怠ラサレトモ蔓延廣大ノ地域ニ涉リ耳目ニ新タナラサルモノハ敢ヘテ願ルナシ、ペスト、癩病、若シクハ腸窒扶私ニシテ一度發生センカ衛生官ハ勿論新聞紙モ一般公衆モ等シク全力ヲ集注シテ應急ノ活動ヲ開始スレトモ他ノ普通疾病ニアリテハ縱ヘ其災害前者ヨリモ激烈ナル場合ト雖モ人々之レヲ念頭ニ置カサルナリ

徒ニ病疫トノ接觸ヲ爲ス事ヲ防止スルノ策ヲ講シ以テ人民ノ安寧ヲ増進スルハ之レ衛生局ノ目的ニシテ病疫發生ノ原因トナル諸種ノ状態ノ防禦シ得ルモノヲ防禦スルハ其ノ任務ナリ、サレハ先ツ諸種ノ狀況ヲ檢シテ吾人今日ノ知識ヲ以テシテ防禦シ得ラル、モノニ留意シ尙ホ其實行上最モ障害困難ノ少キモノヲ研究スルハ當ヲ得タルモノナリ、若シ如斯キ發生ヲ主因ニシテ吾人ノ間ニ存シ而カモ同時ニ之カ多數ノ人員ニ影響ヲ及ホシツ、アリトセハ努力以テ之カ處置ニ當ルヘキナリ、即チ「マラリヤ」ハ右ノ如キ状態ニ於テ發

生ス、死ヲ恐ル、ノ念ハ死ヲ招ク疾病ヲ恐レトモ直接死因トナラサル他ノ疾病ハサマテ念頭ニ置カサルハ之レ一般ノ傾向ニシテ「マラリヤ」ハ普通直接ノ死因トナラス從ツテ一般明白致命ノ病的經過ニ對スルヨリモ世ノ注意誠ニ疎シ

如何ナル疾病ノ襲來モ常ニ多少人體ノ機關ヲ傷害シ以前ニ比シテ必ス其機能ヲ衰弱セシメ而シテ人體各部ニ對スル破壞的ノ動力ニ抵抗スルノ期間ヲ減縮スル事ハ未タ一般ニ了解セラレス、世ニ所謂死病ト名ツケラル、モノモ普通個人ノ壽命ヲ限ル確定的ノ主因ニ非スシテ之レ以前ニ於ケル疾病或ハ病的經過ノ結果衰弱シ抵抗力ヲ失ヘル人體ノ機關ニ對スル最後ノ有害經過ニ過キサルナリ、「マラリヤ」ハ該病々竈地ニ於テハ住民ノ平均年齢ヲ限定スル有力ナル主因タリ、其影響スル所ハ唯單ニ患者個人ノ蒙ル直接ノ危害ニ止ラズ遠ク其子孫ニ及フモノナリ、慢症「マラリヤ」ヲ病メル母親ハ兒女ヲ完全ニ養育スル事能ハス亦其兒女ハ健全ナル父母ヨリ出テタルモノ、如ク遺傳的ニ體質強健ナルヲ得ス、而シテ亦「マラリヤ」ニ罹レル父親ハ其家庭ニ充分ナル經濟狀態ヲ支持スルコト能ハサルヘク「マラリヤ」ハ衛生上重要ノ問題タルハ勿論衛生關係ヲ離レテモ攻究ヲ忽ニスヘカラサル一大經濟問題タルナリ。

#### 過去ニ於ケル流行狀況

一時「マラリヤ」ハ合衆國內ニ於テ今日見ルヨリモ尙ホ一層廣ク蔓延セシモノニシテ現今尙ホ未タ該病々竈地ト認めラル、地方ニ於テモ之レヲ其ノ昔ニ比スレハ流行遙カニ減退セシナリ、五十年前ニ在リテハ可驚

シ「マラリヤ」病竈地ハ遠ク五大湖地方ヨリカナタニ及ヒ虐ハ其地方一帯ニ最モ普通ナル疾病ニシテ規那ノ服用ハマタ最モ通俗ナル家庭療法ナリキ、古キ記載ニコレハアイオワ、ミネソタ、ダコタ、ユター、コロラド、モンタナ、ワイオミング等ニモ多少該病ノ流行アリタルヲ知ルナリ

該病流行地ノ最北境界線ハ漸次南進シテ後ニ點々病竈の中心地ヲ此所彼所ニ殘留セリ、何故ニ斯ク大部地域ヨリ病魔ハ其景ヲ隱シテ一小局地ニ土着セルヤニ關シテハ種々ナル狀況ノ深キ研究ヲ積ムトキハ之レヲ解決シ得ヘケレトモ未タ今日ニアリテハ錯然トシテ唯憶測ヲ逞フスルノミ、米土各地ニ今尙ホ頑強ナル該病カ以前猖獗ヲ極メタルウイスコンシン、ミシガンノ二州ヨリ跡ヲ絶テタル事ニ關シテ満足ナル解決ヲナスハ甚タ興味アル問題ナリ、北部「マラリヤ」病竈地境界線ノ漸次南進シタルハ勿論他ニ種々ナル理由アルヘケレトモ其一ハ該病ノ永存ニ適應ノ狀態カ赤道ニ接近スルニ從ツテ益々増加スルカ故ニ該病ハ先ツ氣温ノ不利ナル地方ヨリ隱退シテ南方ニ向ヒタルナリ

南部ニ在リテモ多クノ地方ヨリ「マラリヤ」ハ漸次減退シツ、アリ、右ニ關シ一地方ノ觀察ヲ基礎トシテカーター博士カ論セル理由左ノ如シ

- 一、農家ノ經濟狀態ノ進歩ニ伴ヒ住家其他附屬建設物ノ改善ヲ成シ得タルコト
- 二、土地ノ開耕ガ擴張セラレ爲メニ排水完備シ蚊ノ發生地タル水溜減少シ蚊ノ隱レ家トナル雜草木ノ叢生セルモノヲ除去シタルコト

三、一般ニ規那ノ服用廣マリテ途ニ之カ家庭療法トナリ、惡寒、熱病其他諸病ノ徵候アルモノニ等シク自由ニ使用セラル、ニ至レルコト

現在ノ流行ト地理的分佈

住民間ノ疾病ニ對シ充分徹底的ノ調査ナク患者ノ系統的報告ナクシテ其疾病ノ害毒及ヒ流行ノ眞狀ヲ知ル事ノ不可能ナルハ「マラリヤ」ノ場合ニ於テ最モ痛切ニ感セラル、ナリ、病疫多キ中ニモ衛生局ノ注意不行届ナル實ニ「マラリヤ」ノ如キハ稀ナリ、今ヨリ七年前合衆國公衆衛生局ハ「マラリヤ」ノ蔓延甚シカラント思ハル、諸州ノ衛生局ニ書ヲ致シテ各州内ニ於ケル該病分布ノ狀況ニ關スル報告ヲ求メタレトモ殆ント満足ナル回答ヲカリキ、斯ク調査研究ノ缺ケタルハ都市ニ於テモ亦然リ、總ジテ衛生局ハ「マラリヤ」ヲ念頭ニ置クコト極メテ薄クシテ往々「マラリヤ」ノ感染激甚ナル住民間ニ在リテ其可恐「マラリヤ」ハ却ツテ顧慮スルコトナク新ニ發生シタル僅少ノ痘瘡患者ニ對スル應急處置ニ熱狂セルカ如キ奇觀ヲ呈スルナリ又吾人ノ豫想ニ反スルモノハ直接該病患者ノ救護ノ任ニ當リタル普通醫カ其地域内ニ於ケル蔓延ノ狀況ニ關シテハ決シテ所轄衛生局ヨリモ知識豊富ナラサルコトナリ、副軍醫總監、エチ、アール、カーター氏ハ南部「マラリヤ」蔓延地ノ狀況調査ノ報告ヲナシテ曰ク

「……該方面ニ存リテハ何レノ地方ニテモ其地方「マラリヤ」ノ流行ニ關シテハ正確ナル統計ヲ得ル能ハサリシノミナラス流行或ハ病害ノ比較的研究サヘモ取ルヘキモノナク、最近五年十年間ノ該病ニ

對スル醫師ノ印象モ唯「多イ」「少イ」「ヨリ多イ」「ヨイ少イ」又ハ「同シ位」等ニ過キス

其他ノ人モ「サホト烈シクナカツタ」或ハ「大層重症患者ヲ多數ニ出シタ」等ト意見區々ニシテ正確ナル患者數ハ勿論概數ヲタニ知ル由ナカリキ

北カロリナノ一地方ハ流行甚シクシテ該病ノ代表的有病地ナルカ氏ハ其地ニ在リテ自ら調査シタル狀況ニ關シ語リテ曰ク

「統計ヲ有セサルカ故ニ北カロリナ州東部地方ニ於テハ「マラリヤ」多シト云フノ他ナシ、大方ハ病勢緩慢ニシテ普通三日熱ナレトモ間々越夏秋生のノモノ無キニ非ス、余カ訪問シタル都市ニ於テハ何レモ少數ノ發生アリ、而シテ夫レ等ハ都市ノ大サト反比例ヲナスヲ常トスレトモ亦四圍ノ事情ニヨリテ異ナルハ勿論ナリ、概シテ都市ヨリモ村邑ニ患者多ク且ツ病勢強烈ナリ、此地方ニ於テ非常ナル「マラリヤ」ノ流行アリタルハ未タ遠キ過去ニ屬セス其激烈ノ度ハ決シテ運河地帯ニ起リタルモノヨリモ小ナリトセス報スル所ニヨレハ今日尙ホ未タ盛ンナルカ如シ、又此地方ノ村落ニハ黒水熱及腦症性「マラリヤ」アリ……

潮流地方ニ於ケル村邑ノ住民ハ地峽其他「マラリヤ」蔓延地ノ土人ト同シク先ツ三十歳ニ達セサル前高度ノ免疫ヲ得ルマテニ極度「マラリヤ」ニ犯サル、ヲ常トシ未充分免疫セラレサルモノハ成人ニ非スト云フモ可ナリ、サレハ「マラリヤ」ノ流行ハ年小者即チ身體智能發達ヲ阻害スルコト甚シク彼等生涯

公衆衛生局ハ該病流行ノ原因ヲ確定セン爲メ最近四年間總ヘテ南部諸州ノ醫師ニ回章シ又此頃其地理的分布ヲ知ランカ爲メ他ノ諸州及ヒ人口一萬以上ノ都市ノ衛生部ニ回章セリ、陸軍兵營内ニ發生シタル「マラリヤ」ニ就テモ紹介スル所アリタリ、記録アル地方ニ於テ死亡者ノ登載サレタルモノ、調査ヲナシタレトモ勿論大ナル効果ヲ收メ得サリキ蓋シ「マラリヤ」ハ流行スルモ死亡記録ノ上ニハ何等現出スルコトナキナリ、之レカ實證トシテハ一九〇四年ヨリ一九一四年ニ至ル間アラスカヲ除ク亞米利加合衆國本土ニ於ケル陸軍部内ニ發生シタル「マラリヤ」患者一三、〇〇〇ナルニ對シ死者ハ僅カニ二名ニ過キサリシコトアリ、而シテ一九〇七年ヨリ一九一四年ノ内ニハ患者七、〇〇〇ニシテ死者一名モアラサリシナリ又普通生活ニ於テハ「マラリヤ」ニ非サル他ノ原因ニヨリテ死シタル者ヲモ死因ハ「マラリヤ」ナリト判斷スルコト屢々ナリ、之レ「マラリヤ」有病地ト然ラサルトヲ不問共ニ實際上信ヲ置キ難クシカノミナラス「マラリヤ」ノ死亡記録ニ現ハル、事極メテ稀ナルカ故ニ之レニヨリテ有病地ナルト否トヲ推定スルハ不可能ナリ

現在合衆國內ニ於ケル「マラリヤ」ノ地理的分布ニ關シテハ病竈地ノ最モ著明ナルモノ三アリ其一ハ境域非常ニ廣大ニシテ他ノ二ハ狭小ナリ、即チ大病竈地ハ殆ント合衆國南部地方一帯ヲ包含シ南ハメキシコ灣ニ臨ミ、西ハリオグランドノイーグルバストカンサスノレーベンウオースヲ結ブ一線ヲ以テ界トナシ、東ハ大西洋岸ニ達シ、北ハカンサスノレーベンウオースヨリオハイオ河ノ北方ヲ通シマリーランドノ北境界ニ

添ヒテ大西洋岸ニ至ル一線ヲ以テ境トナス、二小病竈地ノ内一ハニユウジェルシーノ北部、ニユーヨークノ東南部、コンネクチカット、ロードアイランド及ヒマサツセツツ州ノ一部ヲ包含スル地域ニシテ第三病竈地ハカリホルニアニアリ該州ノ中央サクラメントー及ヒサンジョーキンノ流域地帯ヲ占ムルモノナリ、米土内ニ於ケル大病竈地ハ實際南方一帯ノ地域ニ廣カレルカ如シ

陸軍兵營内ノ記録及諸州或ハ諸都市ノ衛生局ヨリノ報告ニヨレハ狭小病竈地ハ其他多クノ諸州ニモ此所彼所ニ散在スルアリ(地圖參照)

陸軍兵營内ノ記録ニモ亦興味アルモノナシトセス、メリーランドニ於ケル華盛頓砲臺ハ一九一三年ニ至ルマテ數ケ年間合衆國內陸軍諸營所ニ稀レニ見ル高度ノ「マラリヤ」病率ヲ有セリ、而シテ患者ノ割合ハ一九〇六年ニ於ケル一、〇〇〇對七三六ヨリ一九一二年ニ於ケル一、〇〇〇對一七二ノ間ヲ上下セリ、一九一一年中華盛頓砲臺ニ於ケル該病流行ノ狀況ニ關スル陸軍々醫總監ヨリノ年度報告ニヨレハ「マラリヤ」ノ病率ハ比律賓島内ストツエンバーク軍營ヲ除ク他ノ白人守備軍ノ何レノ兵營ニ於ケルモノヨリモ大ナリ

近年ニ至リ陸軍部内ノ「マラリヤ」ハ急足ノ減退ヲナシツ、アリ、其原因ハ營舎ノ改善、排水ノ完全、蔽遮裝置ノ全備、其他兵舎附近ノ地方ニ於ケル「マラリヤ」ノ流行ニ周到ノ注意ヲナス等兵營衛生ノ進歩ニアルナリ

一九一四年中合衆國ニ於ケル陸軍兵營ノ間ニテ最モ「マテリヤ」ノ病率高カリシモノハコロンビア州ノ華盛

頓兵舎内ノ平均一、〇〇〇對七三ナリ、第二ハ華盛頓外バーヂニア州ミーヤー砲臺ニシテ第三ハカンサス州レーベンウオースナリ

經濟問題



「マラリヤ」病竈地  
陰影ヲ施シタル地  
方ハ「マラリヤ」  
病竈地ナリ  
陰影ヲ施シタル丸  
ハ「マラリヤ」患者  
發生地ニシテ病竈  
地ノ疑アルモノナ  
リ

「マラリヤ」病竈地ニアリテハ大部分ノ住民カ早晚該病ニ犯サル、モノニシテ年々歳々數多ノ住民カ病毒ニ感染シ遂ニ或ル者ハ慢性トナルナリ、一度該病ニ犯サル、ヤ其人ハ或ハ親トシテ或ハ職人トシテ將又國民トシテノ能力ヲ損傷ス、「マラリヤ」ニ感染セル職人ハ之レカ爲ニ無役ニ時間ヲ費シ決シテ満足ナル活動ヲ爲スコト能ハス、成ル程病竈地ニ於ケル成人カ大方免疫サル、ハ事實ナレトモ之レ少壯ノ折リニ其感染ニ耐エタル結果ニシテ其間身體及智能ノ發達

ニ及ホシタル影響ハ實ニ恐ルヘキモノナリ、サレハ病竈地ノ住民ハ其流行ノ度ニ應シテ體力智力共ニ低級ナル事ヲ豫想シ得ルナル

「マラリヤ」ト經濟問題ニ關シテハ(エゾーフ(王族閣下ノ「マラリヤ」抑壓法ハ一九一六年三月十日發行公衆衛生報告頁自六一四至六二九ニ見エタリ)ホン、エゾーフノ報告ニ係ル病竈地ノ一水車工場町ニ於ケル狀況ニヨリテ最モ明カニ示サレタリ、工場ノ雇人及ビ家族ノ醫療ノ任ニ當リタル該町衛生員ノ言ニヨレハ一九一〇年ノ夏ニハ町民ノ七五%ハ「マラリヤ」ニ罹リ又一九一〇年一九一一年一九一二年ヲ通シテ流行ハ依然トシテ盛ンナリキ、「マラリヤ」ノ爲メニ多クノ家族ハ其地ヲ去リマタ職ヲ求メテ其地ニ來ルモノアリ住民ハ集散交代留ルコトナク其大半ハ暫時ノ滞在ニ過キサレハ當時水車工場ハ常ニ手不足ナリキ、「マラリヤ」患者ニ對スル衛生作業ハ漸次困難トナリ一九一三年六、七、八、九ノ四ケ月中「マラリヤ」患者ノ往診ハ一日平均五〇ニシテ間々一家内ニテ同時ニ三名四名乃至ハ七名ノ感染者ヲ出シタルコトサヘアルナリ

一九一三年ノ十月全町中ノ戸別調査ヲ施行シタルニ五〇〇人中前四ケ月間ニ於テ惡寒或ハ熱病ニ罹リタルモノ二三三ニシテ血液検査四〇〇ノ内「プラスモジウム」五五ヲ發見セリ、之レ検査總數ノ一三%ニシテ七中一ノ割合ナリ

其後蚊ノ發育場ヲ除去スルコトニ努メ規那鹽ノ使用ヲ奨励シ而シテ一ケ年ヲ經過シテ再ヒ其町ニ至リ七八〇名ノ血液検査ヲ行ヒタルニ感染セルモノ僅カニ三六、即チ四、五%ヲ發見セリ、當時衛生官ハ報シテ曰ク最近數ケ月間水車工場雇人ノ往診ハ一日平均一人ヲ越エス而シテ是等患者ノ多クハ前年ヨリ繼續シタル舊感染ナルコト疑ナシト、マタ以前ニ於テハ甚タ猖獗ヲ極メタリシ時期ニアリテモ漸々「マラリヤ」ハ減退

シツ、アリ、一九一四年度該町衛生官ノ報告中ニハ「マラリヤ」退治運動以前即チ一九一三年ノ夏ニ於テハ多數ノ雇人カ該病ニ罹リタル爲メ常ニ水車工場ニ於テ手不足ナリシニ反シ一九一四年ニ於テハ職人ノ不足ナリシコト一日モアラスト記サレタリ、又某工場支配人ハ語リテ曰ク、該工場カ蚊ノ撲滅處置ニ提供シタル金額(一、〇〇〇弗)ハ雇人ノ能力及ヒ規律ノ増進ニヨリテ一ヶ月以内ニ優ニ之レヲ取り返シタリト  
 翌一九一五年ハ慢性「マラリヤ」患者ハ尙ホ多少存續シタレトモ新ニ發生シタルモノハ殆ント稀ナリ、其年十月中九六人ノ血液検査ヲ施行シタルニ僅ニ三、五%ノ感染者ヲ發見セリ、然ルニ豫防處置ヲ施サ、リシ附近ノ地方ニアリテハ住民三〇人ノ血液中感染セルモノ六ナリ、當時上述一水車工場ノ支配人ハ一書ヲ裁シテ曰ク

「斯カル僅少ノ經費ヲ以テスルモ秩序的活動ヲ爲ストキハ其状態ニ非常ノ變動ヲ致シ得ルコトハ余ノ夢ニタモ豫想シ得サリシ所ナリシヲ今ニ至リ自白致シ候、當地ニ於テ「マラリヤ」退治運動ニ使用シタル金額ハ甚タ迅速ニ取り返シタルノミナラス亦巨額ノ收益ヲ齎シ候實ニ如斯ハ如何ナル投資ニ於テモ見ル能ハサル事實ニシテ一度此經驗ヲ味ヒ候上ハ一朝必要ノ起リタル場合縱ヘ費用ハ以前ニ十倍致シ候トモ再ヒ之ヲ行フニ敢テ躊躇不致候……我等ノ經驗ニヨリ蚊ノ撲滅ハ純衛生ノ立場ヨリシテ當然爲スヘク亦一事業トシテ最モ有利ナルモノナルヲ確信致候」

### 結 論

合衆國內ニ於ケル「マラリヤ」ニ對スル結論凡ソ左ノ如シ

- (一)南、メキシコ灣ヨリ北、オハイオ河ノ北方ニ達シ西、大西洋岸ヨリ東方、カンサス、オクラハム、テキサスニ至ル間ニ位スル地方ニ於テハ「マラリヤ」ノ害毒ヲ全ク受ケサルモノ殆ント稀ナリ、概シテ低地ニ流行多ク、山地或ハ排水宜敷地方ニ少ナシ
- (二)ニューヨークノ南部地方、ロードアイランド、コンネクチカットノ諸地方、マサツセツツ、カリフォルニアノサクラメント、サクラノント、兩河ノ流域モ亦「マラリヤ」病竈地ナリ
- (三)合衆國內「マラリヤ」ノ存セサル州ナク又其土地發生ノ蚊ハ該病ヲ傳播ス
- (四)該病ハ一大國民衛生問題ヲナスト共ニ重要經濟問題ヲ生ス
- (五)地理的分布及其流行狀況ヲ確定センニハ、充分病疫検査ヲ施行シ、衛生官へ患者ノ報告ヲ爲サシメ血液検査ニヨリテ報告患者ノ眞疑ヲ確ムルヲ要ス

### ○學童ニ對スル食事支給

(一九一七年四月倫敦、衛生醫學會發行「公衆衛生」第卅卷第七號一五八頁以下掲載)  
本文ハ一九一七年三月「ホームカヴァンチ」支會ニ於テ朗讀セラレタルモノナリ

「ウイリス・デ・ン」公衆衛生部醫務官醫學博士 ジョージ・エフ・ビューケン、述

#### 沿革

學童ニ對スル食事支給ノ事ハ十九世紀ノ末葉二十年間ニ始マリ其ノ當時大都市ニ於ケル資金ハ全ク此事ニ志アル有志者ニヨリテ成就シタルモノナリ、此等有志團ハ住民中最下級ニ屬スル貧民ニ對シ慈善的救助ヲ與フルヲ以テ目的トセリ而シテ食事ヲ支給セラレタル兒童ハ登校者中營養不良、身ニ繼續ヲ纏イ、放任シテ願ラレサル状態ノ者ヲ選ヒタルナリ

學童ニ對スル食事支給ニ關シテ官廳ヨリ照會サレタル最初ノモノハ彼ノ一九〇二年ニ任命セラレテ翌年其ノ報ヲ齎シタル王國體育委員(スコットランド)ノ報告中ニ見ルヲ得ヘシ、該委員ハ學童ニ對スル食事ノ支給並ニ健康診斷ノ必要ナルコトヲ陳情セリ

一九〇三年九月體貨退歩調査委員任命セラレ越エテ一九〇四年其ノ復命ヲナシタルカ此委員モ右同様學童ニ對スル食事支給ト健康診斷トノ必要ヲ推進セリ

一九〇五年三月ニ至リロンドンデリーノ侯爵、當時ノ教育省總監、ハ委員ヲ任命シテ公五小學校兒童ノ健康診斷ニ關シ從來採用セラレタル方法及其ノ結果ヲ調査報告セシメ尙ホ更ニ公立小學校兒童ニ對スル食事支給ニ關シ採用セラレタル方法、經費、並ニ其ノ資料トシテ諸種有志團ヨリ受ケタル救濟等ヲ探究報告セシメタリ

此委員ハ一九〇五年十一月九日ニ其ノ執告ヲナセリ

一九〇六年十二月二十一日一九〇六年度教育(食事規定)條令通過シタレハ此ノ條令ニ依リ地方教育官ハ食事缺乏ノ爲メ所定ノ教育ノ恩澤ヲ蒙ル能ハサル兒童ニ對シ或ル限度内ニ於テ食事支給ヲナスヲ得タリ

一九一四年中國會ニ於テ公立小學校兒童ニ對スル食事支給ノ補助ノ爲メ下賜條款制定セラレ又同年六月十日ニハ下賜配當ニ際シ教育省ニ於テ參酌スヘキ項目ヲ示セル規定ヲ發布セリ、即チ

- (イ) 此ノ事業ト學校衛生事業トノ調和
- (ロ) 食事支給ヲ許可スヘキ兒童ノ選擇上ノ注意
- (ハ) 食制ノ充實ト適當
- (ニ) 此ノ事業ノ教育的方面ノ注意
- (ホ) 食物監理及給仕方法ノ適當並ニ設備ノ完全
- (ヘ) 兒童ノ心身兩状態ニ及ホス食物ノ影響ニ關スル調査及報告ノ準備ノ完全



(ト) 此ノ事業ノ經濟的運用

一九一四年八月七日教育(食事規定)條令(一九一四年度)通過シ原條令ノ適用ヲ擴張シテ學校日以外ノ日ニ於テモ食事ヲ支給スル事トシ、地方教育官ヨリ受クル經費ノ半片限度ヲ取り去リ、食事支給定額支出ニ對シ教育省ノ決裁ヲ必要トセサル様變更セリ

上記ノ回顧ニ由リテ見ルニ國會ハ常ニ學童ニ對スル食事支給ハ健康診斷ト密接離ルヘカラサル關係アルモノト考ヘタルヲ明ニ知り得ヘシ、而シテ教育省ハ、職權ノ及フ範圍ニ於テ、其ノ醫務局ノ手ニ託シテ學童ニ對スル食事支給ノ一般監督ヲ行ヒタリ

「ウイルスデン」教育官モ一九一五年四月十四日前者ノ例ニ倣ヘリ

「ウイルスデン」ニ於ケル食事支給ノ方法

「ウイルスデン」ニ於ケル學童ノ食事支給ハ一九〇五年有志者ノ手ニ始マリタルカ越ヘテ翌年一九〇六年度教育(食事規定)條令通過シタルヲ以テ教育委員ハ其ノ條令ノ規定ヲ利用シ爾來地方稅經營トシテ學童ニ對スル食事支給ヲナセリ

「ウイルスデン」教育官ハ現時直轄ノ食堂ヲ五箇、其他ニ有志團ノ監督ニヨル第六食堂ノ準備成リ、尙ホ貧兒ニ對スル學校ニ於ケル食事支給ヲ爲ス一咖啡店ヲ有ス

食事ノ支給ヲ受クル兒童カ正午學校ヲ出テ、食堂ニ行ク時ハ教師ヨリ監督ヲナシテ彼等ヲ清潔ニ且ツ服裝

等ヲモ整頓セシム、食堂ニ於テハ監理者又ハ助手(有給役員)ハ班長等ニ授ケラレテ食料品ノ分配ヲナス、班長ハ食堂ニ來ル兒童中比較的年長ノ男女兒ニシテ二十人毎ニ一人ヲ選拔ス、各班長ハ兒童ヨリ先ニ食堂ニ至リ各自擔當ノ食卓ニ必要ナル「スプーン」及「ホーク」ヲ分配シ又夫々一片ノ「パン」ヲ配ス、班長ハ各自擔當ノ食卓ニ給仕シ食事ノ了リタル後ハ食器ノ片付ヲナス、尙ホ班長ハ他ノ兒童カ食事ヲ了リタル後ニ於テ食事ヲナス

食事ニ關シテモ常ニ教育方面ニ注意シ當時食事部ノ人員ノ許ス限リ清潔ノ習慣、良作法、食事上ノ訓練ヲ集合セル兒童ニ對シ丁寧反覆シテ教授ス、又或ル地方ニ於テハ教師自ラ食堂ニ臨ンテ食事中ノ兒童ヲ監督スルモノアリ

之レ、余ノ考ニヨレハ、誠ニ望マシキコトナリ、然レトモ戰爭ノ影響ニヨリ「ウイルスデン」ニ於テハ未タ其ノ方法ヲ採ルヲ得サルナリ

### 食 事

支給食事ハ土、日曜ヲ除クノ他總ヘテノ日ニ於テ即チ學校休日ニ於テモ支給セラル、モノニシテ晝食ナリ以前ハ唯一品料理ノミ支給サレタレトモ一九一五年七月十二日ニ於テ二品料理制度開始セラレ今日ニテハ「ウイルスデン」教育委員ノ支配下サル食堂ヲ通シテ一般ニ採用セラル、ニ至レリ

十六ノ食制制定セラル、而シテ次ニ示セルハ一週間ノ晝食中其ノ標準トナルヘキモノナリ

- 月曜日 牛肉馬鈴薯ゴタ煮、附菜豆、肉掛汁。麵麩。バタード、ライス。
- 火曜日 青碗豆、野菜、ソップ。麵麩。ベークド、ジャム、ロークボリー。
- 水曜日 牧童<sup>シエフアト</sup>バイ又ハハヤシ肉、潰薯。麵麩。ベークド、ジンジャヤー、ブデン。
- 木曜日 ブラウン、ハリコツト、ソーブ及團子<sup>ダンプリン</sup>。麵麩。小麦粉ト果實スチュー。
- 金曜日 魚肉馬鈴薯バイ。隠元豆<sup>ハココトビシ</sup>。フランダゼリソース。麵麩。又ハ魚肉スチュート潰薯。

(牛羊ノ)固脂肪ブデン、ト糖蜜。

是等ノ晝食ハ兒童ノ集合スル該食堂ニ於テ調理セラル、モノニシテ最モ衛生的、滋養豊富、且ツ美味ナルモノヲ供ス、獻立ニヨリテ全ク肉類ヲ用ヒサル日ノ定メラレタルヲ知ルヘシ而シテ毎日ノパン牛肉、砂糖ノ平均量ハ各々一オンス半、一オンス四分ノ一オンスナリ

生理學上ヨリ見タル食物ノ價值、調理ノ主成分ハ蛋白質、脂肪、含水炭素ヨリ成ル、是等要素ノ各個人ニヨリテ要求セラル、量ハ男女ノ別、年齢、體重、筋肉運動ニヨリテ夫々異ナルモノナリ、兒童ニ對シテ如何ナル食制カ最モ完全アルヤノ問題ヲ考究スルニ當リテハ生ヲ維持シ得ヘキ蛋白質ノ最少限度ヲ論スルノ要ナク唯勞動階級ノ家庭ニ於ケル平均消費高ヲ思考スヘキナリ

種々ナル勞動者ノ經驗ト尙ホ最近大英國ノ食料品供給ノ研究ヲナシタル「ローヤルソサイチー」ノ委員ノ報告ニヨレハ國民ノ料食ノ要求ハ一〇〇グラム、ノ蛋白質、一〇〇グラムノ脂肪、五〇〇グラム含水炭素ヨ

リ少量ナル食物ノ供給ニテハ滿サルヘカラス、之レ即チ一人一日平均三、四〇〇カロリーナリ、學童ノ平均年齢ハ十歳ニシテ、如斯兒童ハ成人ノ食量ノ六割ヲ必要トス、故ニ換言スレハ蛋白質六〇グラム、脂肪六〇グラム、含水炭素三〇〇グラムヲ要スル譯ナリ

ウイルステン教育委員ニヨリテ支給セラル、晝食ハ毎日平均次ノ如シ、——二九グラム蛋白質、二五グラム、脂肪一〇〇グラム含水炭素、故ニ之ヨリ判スルニ家庭ニ於テ供セラル、食物ハ以テ三一グラムノ蛋白質、三五グラムノ、脂肪一九〇グラム含水炭素ノ缺陷ヲ補充セサルヘカラスアルヲ知ルヘシ、其ノ補充ハ次ノ如キ朝食、夕食ヲ供スルコトニ依リテ得ラル

- 朝 食 <sup>ポイフジ</sup> 粥二オンス、牛乳三オンス、砂糖一オンス、茶八分ノ一オンス、パン二オンス、人造バター(乳脂)半オンス
- 夕 食 ココア四分ノ一オンス、牛乳一オンス四分ノ一、砂糖半オンス、パン四オンス、人造バター(乳脂)半オンス

粥ハ廉價ナレトモ其ノ必要ノ度ハ余リニ重大視スヘカラス、而シテ脂肪ノ割合ヲ充分ナラシムルハ特ニ年少兒童ニ在リテハ肝要ノ事ニシテ往々食制中ニ脂肪少量ニ過ギタルカ爲メ營養不充分ノ疾病ニ罹ル者多シ補助金並ニ食事ノ數、——ウイルステンニ於テ支給セラレタル食事ノ數ハ各年中次ノ如シ、一九一四年中、二三六、四六五、一九一五年中一七九、〇五八、一九一六年中六八、二七六、一九一四年中ノ食料ニ對

スル平均價額ハ一食ニ付ス一片半、一九一五年中二・二片、一九一六年中三片。教育省ヨリ受ケタル補助金ハ一九一四年中、九七六磅、一九一五年中一、四六一磅、一九一六年中一、一三四磅、ニシテ何レノ場合ニ於テモ全經費ノ五割ハ政府ノ補助ヲ得タルナリ

兒童ノ選定

如何ナル兒童モ食事ナクシテ在ルヘキニアラサレハ教頭或ハ食堂ノ監理者ニ申シ出テタル兒童ハ何レモ食事ヲ支給セラル、カクテ食堂名簿ニ加入セラレタル者ハ之レヲ研究シ家庭ノ經濟狀態ヲ調査シ兒童ノ身上ニ表ハレタル營養ノ不充分ノ徴候ニ周到ノ注意ヲナス、而シテ若シ家庭ノ經濟狀態カ教育者ニ於テ定メタル限度ヨリ以下ニ降ル時ハ兒童ハ名簿中ニ記入サレ、若シ其ノ狀態定數ノ上ニ出テ審査員(訓練サレタル看護婦)カ兒童ノ營養充分ナリト認メタル場合ニ於テハ名簿中ヨリ抹殺ス、若シ又之ニ反シ看護婦ノ意向營養不良ナリトスルトキハ之レヲ名簿中ニ留ムヘキヤ否ヤニ關シ醫務官ニ照會スルモノトス  
此等ノ方法ハ兒童ヲ食堂名簿ヨリ轉移スルニ先チ其ノ營養ノ狀態ニ關シ充分ナル審査ヲナサシムルモノニシテ、之レ實ニ重要ノ事タリ、即チ間々兒童ハ食物ノ缺乏ヨリモ寧ロ食物供與ノ方法不適當ナルカ爲メニ病メル者アルナリ、サハ云ヘ通常家庭ノ經濟狀態ヲ以テスル時ハ食事支給ノ必要アリヤ如何ノ度ヲ計ルニハ確カナル尺度タルナリ

學校ニ於ケル食事支給ト經濟狀態——既ニ記述シタル食事支給ノ數ニヨル時ハ戰爭中大イニ經濟狀態ノ進歩ヲ致シ支給ヲ要スル兒童漸次減少シタルカノ如ク見ユレトモ、之レ決シテ然ラス、減退ノ主因ハウイリスデンニ於テ兒童ニ對シテ支給セラル、食事ノ定限ハ戰爭前ニ在リテハ一週平均一家内一人宛三志ナリシヲ一九一五年四月十四日ニハ三志六片ニ上シ之レヲ一九一六年十二月六日迄繼續セリ而シテ其ノ時ウイリスデン教育委員ハ更ニ一層標準ヲ高クセシニアルナリ  
一家内一人宛ノ經濟狀態ハ家族數ニ分割シテ收入カ支出ヨリモ小ナルモノト定メタリ  
收入ハ次ノ如キ項目ニヨリテ計算ス

- (イ)賃銀——(一)兩親又ハ後見者ノ一週間ノ收入、但シ四週間平均ニヨル
- (二)十四歳以下ノ兒童ノ儲金

(ロ)寄宿人——十四歳以上ノ兒童ニシテ働ク者ハ之ヲ寄宿人ト做ス

寄宿人ヨリノ收入ハ之ヲ次ノ如キ標準ニヨリテ算入ス

寄宿人ヨリ受取ル一週間ノ支拂	收入トシテ算セラル、割合
八志及八志以下	〇
八志以上十志迄	一割
十志以上十二志六片迄	一割五分
十二志六片以上	二割

此支拂ハ現下(一九一七年三月)餘リニ廉ナリ——(ジヨージ、ニス、ヴェーケン)

(ハ)賃料——全額ヲ收入ニ算入ス

支出ニ含まル可キモノ、(イ)家賃、(ロ)保険料、(ハ)仕事場往復賃金

(ニ)兒童手當

家庭ニ於ケル員數ハ兩親又ハ後見者又ハ長姉ニシテ家族ノ世話ヲナシ他ニ仕事ニ從事セサルモノ及十四歳以下ノ兒童ヲ以テ數トナス

兒童ノ養育(維持)——家賃及保険料ヲ離レテ十歳ノ兒童ノ維持ハ次ノ如キ項目ニヨル

(一)食物、(二)燈火及燃料、(三)衣服、(四)雜品——寢具、洗濯、清潔、瀬戸物、家具等ヲ含ム

食費——上記ノ如クウイルスデン教育官ニ於テ支給セラル、晝食ノ經費ハ食料品ノミニテ一九一六年中ノ平均ハ三片ニシテ而カモ價額ハ漸次高上シツ、アルナリ、又上ニ掲ケタル朝、夕食ハ必然生理上身體ニ要求セラル、所ヲ満足セシムル基礎的ノモノナルカ當時ノ價額ハ四・三片ナリ、是ニヨリテ見ルニ十歳ノ兒童ノ一週ノ食物ノ費用ハ四志三片トナル

燈火、燃料及衣服其他雜品ノ費用——此等項目ニ付キ一人ニ對スル平均經費ヲ算出セン目的ヲ以テ余ハ學校ノ食事支給ヲ受クル者ノ家庭ノ數多ニ對シ調査ヲ開始セリ、勿論夫等家庭ハ決シテ特別ノ選擇ヲナシタルモノニ非ス、其ノ結果ニヨレハ家庭ニ於ケル一人一週中ノ燈火及、燃料ノ平均價格ハ夏季ヲ通シテ七片、冬季ヲ通シテ九片ニシテ之レヲ一ケ年間ノ平均ニセハ八片ナリ、十歳ノ兒童ノ一週間ノ衣服費ハ平均三片

ニシテ一週一人ノ雜品費即チ寢具、洗濯、清潔、瀬戸物、家具等ノ爲メニ費サレタルモノハ平均三片ナリ

兒童養育(維持)費——此如クナルヲ以テ現時、一九一七年三月、ニ於ケル十歳ノ兒童ノ維持ニ要スル一週間ノ經費ハ家賃、及保険料ヲ除キテ次ニ示セルカ如シ

種類	價格
食料	四・三片
燈火及燃料	〇・八、
衣服	一・三、
雜品	〇・三、
計	六・五、

ウイルスデン教育官ヨリ食事支給ヲ受クル者ノ家庭ニ於ケル全收入ト別居手當トノ對照——右ニ關スル比較數ニ就テハ余之レヲ算シテ後ニ表ヲ以テ示セリ

ウイルスデン教育官ノ學童ニ對シテ支給スル食事ノ經費標準ハ一九一六年九月及十一月ノ報告ニヨリ余ノ推進ヲ採用セラレタリ、其ノ後者ト今日ノ物價トヲ對照スルニ今日ハ余リニ低廉ナリ故ニ表中(六)欄ニ示ス全收入ヲ定ムルニハ宜敷訂正ヲ要スヘシ